

特 214

609

第三回產業共進會誌

始



特214  
609

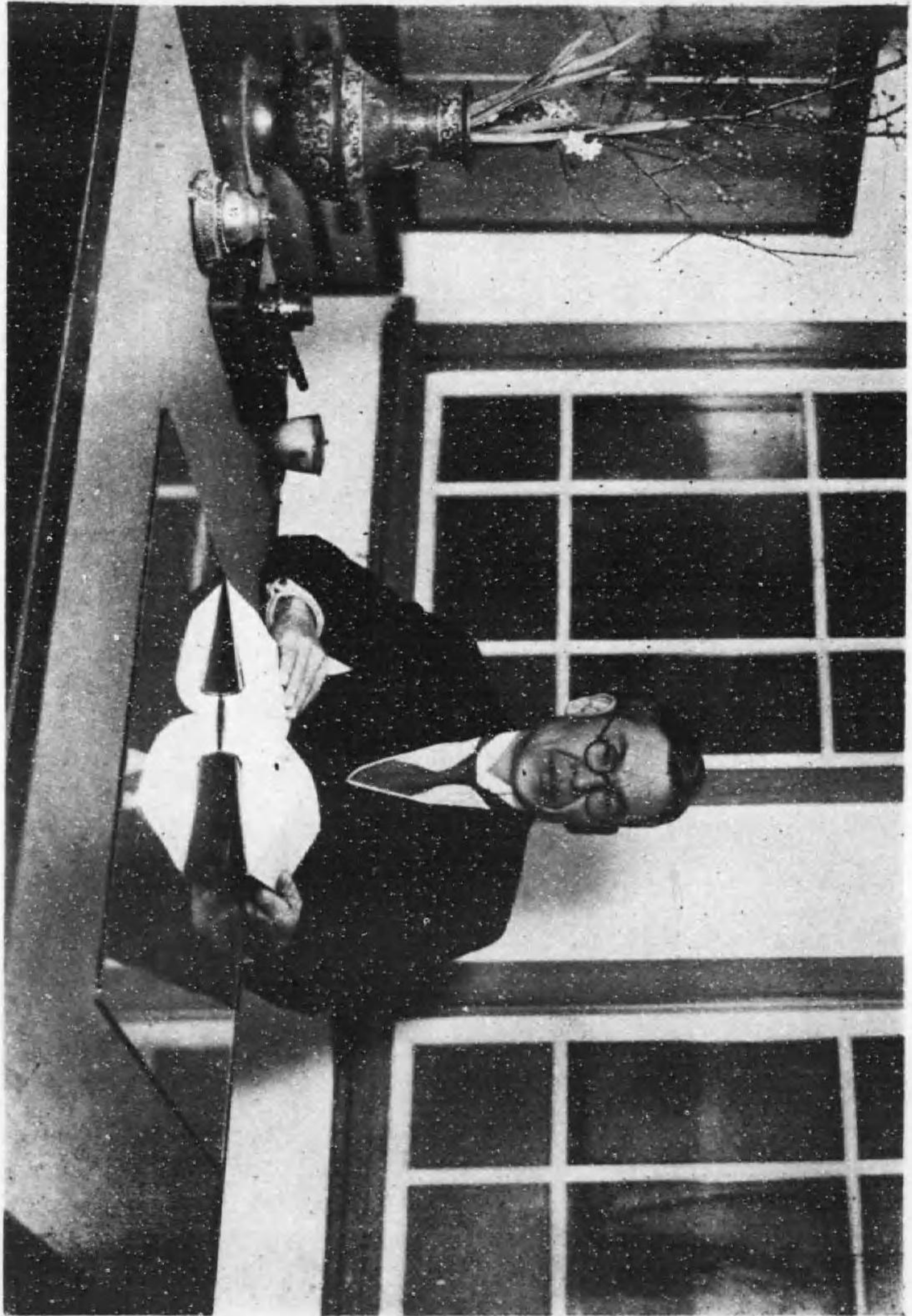


昭和十二年五月

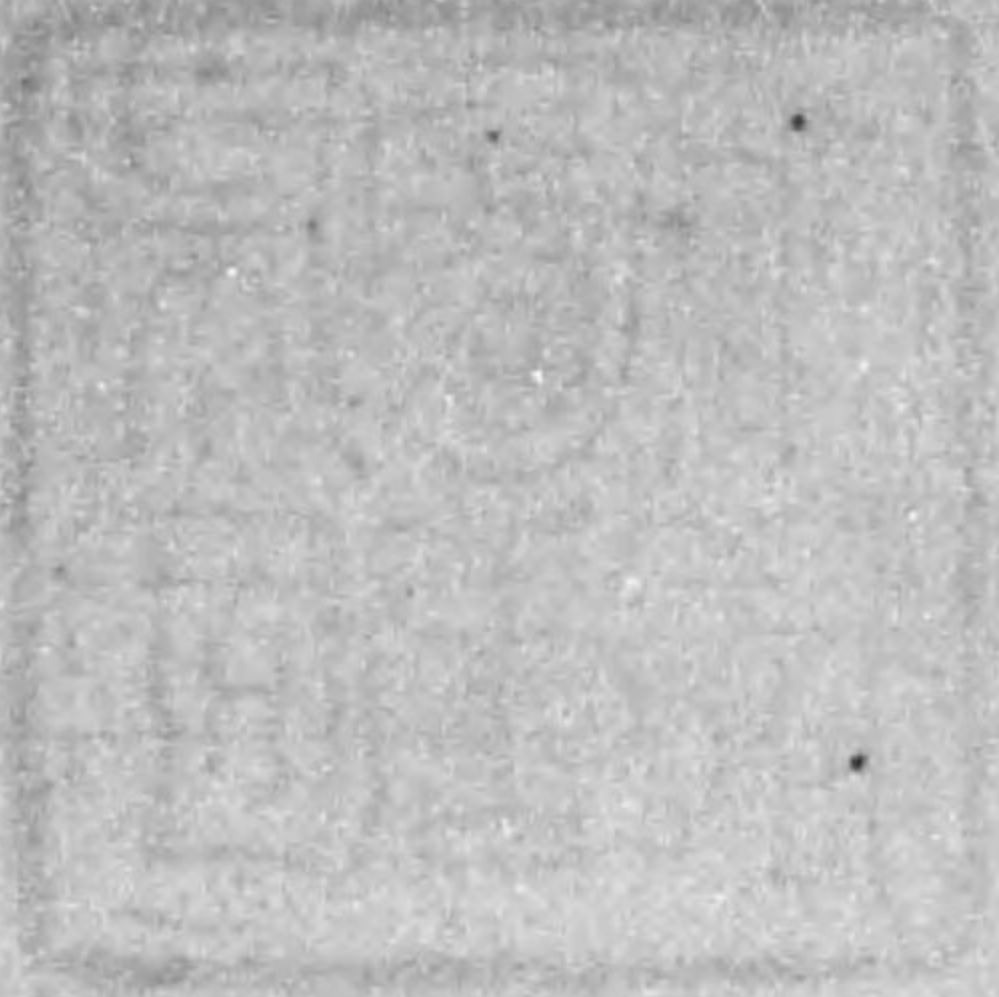
第二回産業共進會々誌

小田郡南部十四ヶ町村農會





氏夫信谷森 長會農町岡笠 長會





副會長  
大井村農會長 藤原脩三氏



事務長  
笠岡町農會技手 黒田常五郎氏



副會長  
今井村農會長 小寺次平氏



審査員  
岡山縣農産物検査所笠岡支所長  
山本八郎平氏



審査員  
岡山縣畜産組合聯合會  
技師岸田  
鑽氏



審査長  
岡山縣農林主事  
渡邊龍一氏



審査員  
岡山縣立農事試験場  
技手角谷太郎氏



審査員  
岡山地方專賣局玉島出張所  
技手大月  
豊氏



顧問  
小田郡農會長 平井貞五氏



顧問  
小田郡畜産組會長 藤井雅夫氏



顧問  
等岡町長 嶋田養輔氏

小野 技手  
(畜産組合)

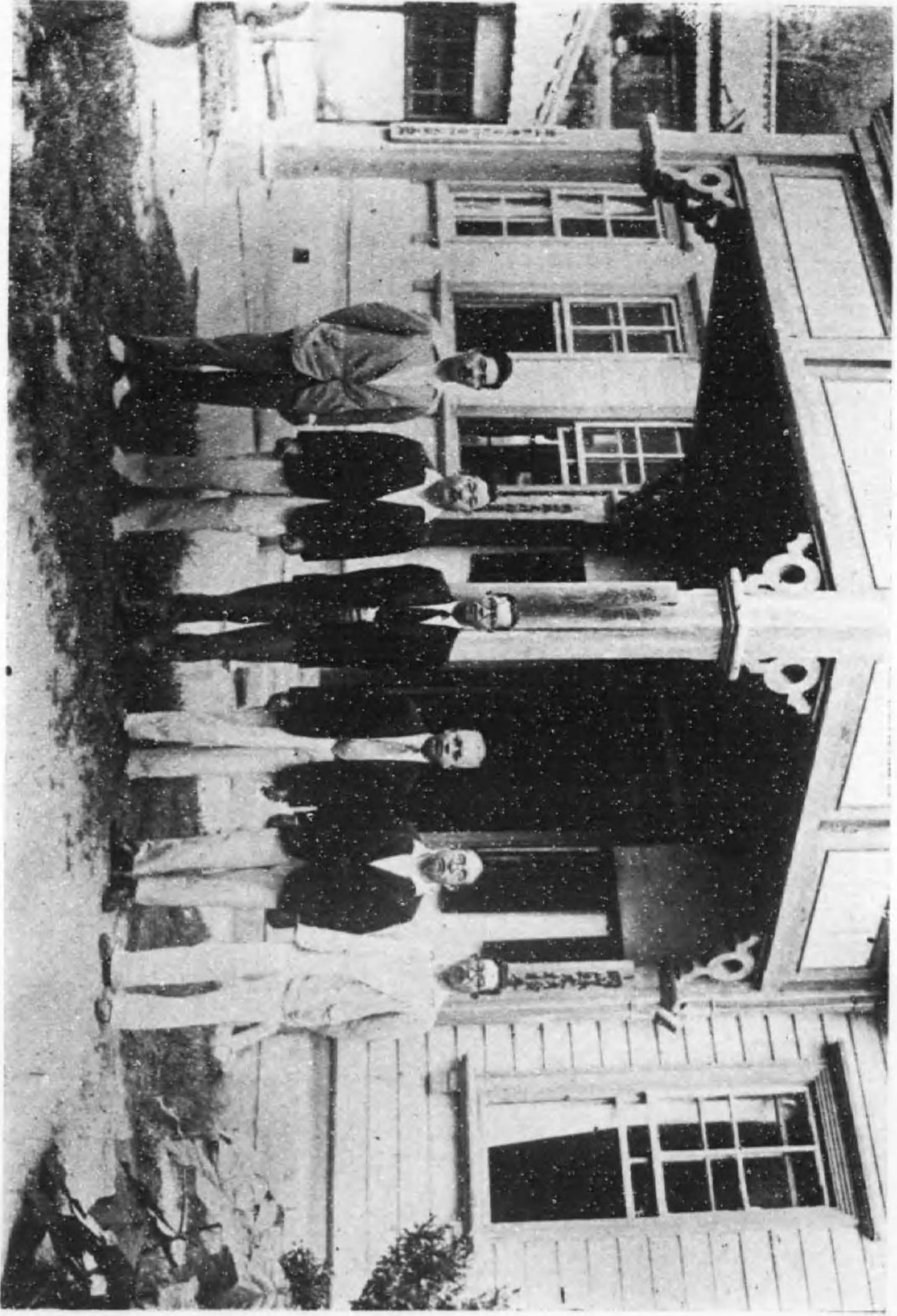
花本 技師

平井 會長

小川 幹事

藤原 技手

篠原 技手



小 櫻 村 年  
(音 惠 隆 合)

芥 本 村 祐

平 井 會 員

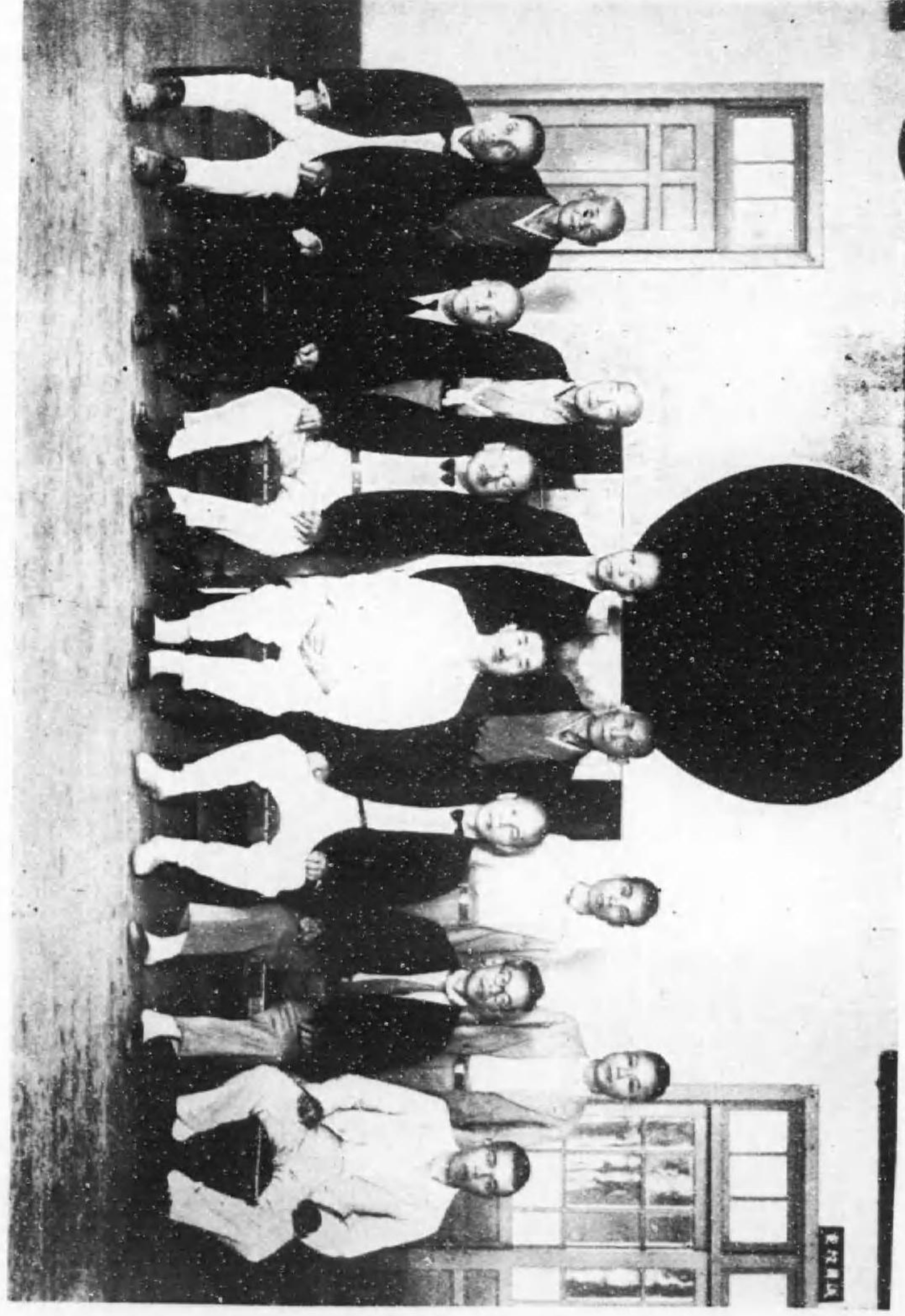
小 川 幹 事

藤 原 村 年

齋 原 村 年



神島内村農會副會長 東 本二氏  
 城見村農會長 松浦 昇氏  
 北木島村農會長 牧野長四郎氏  
 眞鍋島村農會長 山下嘉壽大氏  
 大江村農會長 大塚勝正氏  
 今井村農會長 小寺次平氏  
 金浦町農會副會長 佐藤芳松氏  
 稻倉村農會長 妹尾庄一耶氏  
 新山村農會長 津島喜平二氏  
 陶山村農會長 岡田九一氏



網川 式一 氏  
 岡山林業會社  
 野島 喜平二 氏  
 藤山林業會社  
 森 昌 五 一 順 氏  
 備前林業會社  
 小寺 次平 氏  
 今井林業會社  
 大塚 親五 氏  
 大井林業會社  
 山手 嘉壽大 氏  
 真砂林業會社  
 笠岡 興 四 順 氏  
 吉田林業會社  
 吉田 宗一 氏  
 吉田林業會社  
 森 谷 前 夫 氏  
 笠岡興業會社  
 野 部 良 氏  
 野部林業會社  
 東 本 二 氏  
 備前林業會社

空岡町小寺市雄氏

金浦町農會技手

河合 優 氏

空岡町農會技手

黒田常五郎 氏

吉岡村農會技手

山縣 庄一 氏

今井村農會書記

阿部 金一 氏

大江村農會技手

江本 弘士 氏

神島内村農會書記

長安 凱吉 郎 氏

城見村農會技手

小西 樫夫 氏

大井村農會技手

片山 龜久男 氏

新山村農會技手

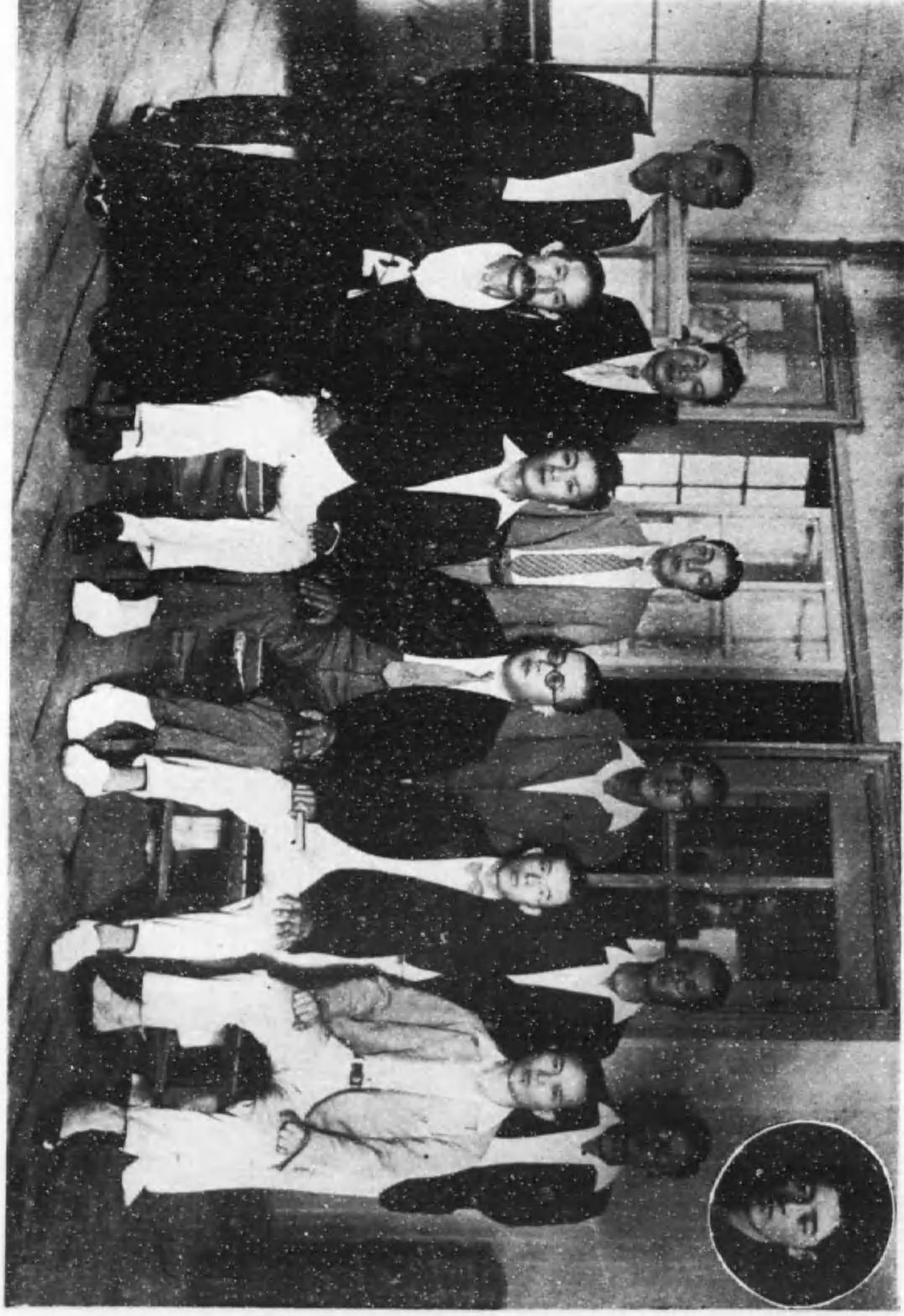
龜岡 源 氏

神島外村農會

武正房五郎 氏

煙草聯合組合指導員

片岡 一雄 氏



中岡一樹 氏  
 岐阜聯合聯合誌委員

藤岡 高 氏  
 藤山林業會社社長

小西 勲 夫 氏  
 岐阜林業會社社長

乃本 尚 士 氏  
 大井林業會社社長

山 耕 丑 一 氏  
 吉田林業會社社長

所 合 勲 氏  
 金瓶林業會社社長  
 笠岡小幸市親 氏

角五郎正順 氏  
 福島林業會社

中山 藤 八 民 氏  
 大井林業會社社長

長 茂 禮 吉 順 氏  
 福島内林業會社社長

岡 路 金 一 氏  
 金井林業會社社長

黒田 常 正 順 氏  
 笠岡林業會社社長

笠岡町 小野 博 氏  
岡山縣參事  
同業組合検査員  
平井正一 氏

笠岡町書記補  
小田 堅 順 氏  
笠岡町收入役

笠岡町書記 小野 政 章 氏  
采女 國 男 氏  
笠岡町書記

笠岡町書記 大橋 真 氏

笠岡町

大津芳太郎 氏

笠岡町書記

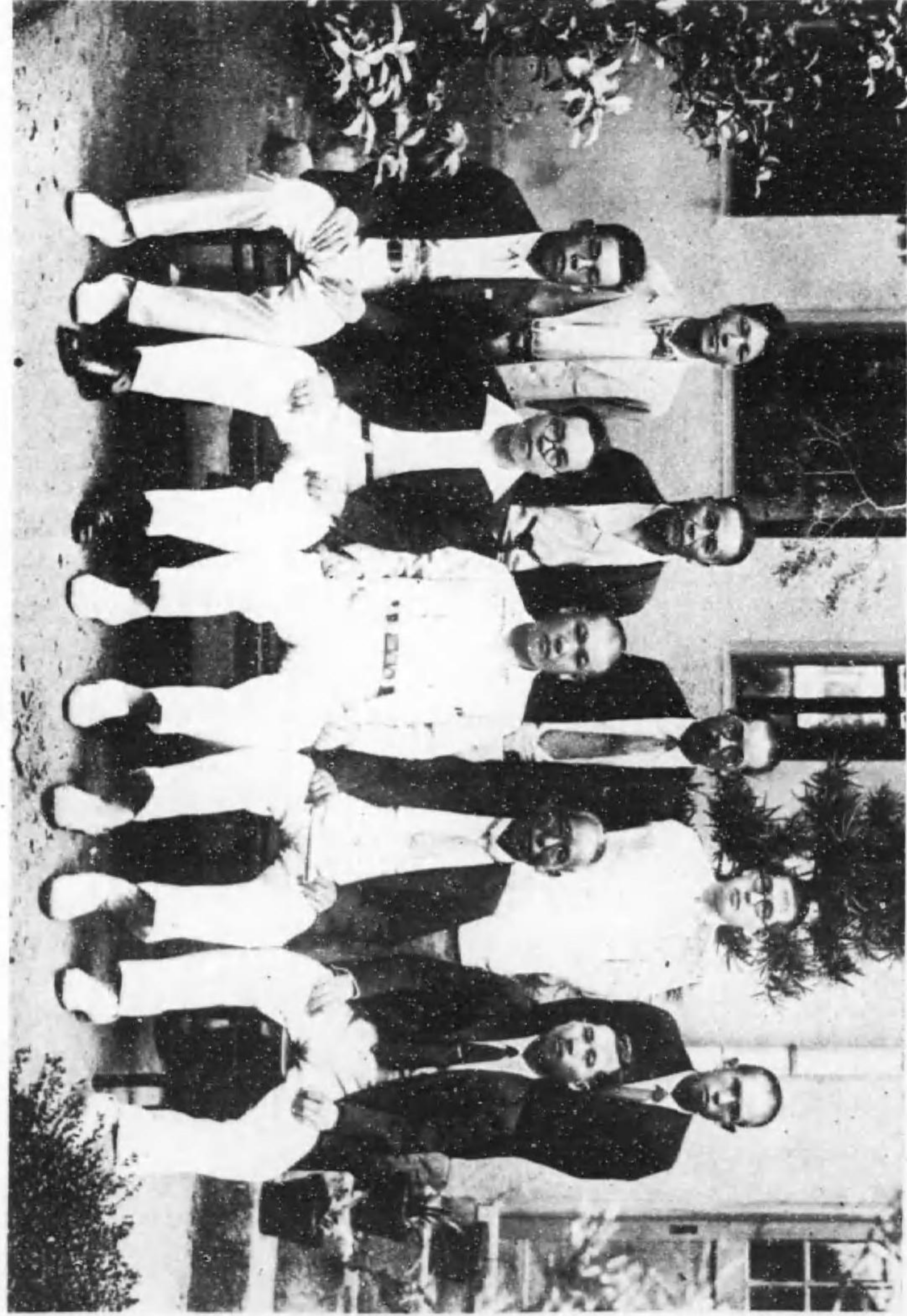
山田 真 男 氏

笠岡町書記

青山 敏 雄 氏

笠岡町書記補

小林 義 郎 氏



空 岡 伊 初 丸 平 井 五 一 丸  
 同 業 協 合 會 查 員  
 岡 山 縣 警 署 員

空 岡 伊 初 丸  
 小 田 聖 順 丸  
 空 岡 伊 初 丸  
 小 徑 輝 章 丸  
 空 岡 伊 初 丸

空 岡 伊 初 丸  
 采 文 國 民 丸  
 空 岡 伊 初 丸  
 大 辭 貞 丸  
 空 岡 伊 初 丸

空 岡 伊 初 丸  
 大 辭 義 大 順 丸  
 空 岡 伊 初 丸  
 山 田 貞 民 丸  
 空 岡 伊 初 丸

空 岡 伊 初 丸  
 青 山 謙 赫 丸  
 空 岡 伊 初 丸  
 小 林 義 順 丸  
 空 岡 伊 初 丸

「第 二 回 産 業 共 進 会」

会期 五月一日より五日  
 会場 笠岡町  
 主催 水田郡南部生協

印刷 妙宝堂印刷

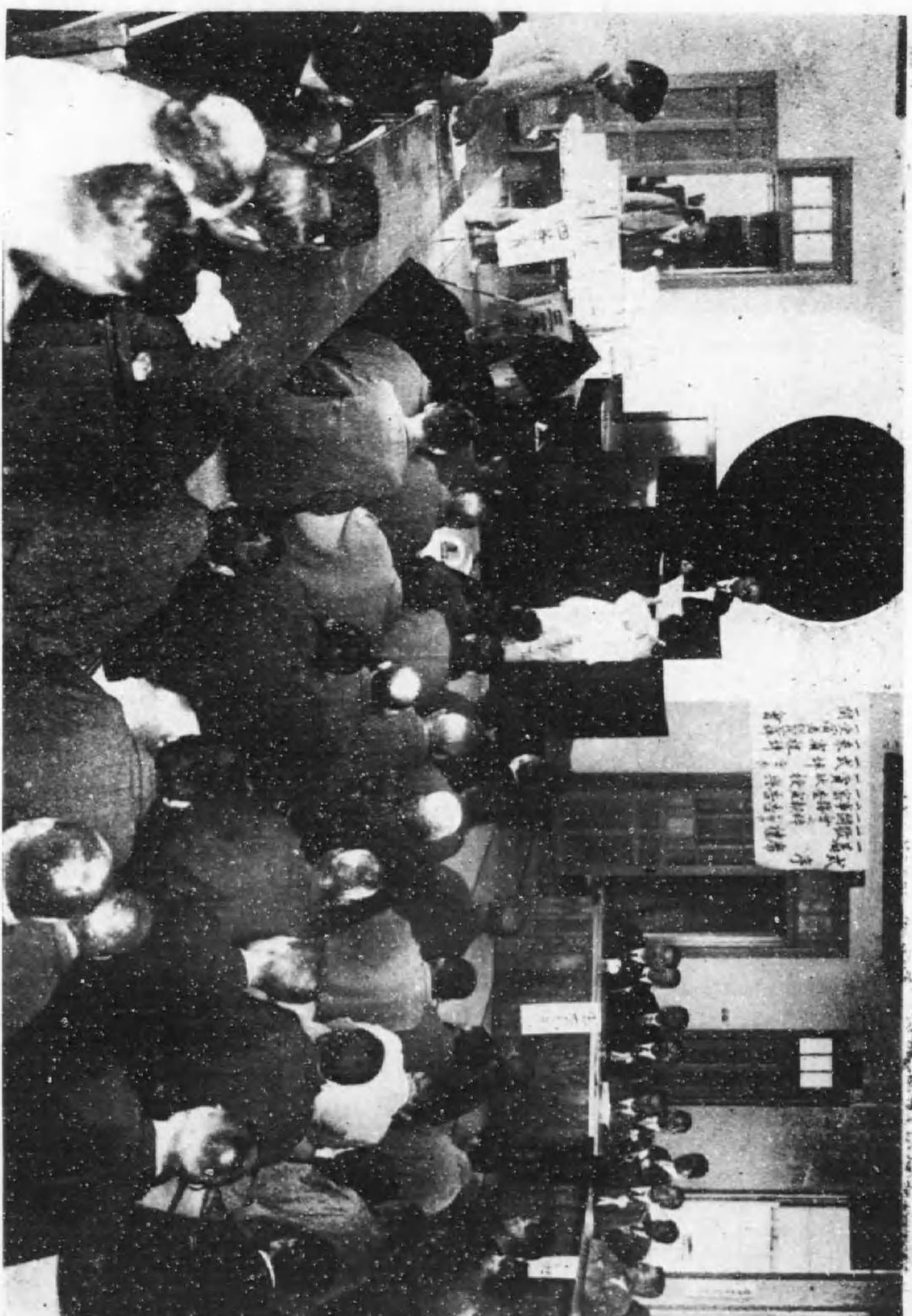
XCJ KW...

一本ポスタ

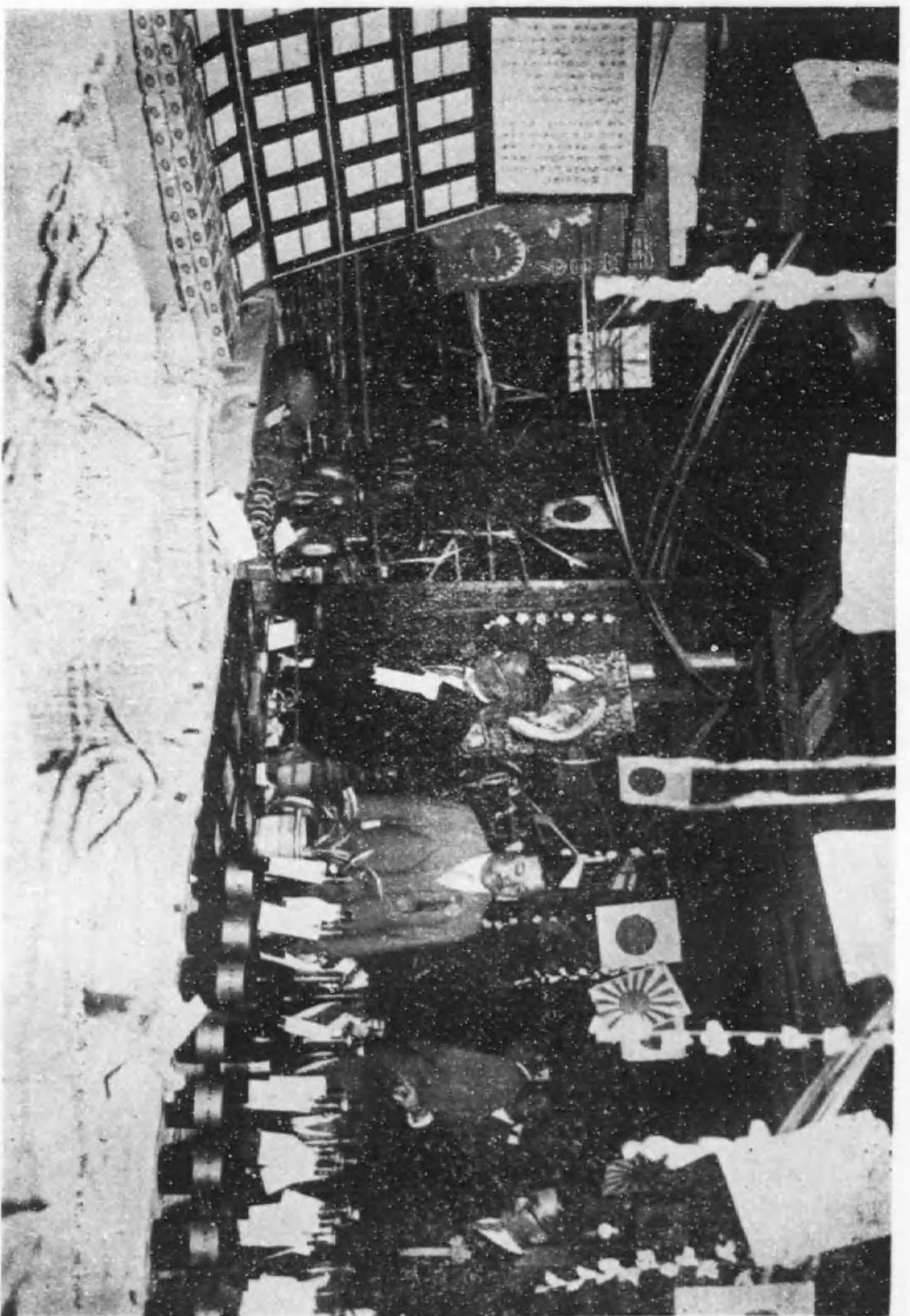


開會紀念攝影





賞狀授與式



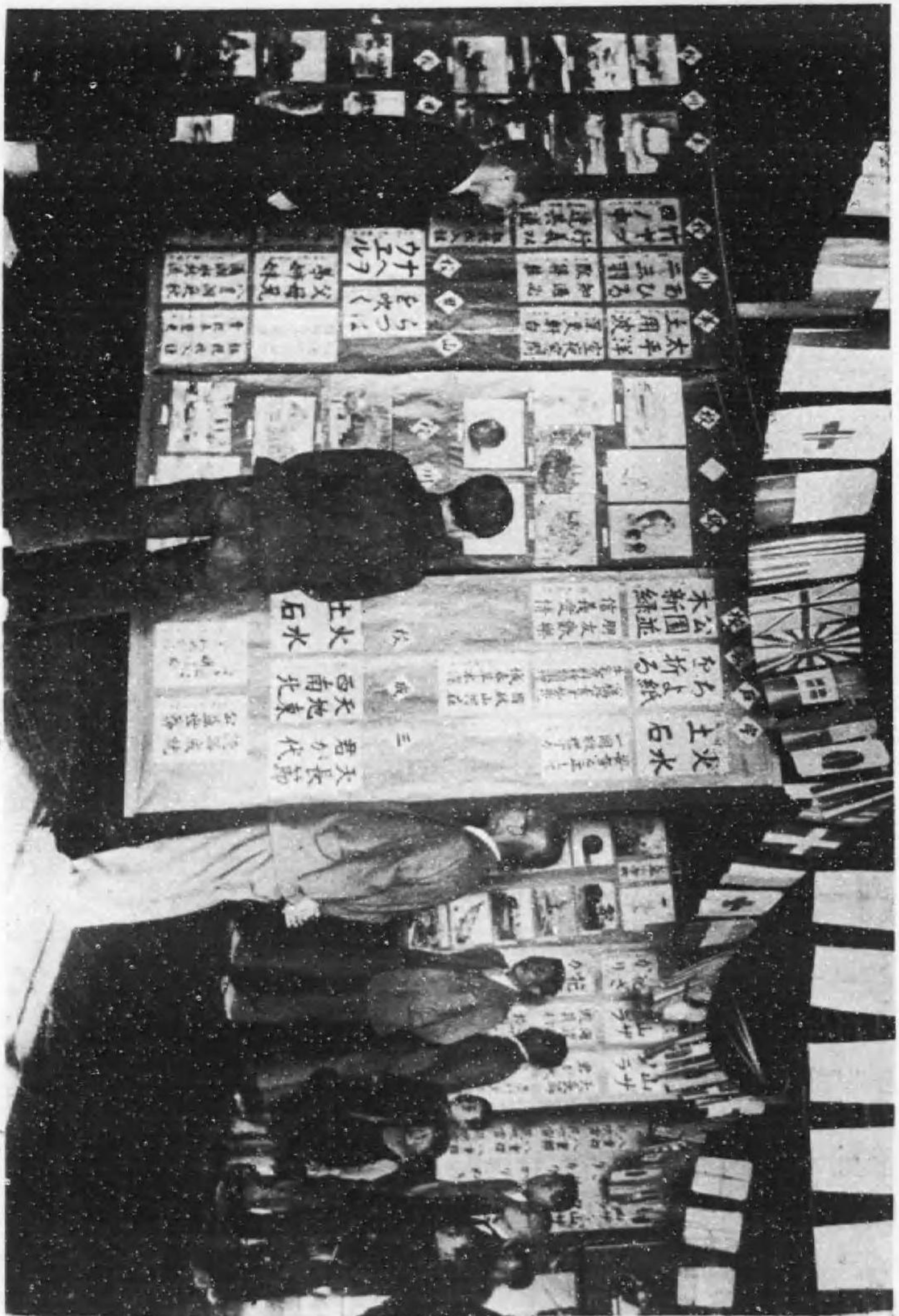
第一會場 (一)



第一會場 (二)



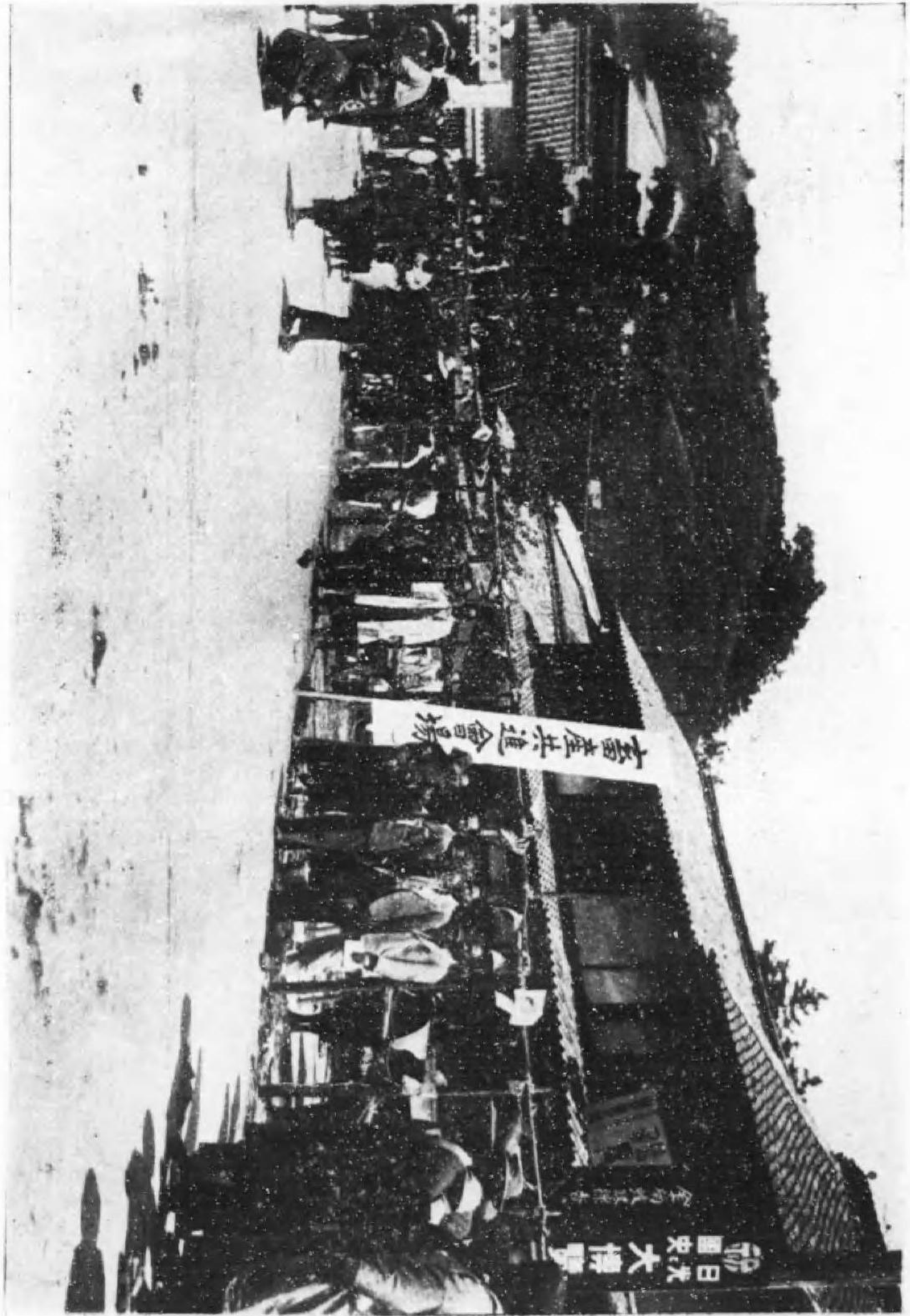
第一會場(一)



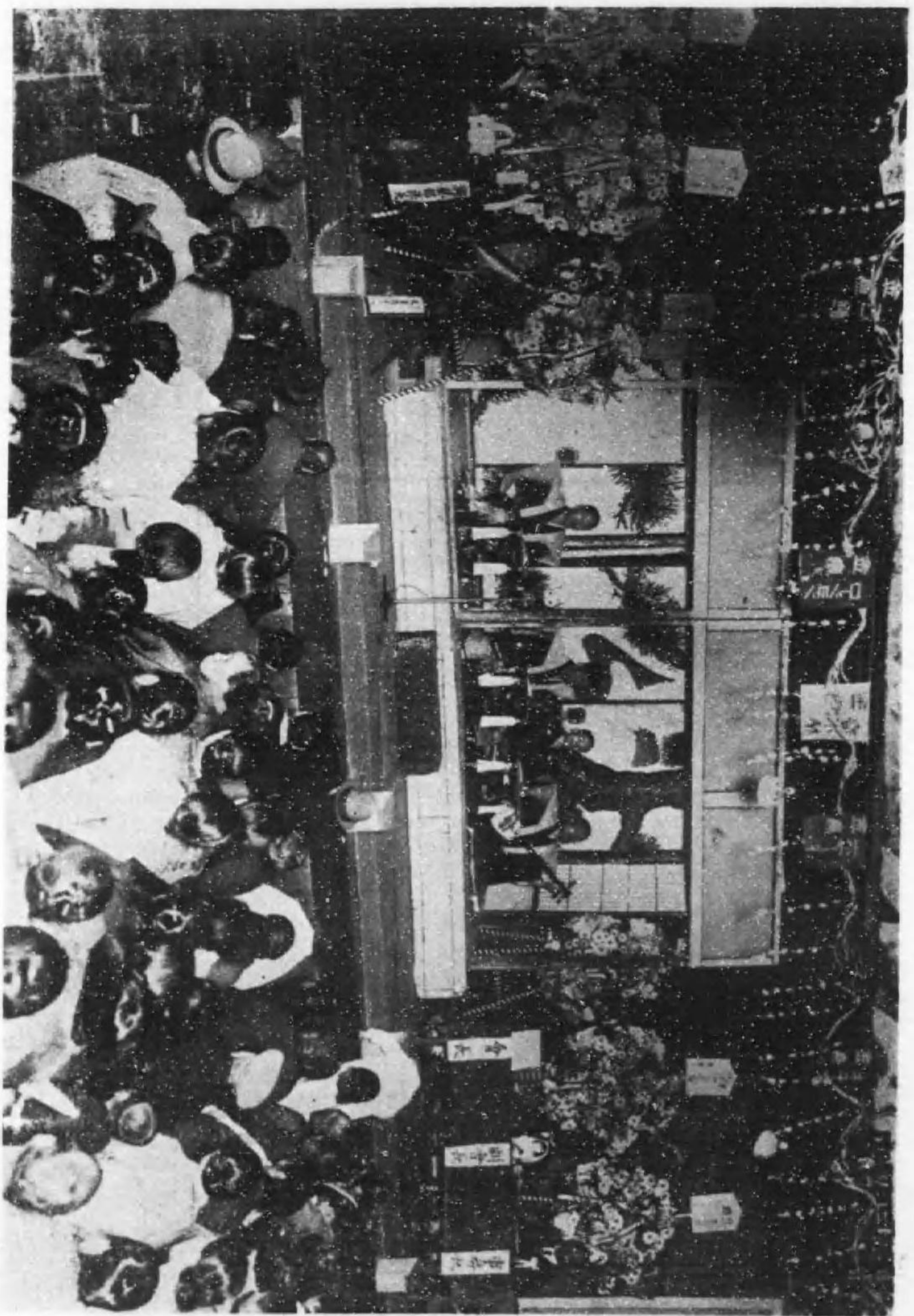
第 二 會 場 (二)



麥科眞田鏡技場



畜產共進會場

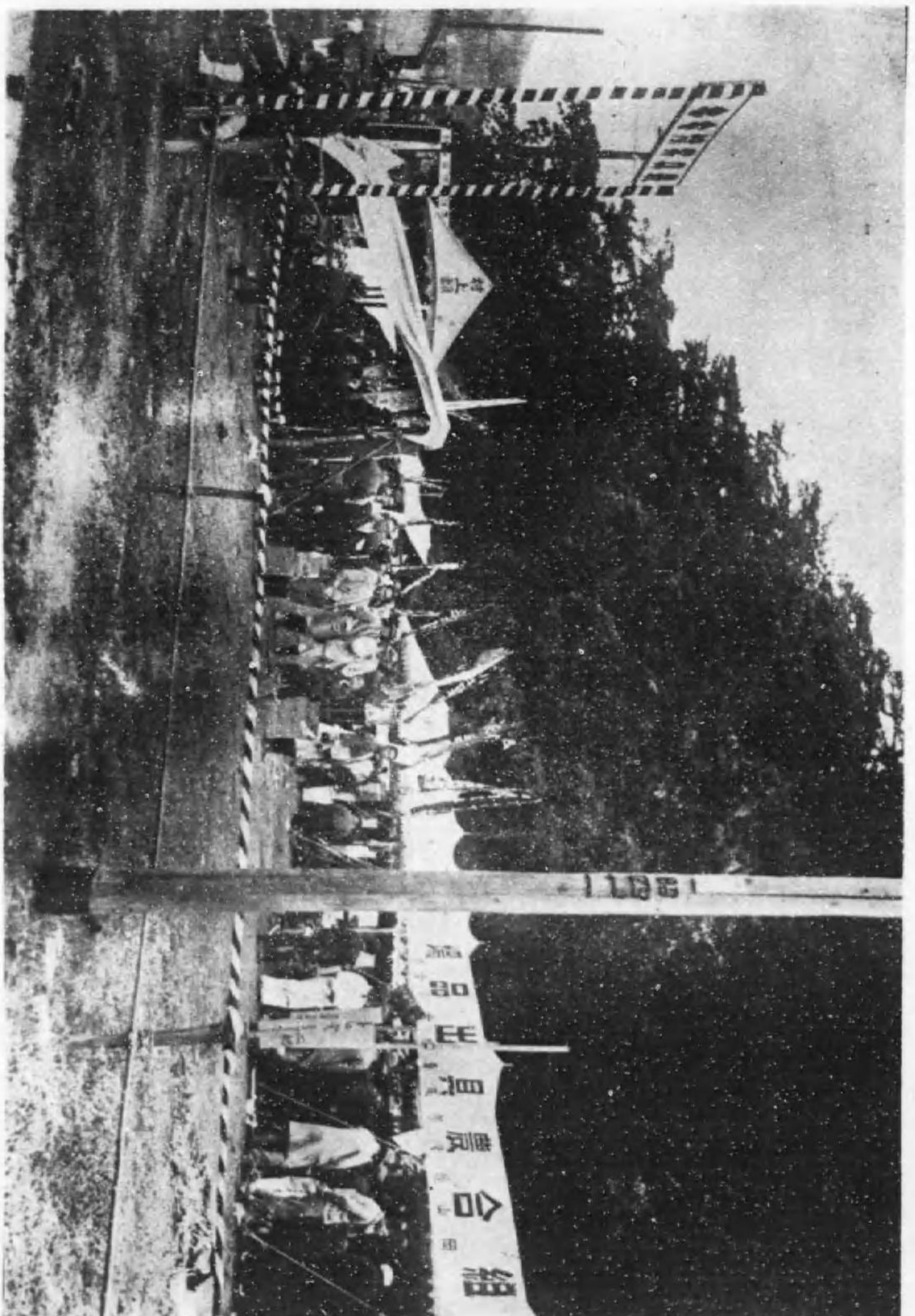


(一) 會大表發藝演人新



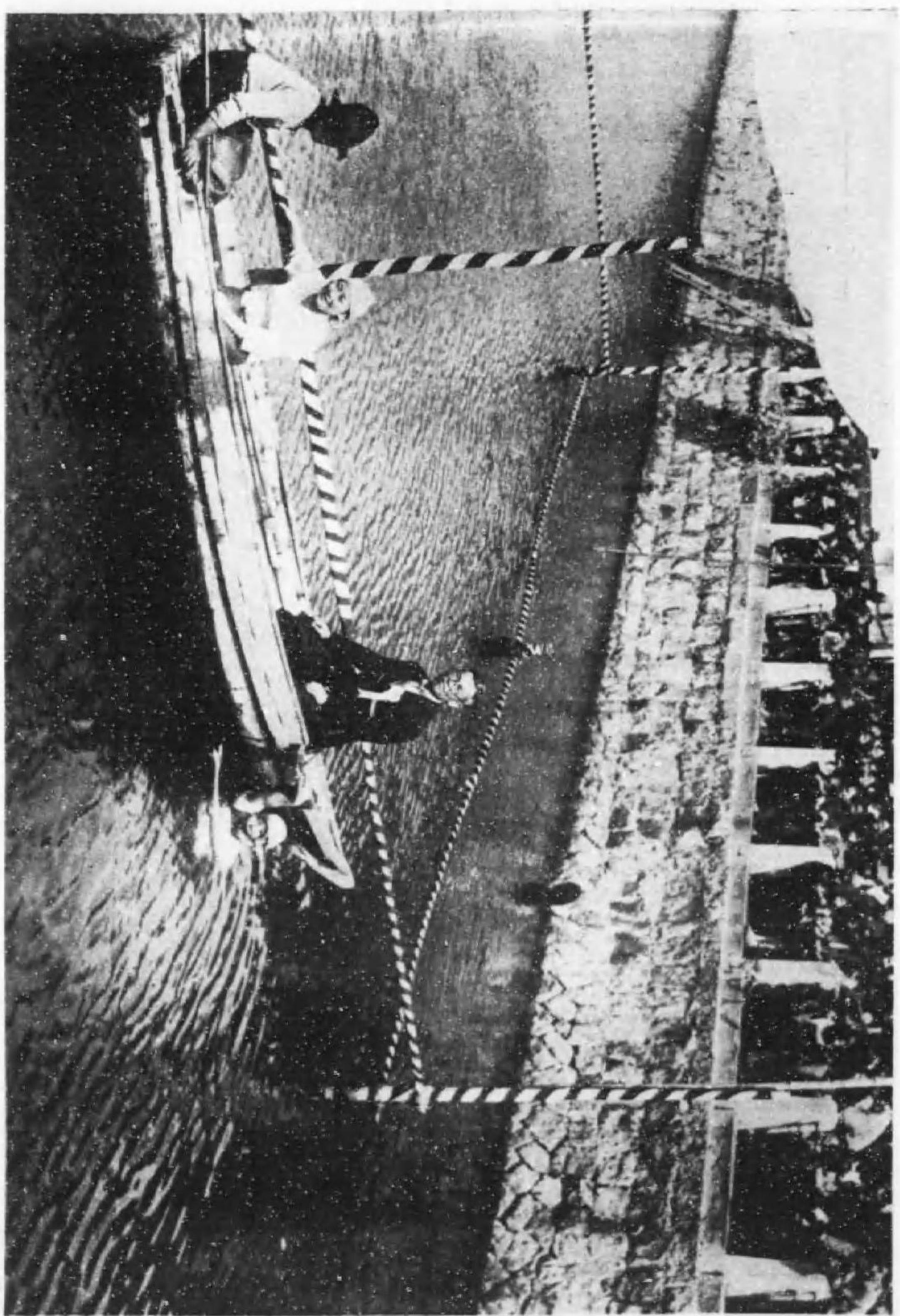


(二) 観席の會大表發藝演人新



農具實演場

海女實演場



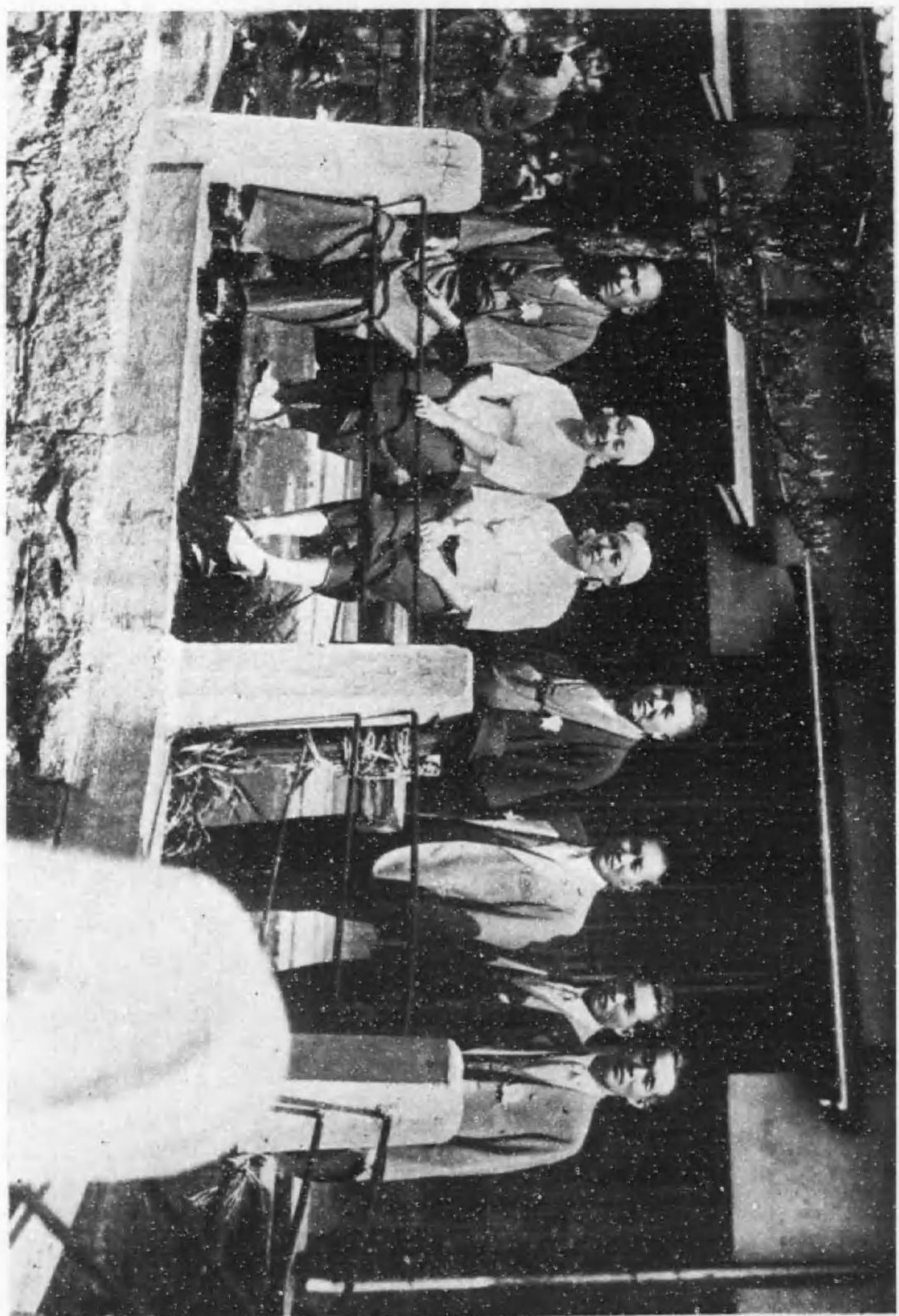
空阿漁業組合理事  
中山戸三郎氏

空阿町  
大津芳太郎氏

空阿漁業組合理事  
中岡豊次郎氏

空阿町農會技手  
黒田常五郎氏

空阿漁業組合  
辻 胸太郎氏



出演海女 (右) 山際倭子 (左) 喜多花子

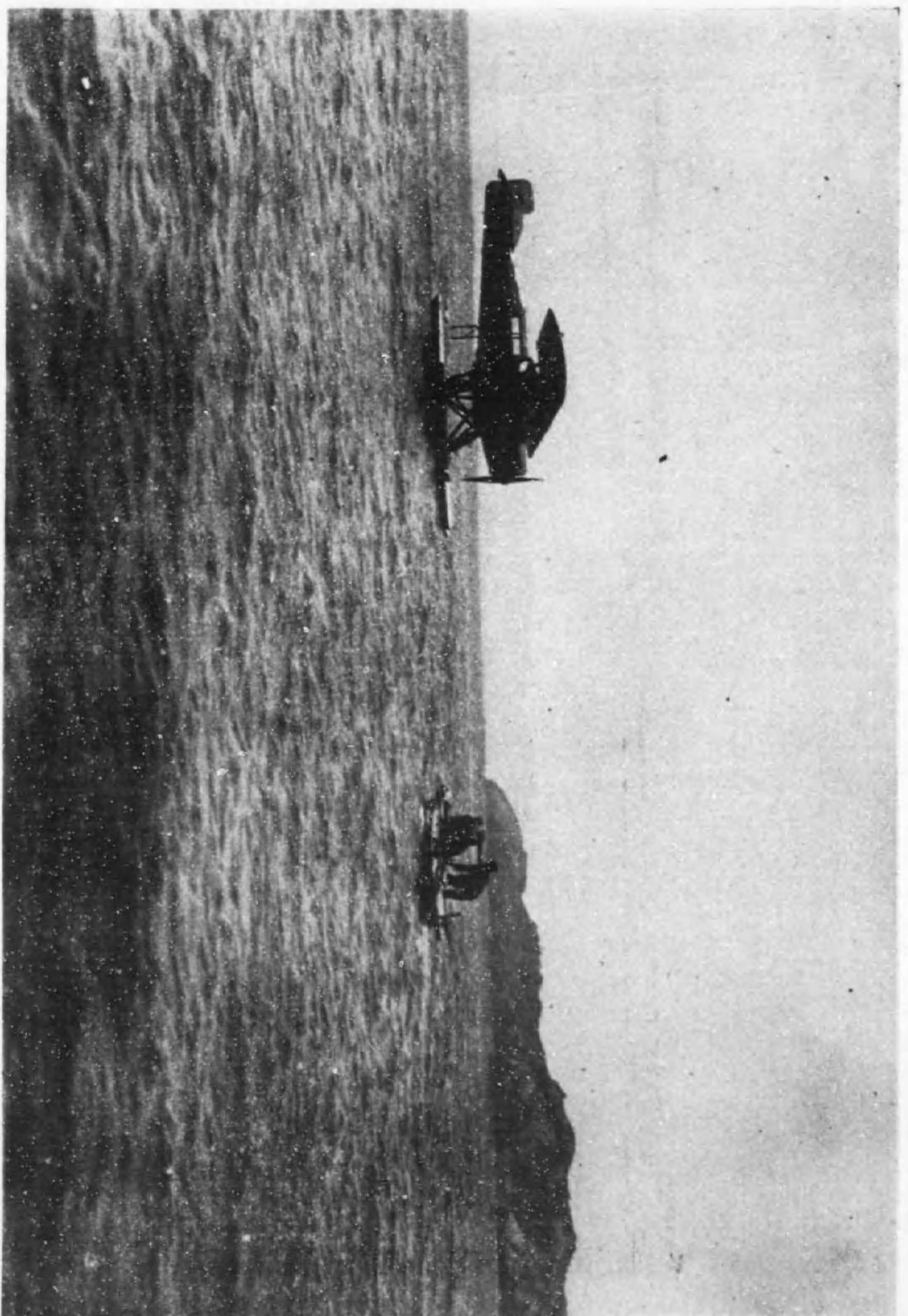
中山貞三 演 丑  
 空岡産業株式会社

大崎義太 演 丑  
 空岡 演

中岡豊次 演 丑  
 空岡産業株式会社

黒田常正 演 丑  
 空岡 演 相手

長 徳 演 丑  
 空岡産業株式会社



行 飛 覽 遊

目

次

|     |           |    |
|-----|-----------|----|
| 第一章 | 開會經過      | 二  |
| 第二章 | 會則及役員     | 三  |
| 第一節 | 會則        | 三  |
| 第二節 | 役員        | 七  |
| 第三節 | 顧問        | 八  |
| 第四節 | 小田郡農會關係職員 | 九  |
| 第五節 | 關係町村農會長   | 九  |
| 第三章 | 經費豫算      | 一〇 |
| 第四章 | 開會の準備     | 一一 |
| 第一節 | 開催要領の決定   | 一一 |
| 第二節 | 事務分掌      | 一一 |
| 第三節 | 出品        | 二二 |
| 第四節 | 寄附募集      | 六八 |
| 第五節 | 會場の決定     | 七〇 |
| 第六節 | 宣傳其他      | 七一 |

|     |            |    |
|-----|------------|----|
| 第五章 | 會場         | 七二 |
| 第一節 | 第一會場 農產物館  | 七二 |
| 第二節 | 第二會場 教育參考館 | 七三 |
| 第三節 | 第三會場 海女賞演場 | 七四 |
| 第四節 | 麥稈眞田競技場    | 七五 |
| 第五節 | 畜牛共進會場     | 七七 |
| 第六節 | 農具實演場      | 八〇 |
| 第七節 | 新人演藝發表大會   | 八三 |
| 第六章 | 開場式        | 八五 |
| 第七章 | 審査         | 八六 |
| 第一節 | 審査員        | 八六 |
| 第二節 | 審査員        | 八六 |
| 第八章 | 賞狀授與式      | 八七 |
| 第九章 | 會期中の狀況     | 八七 |
| 第十章 | 經費決算及殘務整理  | 九一 |

## 緒言

會長 森 谷 信 夫

本郡は本縣の西部に位し氣候溫暖にして人煙稠密文化大に進み交通至便にして、水陸各種の物産極めて豊富なるものあり。

本會は曩に昭和九年五月小田郡南部町村農會聯合第一回産業共進會を開催し非常なる好成绩を以て終了したり。爾來年を経る事茲に四星霜、本郡南部の状態は米、葉煙草耕作等の新産業も加へられ、其發展進歩は誠に躍進的なるものあり、茲に於て再び本共進會を開催し本郡南部の産業を一堂に集め、採長補短以て當業者の参考に資し、地方産業振興の指針たらしめんことを決意し、加ふるに今回は新に一般小學校兒童に對し産業思想普及の目的を以て教育參考館を新設し、尙忘却せられたる農村藝術を振興し廣く農村娛樂を喚起せしむるの意に於て新人演藝發表大會を開催して隠れたる農村藝術家を紹介し、次に航空思想宣傳の爲に廣島縣佐伯郡鼓ヶ濱飛行場より遊覽飛行機を招聘し本共進會の聲價を一段と有意義ならしめ、更に漁業思想の宣傳と婦人勤勞精神を高調せしめんが爲に、遠く三重縣より海女を出場せしめ共進會觀覽者のために一段の興趣を加へると共に、本邦特有の婦人海底作業の何物たるかを知らしめたり。

斯くして諸行事は豫定の如く進涉し期間中關係町村は申すまでもなく、本郡は勿論、後月淺口兩郡及廣島



縣深安郡方面よりの觀覽者約十六萬人を算したり。經費豫算の如きも當初壹千五百五拾圓を計上せるに收支決算に於ては其の倍額に近き參千餘圓に達し非常なる好成绩を收めて閉會し地方産業發展の爲に裨益する處蓋し甚大なるものありたりと信ず。

## 第一章 開會の經過

抑々本共進會は昭和十一年十一月二十五日關係町村農會長協議會に於て其の開催を計劃せられたるなり。同日關係町村農會長全員は笠岡町役場に出席して諸般の計劃を協議決定し尙小田郡農會よりは小川幹事花本技師出席せられ種々開催計劃に關する御懇篤なる御指導をせられたり。

當日の會議に於て滿場一致開催に決定し共進會事務所開催期日、開催場所、經費豫算、役員、顧問等を決定したり。越へて十二月十五日笠岡町役場に於て關係町村農會職員協議會を開催し、共進會規程、出品割當、會場、其他必要なる事業計劃等を決定したり。當日は本郡農會小川幹事、花本技師、篠原技手、岡本技手、郡畜産組合聯合會小野技手、安達技手の出席を乞ひ種々開催計畫上の指導を受けたり。

斯くて直ちに會長は關係町村農會職員其他に對し事務委員を囑託すると共に、本縣知事に對し審査長の派遣を申請し、尙本縣知事、本郡農會長、岡山縣眞田同業組合長、小田郡畜産組合長、本郡煙草耕作聯合組合長、岡山縣除虫菊同業組合長、中備素麵同業組合長、笠岡町長等に對し補助申請を爲したり。各委員は直ちに出品の勧誘に着手し尙關係小學校兒童成績品の出品を

乞ふため關係小學校長に出品方を依頼し麥稈眞田競技選手を出場せしむる爲、岡山縣麥稈眞田同業組合職員諸氏の援助の下に各關係団体と連絡して出場の勧誘をなしたり。一方に於ては共進會をして、一層有意義ならしめんが爲に三重縣水産試験場技師日比谷爲造氏に依頼して海女の派遣斡旋方を依頼し、尙廣島縣佐伯郡大野村鼓ヶ濱宮島航空研究所長宛に共進會開催期間中笠岡町に於て遊覽飛行舉行の件を交渉したり。

斯くして其後に於て關係町村職員協議會を開催すること數回。期日の切迫と共に各掛員は不眠不休、出品の取纏め、會場の準備に着手し各行事は豫定の如く進行せるなり。會期中は關係町村職員初め各掛員は連日連夜、會場に詰切り各種多端なる事務を處理し晝夜の各催しをして一の支障なからしむることに努めたり。

## 第二章 會則及役職員

### 第一節 會 則

第一條 本會ハ小田郡南部町村農會聯合主催第二回産業共進會ト稱シ産業改良發達ヲ計ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ノ會期ハ昭和十二年五月一日ヨリ同四日迄ノ四日間トシ笠岡町ニ於テ開催ス

第三條 本會ノ事務所ハ笠岡町農會内ニ置ク

第四條 本會ノ區域ハ笠岡町、金浦町、城見村、陶山村、稻倉村、大江村、大井村、吉田村、新山村、今井村、神島内村、

神島外村、北木島村、眞鍋島村ノ一圓トス

第五條 本會出品ノ部類、品種ヲ左ノ通り定ム

第一部 第一類 穀 菽類 米、麥、豆

第二類 園 藝 品 蔬菜、果物、花卉

第三類 農産加工品 自家用醬油其他

第二部 第一類 副 業 品 鶏卵、麥稈眞田、除虫菊、木竹工品、繭製品、麥稈細工、麵類、其他

第二類 麥稈眞田競技 單四菱、五菱

第三部 第一類 畜 牛

第四部 第一類 水 産 品

第五部 第一類 教育關係品、一般參考品

第六條 出品總点数ヲ一千八百点トシ出品ハ一人一点トシ自家生産又ハ採收品ニシテ左記ノ種類トス 但シ畜牛ハ種牡牛ヲ除キ生後十八ヶ月以上ニシテ三月以上出品者ニ於テ所有又ハ管理セルモノトス

第一部 第一類 穀菽類ハ各々五合ヅ、トシ一ヶ町村出品点数十四点トス

第二類 園藝品、蔬菜ハ甘藍二球、葱頭五個、人參五本、大根二本、胡瓜五本、茄子五個、蔬菜苗

二本、甘藷五個、其他薯類三百匁、苺百匁其ノ他適宜果物ハ各々五個ヲ一点トシ花卉ハ各一鉢トシ一ヶ町村出品点数二十点トス

第三類

農産加工品中醬油ハ一点一升其他適宜トシ一ヶ町村出品点数十トス木竹工品、麥稈細具ハ適宜、除虫菊百匁、煙草苗二本、麵類三百匁其他適宜トシ一ヶ町村出品点数十トス、煙草苗二本中一本ハ鉢植トシ一本ハアツブルピンニテ根ヲ見ユル如クシテ二本出スコト、鉢及ビンハ組合ニ於テ準備スルコト

第二類

麥稈眞田競技出場人員一ヶ町村四人トシ計五十六人トス。小學校兒童選手ハ各小學校男女各一人ツマトシ計三十八人トス

第三部 第一類

畜牛ハ一ヶ町村六頭トシ和種四十点洋種二十点計六十点トス

第四部 第一類

水産品ハ各百匁以上トシ計四十点トス

第五部 第一類

參考品ハ前記以外ノ出品トス教育參考品ハ關係町村小學校兒童ノ成績品其ノ他トス

第七條 本會ニ出品セントスルモノハ昭和十二年四月十日迄ニ別紙様式ニ依ル出品申込書竝ニ競技出場報告書ヲ本會事務所ニ提出スベシ

第八條 出品物ハ昭和十二年四月二十八日正午迄ニ會場ニ搬入スベシ 但シ第三部ノ出品ハ昭和十二年五月三日午前八時迄ニ會場ニ出陳ズルモノトス

第九條 畜牛ノ飼料ハ各出品者携帶スルモノトス

第十條 出品物ハ本會ニ於テ相當保護スルト雖モ不可抗力ニ依ル損害又ハ審査ニ依ル減耗ハ本會ニ於テ其ノ責任ヲ負ハザルモノトス

第十一條 本會ノ出品物ハ本會閉鎖後左ノ方法ニ依リ處分スルモノトス

出品物ハ非賣品ヲ除クノ外ハ即賣トシ其代金ヲ還付シ即賣シ能ハザルモノハ現品ヲ返還ス

第三部ノ出品物ハ授與式後出品者ニ於テ引キ取ルモノトス

第十二條 本會ニ左ノ役職員ヲ置ク

顧問 五名 小田郡農會會長、小田郡聯盟會會長、小田郡畜産組合長、笠岡町長、笠岡商工協會々頭

會長 一名 笠岡町農會會長

副會長 二名 大井村農會會長、今井村農會會長

事務長 一名 笠岡町農會技手

事務委員 二十三名 關係町村農會職員十三名其他十名

審査長 四名

審査員 若干名

第十三條 役職員ノ權限ヲ左ノ通り定ム

會長ハ會務一切ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

事務長ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

審査長ハ本縣知事、岡山縣畜産組合聯合會會長、小田郡農會會長ニ派遣方ヲ申請シ審査事務ヲ總理ス

審査員ハ會長之ヲ囑託シ審査長ノ指揮ヲ受ケ審査事務ニ從事ス

第十四條 審査(參考品ヲ除キ)ハ昭和十二年四月二十九日ヨリ之ヲ行フ

第十五條 審査ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 審査ノ結果成績優良ナルモノニ對シ左ノ等級ニ依リ褒賞ヲ授與スルモノトス、一等賞、二等賞、三等賞、四等賞

第十七條 出品人ニシテ審査ノ決定ニ對シ再審査ヲ請求シ褒賞ノ授與ヲ拒ミ又ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得サルモノトス

第十八條 褒賞授與式ハ昭和十二年五月四日午後二時ヨリ笠岡町役場樓上ニ於テ行フ

第十九條 本會ノ出品陳列場ハ笠岡町元中備製絲跡地及同地倉庫外三ヶ所トシ昭和十二年五月一日ヨリ同四日ニ至ル四日間毎

日午前八時ヨリ午後五時迄一般ノ縦覽ニ供スルモノトス

第二十條 本會ノ開期中附帶事業トシテ優良農具實演展覽會其他ノ事業ヲ行フモノトス

## 第二節 役職員

一、會長 笠岡町農會會長 森谷信夫

一、副會長 大井村農會會長 藤原修三

今井村農會會長 小寺次平

一、事務長 笠岡町農會技手 黒田常五郎

一、事務委員 大井村農會技手 片山龜久男

吉田村農會技手 山縣庄一

今井村農會書記 阿部金一

金浦町農會技手 河合優

神島内村農會書記 長安凱吉郎

神島外村農會 武正房五郎

北木島村農會技手 吉田重美  
 眞鍋島村農會書記 佐藤昌衛  
 新山村農會技手 龜岡源  
 陶山村農會技手 山下彰雄  
 城見村農會技手 小西樫雄  
 大江村農會技手 江本弘士  
 稻倉村農會技手 難波薰  
 笠岡町收入役 小野政章  
 笠岡町書記 大橋貞  
 同 采女國男  
 同 青山敏雄  
 笠岡町技手 太田章一

笠岡町書記 大河助市  
 同 山田定男  
 同 書記補 小田堅順  
 同 雁 小林義郎  
 笠岡町 大津芳太郎  
 岡山縣麥稈眞田同業組合検査員 平井正一  
 小田郡煙草耕作聯合組合指導員 片岡一男  
 同 遠藤國一郎  
 專任事務員笠岡町 小寺市雄  
 同 小野博  
 事務員(笠岡町) 東山四郎  
 同 西島健次

第三節 顧問

小田郡農會會長 平井貞五  
 小田郡畜産組合長 藤井雅夫  
 小田郡各種團體聯盟會長 守屋序平

笠岡町長 鶴田錠輔  
 笠岡商工協會々頭 廣井作五郎

第四節 小田郡農會關係職員

小田郡農會幹事 小川貫一  
 小田郡農會技師 花本春平  
 小田郡農會技手 篠原兵三

小田郡養蠶業組合技手 藤原清正  
 小田郡畜産組合技手 小野實男  
 小田郡畜産組合技手 安達豊一郎

第五節 關係町村農會會長

笠岡町農會會長 森谷信夫  
 金浦町農會會長 平井貞五  
 城見村農會會長 松浦昇  
 陶山村農會會長 岡田九一  
 大江村農會會長 大塚勝政  
 稻倉村農會會長 妹尾庄一郎  
 大井村農會會長 藤原修三

吉田村農會會長 徳山孫一  
 新山村農會會長 津島喜平二  
 今井村農會會長 小寺次平  
 神島内村農會會長 藤井助市  
 神島外村農會會長 前川林兵衛  
 北木島村農會會長 牧野長四郎  
 眞鍋島村農會會長 山下嘉壽太

### 第三章 經費豫算

經費豫算は最初の關係町村農會長協議會に於ては參千圓を決議せられたりしが、其の實行豫算に於て壹千五百五拾圓に決定せられ、事業に着手せられたりしが各方面とも相當經費増出の狀態に立至り尙海女實演場の入場料等の豫期せざる收入を見るに至りたるを以て其の收支決算は卷末記載せるが如く當初豫算倍額に近き參千餘圓に達したり。

#### 一、收入之部

| 科 目       | 金額      | 附 記   |
|-----------|---------|---|
| 一、町村農會負擔金 | 參百五圓    | 笠岡六拾圓、金浦貳拾五圓、眞鍋島村、北木島村、神島内村、神島外村各拾五圓<br>外八ヶ村各貳拾圓                                  |
| 二、補助金     | 五百八拾五圓  | 縣補助貳百圓、小田郡農會百圓、笠岡町百圓、縣郡畜産組合四拾圓、岡山縣眞田同業組合七拾圓、素麵組合貳拾五圓、小田郡煙草耕作聯合組合參拾圓、岡山縣除虫菊同業組合貳拾圓 |
| 三、寄附金     | 六百六拾圓   |   |
| 一、商工會寄附金  | 五拾圓     | 笠岡商工協會寄附金   |
| 一、特志寄附金   | 六百拾圓    | 一般特志寄附金   |
| 合 計       | 壹千五百五拾圓 |   |

#### 二、支出之部

|       |       |           |
|-------|-------|-----------|
| 一、會場費 | 參百五拾圓 | 會場諸費      |
| 二、賞品費 | 參百圓   | 賞品及出品者優待費 |

|        |         |                 |
|--------|---------|-----------------|
| 三、賞狀費  | 五拾圓     | 賞狀及感謝狀費         |
| 四、審査費  | 五拾圓     | 審査諸費            |
| 五、式典費  | 參百圓     | 來賓接待費及受賞者接待費    |
| 六、通信費  | 參拾圓     | 通信運搬費及旅費        |
| 七、消耗品費 | 百圓      | 消耗品費            |
| 八、宣傳費  | 八拾圓     | ポスター花火其他宣傳費餘興費  |
| 九、雜費   | 百五拾圓    | 諸雜費             |
| 〇、豫備費  | 百四拾圓    | 豫算外又ハ豫算超過ノ費途ニ充ツ |
| 合 計    | 壹千五百五拾圓 |                 |

收支差引ナシ

### 第四章 開會の準備

#### 第一節 開催要項の決定

開會期日の切迫したるを以て四月十五日の協議會に於て左記産業共進會開催要項を決定したり。

#### 第一會場

第一會場 舊中備製糸會社倉庫

- イ、畜產會場同所空地東三分ノ一
- ロ、農具實演會場同所空地東三分ノ一
- ハ、余興場同所空地兩側半分

第二會場 教育參考館 笠岡男子尋常高等小學校々堂

第三會場 水族館 笠岡福島紡績南埋立地鹽湯附近

第四會場 眞田競技場 大和座

第五賞狀授與式々場 笠岡町役場樓上

第六遊覽飛行 笠岡港外

第二期

昭和十二年五月一日より五月四日に至る四日間 毎日午前八時より午後四時迄とす

第三 出品物の搬入

昭和十二年四月二十八日正午迄に會場到着の事

第四 審査

昭和十二年四月二十九日同三十日

第五 看守

笠岡町女子青年團

第六 後片付け

昭和十二年五月六日、七日の二日間

第七 開期中其他の行事豫定

昭和十二年五月三日 岡山縣水産大會 笠岡商業學校講堂

第八 各會場經費割當豫算

|             |          |         |          |
|-------------|----------|---------|----------|
| 一、本會場       | 金貳百六拾九圓也 | 一、寫眞費   | 金參拾圓也    |
| 一、畜產會場      | 金五拾圓也    | 一、宣傳費   | 金六拾圓也    |
| 一、農具實演場     | 金拾圓也     | 一、印刷費   | 金五拾圓也    |
| 一、余興場       | 金貳拾圓也    | 一、審査費   | 金五拾圓也    |
| 一、教育參考館     | 金拾七圓也    | 一、人件費   | 金壹百五拾圓也  |
| 一、海女館       | 金壹百七拾圓也  | 一、旅費    | 金參拾六圓也   |
| 一、眞田競技場     | 金九拾圓也    | 一、通信運搬費 | 金拾五圓也    |
| 一、賞狀授與式     | 金貳百五拾圓也  | 一、諸雜費   | 金四拾圓也    |
| 一、花火        | 金拾參圓也    | 一、豫備費   | 金壹百五拾圓也  |
| 一、辨當及關係職員雜費 | 金八拾圓也    | 合計      | 壹千五百五拾圓也 |

第九 産業共進會行事豫定表

|             |             |            |           |
|-------------|-------------|------------|-----------|
| 一、四月二十五日：六日 | 會場準備        | 一、五月一日     | 開館        |
| 一、四月二十七日    | 會場裝飾        | 一、五月二日     | 眞田競技會     |
| 一、四月二十八日    | 出品物搬入       | 一、五月三日     | 水産大會畜産共進會 |
| 一、四月二十九日    | 審査          | 一、五月四日午後一時 | 賞狀授與式     |
| 一、四月三十日     | 審査陳列蔬菜煙草百搬入 | 一、五月六日、全七日 | 後片付け      |

第十 賞狀授與式

- 一、場所 笠岡町役場樓上(宴會場古城山)
- 一、裝飾 門前に國旗交叉す天上にモール万國旗其他適當なる裝飾

- 一、經費豫算
  - 一、裝飾費 金貳圓也
  - 一、接待費 金貳百參拾圓也
  - 一、印刷費 金五圓也
  - 一、通信費 金六圓也
  - 一、其の他 金七圓也
  - 合計貳百五拾圓也

一、會場

- 一、會場
  - 一、陳列
    - 舊中備製糸會社倉庫
    - 選滿臺を借用し其の上に板を置き其の上に襖用紙を引き各出品物を郡農會より借用したる容器に入れ陳列す

會場の中には盆栽を点々と置き天上はモール萬國旗を張り壁等には諸種の宣傳ビラ及各種統計表等を出す、統計は郡農會及各町村農會より自村の産業状態を表したるもの壹葉以上を必ず出品すること

入口には第一會場の額と適當なる裝飾を爲す尙會場正面には商店寄附の大アーチを設置す。

會場の一室に共進會事務所を設く

會場は敷物を布き觀覽者は履物のまゝ入場せしむ。出品物の陳列及出入口の順序は別紙圖面の通り

昭和十二年四月二十八日迄とす

昭和十二年四月二十七日迄に終了せしむること

- 一、事務所
  - 一、裝飾費 金貳拾圓也
  - 一、會場設備費 金貳拾圓也
  - 一、看守費 金貳拾圓也
  - 一、人夫代襖用紙其他 記念品及謝禮
  - 一、接待費 金拾圓也
  - 一、茶菓其の他
  - 一、雜費 金貳拾圓也
  - 一、消耗品費雜費
  - 一、賞品費 金壹百六拾八圓貳拾錢也
  - 一、詳細は別紙
  - 一、會場使用料 金拾圓也

一、麥稈眞田競技

- 一、會場使用料 金拾圓也

一、會場

- 一、期日 昭和十二年五月二日午前十一時より正午迄一時間

- 一、選手 小學校選手、一般選手共午前九時三十分出場

- 一、競技種目 單四菱 小學校選手三十八人 一校二人宛

- 一、選手割當 五菱 一般選手 五十六人

- 一、選手割當
  - 金浦町 七人 城見村 五人 大江村 三人 稻倉村 三人 大井村 六人
  - 吉田村 五人 新山村 五人 今井村 五人 神内村 三人 神外村 三人
  - 笠岡町 六人 計 五十六人

- 一、會場設備
  - 各選手の前に臺を置き各選手の番號を貼り直ちに着席の出来る様に爲し座布團は大和座のものを借用し舞臺には椅子テーブルを置く

會場前にアーチを設け會場内部は大和座の幕を張り來賓席を作り會場内には萬國旗テープを張り化粧品店の廣告旗其他にて裝飾す

必要器具の取片付けは製造組合に一任す

申込順に依りて定め當日選手に入口に於て番號を交付し會場内の自己の番號札の有る所に着席せしむ

當日後行ひ直ちに事務長に報告す

一、辨當代 金貳拾四圓六拾錢也

一、原料代欠損 金五圓也

一、賞品代 金貳拾圓七拾錢也

一、內譯 選手百人附添人十九人業者十五人來賓五人町村主任十五人 人郡五人審査員其他五人 計百六拾四人

一、內譯 一般之部 小學校の部

一等 一人 貳圓のもの 金貳圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一等 一人 壹圓のもの 金壹圓也

一、教育參考館

- 一、會場 笠岡男子尋常高等小學校講堂
- 一、設備 男子校の講堂を南北に四仕切と爲し仕切の兩方に陳列する
- 一、出品種目 關係町村小學校生徒の圖畫と書方、長さ六尺、幅三尺の幅となし左記の割當以上を必ず出品すること
  - 笠岡男子校 笠岡女子校 金浦校 四幅
  - 富岡校 陶山校 城見校 稻倉校 神内校 新山校 大江校 大井校 吉田校 新山校 横江校 神外校 二幅
  - 白石校 北木校 眞鍋校 高島校 飛島校 六島校 一幅
- 一、會場入口にアーチ會場内は適當なる裝飾
- 一、出品兒童には感謝狀を出すこと
- 一、會場設備及管理は笠岡男子校々長に一任す
- 一、經費豫算
  - 一會場裝飾費 金壹圓也
  - 一會場設備費 金貳圓也
  - 一感謝狀 金拾貳圓也 出品兒童六百名一枚貳錢

計 拾五圓貳拾錢也

一記念品費 金拾八圓八拾錢也 平均貳拾錢のもの

一雜費 金貳拾圓九拾錢也 徽章番號札、裝飾費、小屋代其他

總計 金九拾圓也

- 二等 三人 壹圓のもの三 金參圓也
- 三等 六人 七拾錢のもの六 金四圓貳拾錢也
- 四等 十二人 五拾錢のもの十二 金六圓也
- 計 拾五圓貳拾錢也
- 二等 五人 五拾錢のもの 金貳圓五拾錢也
- 三等 十人 貳拾錢のもの 金貳圓也
- 計 五圓五拾錢也

一、畜産會場

- 一運搬費 金貳圓也
- 合計 金拾七圓也

一、開催 月日 昭和十二年五月三日

一、出品牛の搬入 全 年五月三日午前八時

一、會場 中備製糸の跡地東山春吉氏所有の空地東半分とし會場は入口に簡單なるアーチを作り中に農具實演會場に通ずる道路を残し適當なる一ヶ所に設く

- 一、出品豫定牛
  - 一和牛 四十頭 一乳牛 二十頭 合計六十頭
  - 一等 二点 和牛一洋牛一 參圓のもの二 金六圓也
  - 二等 四点 和牛二洋牛二 貳圓のもの四 金八圓也
  - 三等 八点 壹圓のもの八 金八圓也
  - 四等 十点 七拾錢のもの一〇 金七圓也

合計 金貳拾九圓也

一、畜牛出品者は當日の晝食辨當を支給す

一、經費豫算 一賞品費 金貳拾九圓也

一辨當代 金拾壹圓也 出品者六十、其他十 計七拾個代

一等賞旗、人夫其他雜費 金拾圓也

合計 金五拾圓也

一、水族館及海女館

一、場所 古城山の下壩湯附近



一、設備

小プール設置  
一、海女接待旅費 金壹百圓也

内譯

一、旅費 參拾圓也 海女二人附添人一人

一日當 參拾圓也 六日海女一日貳圓拾貳圓二人貳拾四圓也附添人一日壹圓六圓也

一、宿泊 四拾圓也 一日貳圓延十八日分其他

一、管理費 金貳拾圓也 漁業組合と共同

一、會場設備費 金參拾圓也 同

一、裝飾費其他 金貳拾圓也 同

合計 金壹百七拾圓也

一、餘興場

一、場所

中備製糸跡空地西半分(南三分ノ一)

一、設備

演舞臺をこしらへること、山形國旗を張る其の他適當なる裝飾を爲す

一、番組

余興係に一任す

一、會場設備費 金七圓也

一、裝飾費 金參圓也

一、材料損料其他 金五圓也

一、其他雜費 金五圓也

合計 金貳拾圓也

一、係員徽章

一、會長、副會長 (白大) 事務長及事務委員 (水色)

- 一、審査長 (桃色大) 審査員 (桃色)
- 一、來賓 (白菊)
- 一、授賞者 競技選手 畜牛出品者 (黃菊)
- 一、麥稈眞田競技係員 (白菊)
- 一、其他雇員 (水色) 小

一、寫眞

- 一、會場入口 一枚
- 一、會場内部 二枚
- 一、麥稈競技 一枚
- 一、海女及海女館 一枚
- 一、畜産共進會 一枚
- 一、農具實演會 一枚
- 一、賞狀授與式 一枚
- 一、關係職員 一枚
- 一、教育參考館 一枚
- 一、水上飛行機 一枚
- 其他 一枚
- 計 十二枚
- 豫算 金參拾圓也

一、花火

- 第一日 五發 第二日 七發
- 第三日 五發 第四日 七發
- 合計 二十四發
- 一、經費豫算 金拾參圓也

出 品 割 當 表

| 町村品目 | 米  | 麥  | 豆  | 國藝品 | 副業品 | 眞田選手 | 畜牛 | 水産品 | 煙草 | 苗   | 參考品 | 加工品 | 産 | 合 計   |
|------|----|----|----|-----|-----|------|----|-----|----|-----|-----|-----|---|-------|
| 金浦町  | 三  | 六  | 六  | 二〇  | 八五  | 一〇   | 八  | 五   | 一三 | 一二  | 一一  | 一五  |   | 一八三   |
| 城見村  | 〇  | 五  | 三  | 二五  | 六五  | 八    | 六  | 二   | 一七 | 九   | 一五  |     |   | 一五五   |
| 陶山村  | 四  | 六  | 四  | 一八  | 六五  | 八    | 六  | 〇   | 一〇 | 八   | 一〇  |     |   | 一三九   |
| 大江村  | 五  | 五  | 四  | 一五  | 六五  | 六    | 四  | 〇   | 七  | 八   | 一〇  |     |   | 一二九   |
| 稻倉村  | 五  | 五  | 四  | 一五  | 六五  | 三    | 四  | 〇   | 一七 | 八   | 一〇  |     |   | 一三六   |
| 大井村  | 三  | 六  | 五  | 一五  | 七五  | 八    | 八  | 〇   | 九  | 九   | 一〇  |     |   | 一四六   |
| 吉田村  | 五  | 五  | 四  | 一二  | 七〇  | 六    | 五  | 〇   | 九  | 一   | 一〇  |     |   | 一三七   |
| 新山村  | 八  | 六  | 〇  | 一二  | 七〇  | 六    | 四  | 〇   | 〇  | 七   | 一〇  |     |   | 一二三   |
| 今井村  | 三  | 六  | 五  | 一五  | 六五  | 一三   | 三  | 〇   | 四  | 八   | 一〇  |     |   | 一三二   |
| 神島内村 | 一  | 〇  | 三  | 一〇  | 五〇  | 六    | 二  | 一〇  | 五  | 九   | 五   |     |   | 一一一   |
| 神島外村 | 〇  | 八  | 三  | 一〇  | 三〇  | 二    | 〇  | 一〇  | 〇  | 五   | 五   |     |   | 七三    |
| 北木島村 | 〇  | 八  | 三  | 一〇  | 三〇  | 〇    | 〇  | 一〇  | 〇  | 三   | 一〇  |     |   | 七四    |
| 眞鍋島村 | 〇  | 八  | 三  | 一〇  | 三〇  | 〇    | 〇  | 一〇  | 〇  | 三   | 一〇  |     |   | 七四    |
| 笠岡町  | 〇  | 一〇 | 四  | 六〇  | 八五  | 八    | 一〇 | 五   | 五  | 一〇  | 一〇  |     |   | 二九八   |
| 合 計  | 三七 | 九四 | 五二 | 二四七 | 八五〇 | 八四   | 六〇 | 五二  | 九六 | 一九九 | 一四〇 |     |   | 一、九一〇 |

第二節 事務分掌

期日は一日毎に切迫し會務は益々繁忙となりたるを以て専任事務員を設置すると共に四月十五日の打合會に於て事務分掌を左記の如く決定し各事務を分擔處理し會務の進行を計る事とせり。

事務分掌

- 一、會 長 笠岡町農會會長 森 谷 信 夫
- 二、副 會 長 大井村農會會長 藤 原 修 三
- 一、同 今井村農會會長 小 寺 次 平
- 一、事 務 長 笠岡町農會技手 黒田常五郎
- 一、審 査 長 別に定む
- 一、庶務式典係 指導 郡農會 篠原技手 神外 武正書記 神内 長安書記 眞鍋 佐藤書記 笠岡 采女書記
- 一、會 場 係 指導 郡農會 藤原技手 笠岡 大橋書記 笠岡 太田技手 笠岡 大河書記
- 一、審 査 係 指導 郡農會 花本技師 大井 片山技手 吉田 山縣技手 金浦 河合技手 稻倉 難波技手
- 一、賞品記念品係 指導 北木島 吉田技手 陶山 山下技手 新山 笠岡技手 城見 小西技手
- 一、麥稈眞田競技係指導 郡農會 小川幹事 大井 片山技手 今井 阿部書記 吉田 山縣技手
- 一、麥稈眞田競技係指導 關係町村係員全員 同業聯合 平井検査員 笠岡町 大津事務委員 吉田 山縣技手
- 一、畜産共進會係 指導 小田郡畜産組合 小野技手 同 安達技手 大井 片山技手 大江 江本技手

- 一、農具實演會係 指導 稻倉 雜波技手 北木 吉田技手 郡農會 篠原技手 今井 阿部書記 金浦 河合技手 新山 龜岡技手 陶山 山下技手 城見 小西技手
- 一、余興係 笠岡 山田書記 笠岡 大河書記 笠岡 小田書記補 笠岡 小林屋
- 一、水族館 笠岡漁業組合 中山理事 中岡理事 辻委員
- 一、海女館 大津事務委員 西島事務員
- 一、諸準備會場整理係 小寺事務員 小野事務員 東山事務員
- 一、會計係 笠岡 小野收入役 笠岡 青山書記

### 第三節 出品

出品の勧誘は本共進會の主なる事業にして又最も困難なる事業なり。故に關係職員は本會開催の事決定せらるゝや連日連夜機會ある毎に當業者に宣傳し各町村共必ず出品割當点数以上を出品すべく努力したり。其結果各町村共競ふて出品をなし左の如く多數の出品を得たり。

- 第一部 第一類 穀 菽類 二百七十三点 米 五十二点 其他 六十八点
- 第二類 園藝品 二百七十八点 蔬菜 二百七十三点 果實 二十七点 其他 二十七点
- 第三類 農産加工品 百七十六点 自家用醬油 百六十九点 麵類 九点
- 第二部 第一類 副業品 八百六十八点 鶏卵 二百三点、除虫菊 五十五点、煙草苗 九十八点、麥稈 眞田 三百三十一點、麥稈 眞田 原料 二十七点、薬製品 八十一點、雜品 七十三点

- 第二類 麥稈眞田競技選手
  - 一、一般の部 六十名
  - 二、小學校選手の部 三十四名
- 第三部 第一類 畜牛 五十一點
- 一、和牛 三十六頭
- 二、洋牛 十五頭
- 第四部 第一類 水産品 三十二点
- 第五部 第一類 参考品 千五百九十二点
  - 一、小學校兒童成績品 千四百二十五点
  - 一、國立公園寫眞 五十點
  - 一、一般参考品 百十七点
- 合計 三千三百六十四点

關係町村出品者氏名及出品々目

第一部

第一類 穀菽類

| 番號 | 品名   | 町村名 | 氏名    | 出品     |
|----|------|-----|-------|--------|
| 一  | 赤トキビ | 北木島 | 畦坪ヒマ  | 一六同    |
| 二  | 白トキビ |     | 片山虎一  | 一八同    |
| 三  | 蕎麥   |     | 畦崎喜代松 | 一九同    |
| 四  | 赤トキビ |     | 竹本タマ  | 二〇同    |
| 五  | 白トキビ |     | 竹本タマ  | 二一サ、ゲ  |
| 六  | 黒黍   |     | 竹本タマ  | 二二赤トキビ |
| 七  | 豆    |     | 畦坪ツネ  | 二三サ、ゲ  |
| 八  | 麥    |     | 山本助松  | 二四赤サ、ゲ |
| 九  | 同    |     | 畑中熊太郎 | 二五裸麥   |
| 一〇 | 赤小豆  |     | 畑中宇之松 | 二六秋豆   |
| 一一 | 裸麥   |     | 河野田ダ  | 二七麥    |
| 一二 | 同    |     | 奥野マツ  | 二八同    |
| 一三 | 同    |     | 河野田   | 二九同    |
| 一四 | 同    |     | 河野田   | 三〇同    |
| 一五 | 同    |     | 河野田   | 三一米    |

|    |     |     |       |    |
|----|-----|-----|-------|----|
| 三五 | 麥   | 同   | 馬     | 五  |
| 三六 | 豆   | 同   | 好     | 六  |
| 三七 | 同   | 同   | 好     | 七  |
| 三八 | 秋豆  | 同   | 山下道弘  | 八  |
| 三九 | 豆   | 同   | 仁科良夫  | 九  |
| 四〇 | 赤角豆 | 同   | 坂本仲藏  | 一〇 |
| 四一 | 豆   | 同   | 東山信雄  | 一一 |
| 四二 | 同   | 同   | 仁科綾雄  | 一二 |
| 四三 | 同   | 同   | 小寺久松  | 一三 |
| 四四 | 麥   | 同   | 仁科良夫  | 一四 |
| 四五 | 同   | 同   | 山下役市  | 一五 |
| 四六 | 同   | 同   | 山下房夫  | 一六 |
| 四七 | 秋大豆 | 吉田  | 西山繁一  | 一七 |
| 四八 | 同   | 同   | 藤井恂一  | 一八 |
| 四九 | 同   | 同   | 西山喜十郎 | 一九 |
| 五〇 | 同   | 同   | 重見蔵一  | 二〇 |
| 五一 | 麥   | 同   | 重見蔵一  | 二一 |
| 五二 | 同   | 同   | 重見蔵一  | 二二 |
| 五三 | 豆   | 今井  | 藤澤勝二  | 二三 |
| 五四 | 小豆  | 真鍋島 | 佐藤キヨ  | 二四 |
| 五五 | 同   | 同   | 大島市太郎 | 二五 |

|    |   |   |      |
|----|---|---|------|
| 一六 | 同 | 同 | 木屋政吉 |
| 一七 | 同 | 同 | 分根臺吉 |
| 一八 | 同 | 同 | 久一仙松 |
| 一九 | 同 | 同 | 木尾政吉 |
| 二〇 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二一 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二二 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二三 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二四 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二五 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二六 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二七 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二八 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 二九 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 三〇 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 三一 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 三二 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 三三 | 同 | 同 | 同尾政吉 |
| 三四 | 同 | 同 | 同尾政吉 |

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一四〇 | 一三九 | 一三八 | 一三七 | 一三六 | 一三五 | 一三四 | 一三三 | 一三二 | 一三一 | 一三〇 | 一二九 | 一二八 | 一二七 | 一二六 | 一二五 | 一二四 | 一二三 | 一二二 | 一二一 | 一二〇 |
| 同   | 麥   | 米   | 同   | 大豆  | 同   | 小豆  | 同   | 秋豆  | 同   | 大豆  | 同   | 同   | 豆   | 同   | 大豆  | 同   | 同   | 裸麥  | 麥   | 大豆  |

|        |      |      |      |       |       |       |      |     |       |     |      |      |      |      |      |       |       |       |      |      |   |
|--------|------|------|------|-------|-------|-------|------|-----|-------|-----|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|---|
| 同      | 城見   | 同    | 同    | 大井    | 同     | 同     | 同    | 同   | 同     | 同   | 同    | 同    | 同    | 同    | 同    | 同     | 同     | 同     | 同    | 同    | 同 |
| 石井五月五郎 | 坂本辰一 | 小寺隆夫 | 小寺隆夫 | 采女定五郎 | 林忠右衛門 | 内山金太郎 | 掛谷文一 | 川元勉 | 金平登喜一 | 佃利夫 | 坂本佐平 | 田中正男 | 枝廣正保 | 浦部治郎 | 高田太郎 | 黒田好太郎 | 鹽飽勝太郎 | 林市右衛門 | 浦部正平 | 松浦政吉 |   |
| 一六一    | 一六〇  | 一五九  | 一五八  | 一五七   | 一五六   | 一五五   | 一五四  | 一五三 | 一五二   | 一五一 | 一五〇  | 一四九  | 一四八  | 一四七  | 一四六  | 一四五   | 一四四   | 一四三   | 一四二  | 一四一  |   |
| ソバ     | サ、ゲ  | ブンズ  | 秋豆   | 小豆    | 同     | 同     | 同    | 麥   | 同     | 大豆  | アイ豆  | 秋豆   | 青豆   | サ、ゲ  | 同    | 秋豆    | 豆     | 同     | 麥    | 大麥   |   |

|       |      |       |      |      |      |       |      |      |      |     |       |      |      |       |      |      |       |      |      |     |   |
|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-----|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-----|---|
| 同     | 神外   | 同     | 同    | 同    | 同    | 同     | 同    | 同    | 同    | 同   | 同     | 同    | 同    | 同     | 同    | 同    | 同     | 同    | 同    | 同   | 同 |
| 山川辰之介 | 天野民藏 | 西島濱五郎 | 藤井嘉市 | 平川繁松 | 藤井嘉市 | 伊藤静太郎 | 平川繁松 | 水原幸平 | 高田孝夫 | 篠原政 | 加藤眞喜太 | 高田作平 | 坂本仁吉 | 坂本初次郎 | 松浦準治 | 藤川爲吉 | 篠原勝四郎 | 篠原定義 | 松浦說二 | 三好善 |   |

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 九八 | 九七 | 九六 | 九五 | 九四 | 九三 | 九二 | 九一 | 九〇 | 八九 | 八八 | 八六 | 八五 | 八四 | 八三 | 八二 | 八一 | 八〇 | 七九 | 七八 | 七七 |
| 豆  | 裸麥 | 小麥 | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 米  | 大豆 | 米  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同 |
| 山  | 秀  | 青  | 多  | 兒  | 川  | 川  | 大  | 撰  | 安  | 安  | 高  | 岸  | 石  | 安  | 高  | 高  | 木  | 高  | 安  | 大  |   |
| 一本 | 平  | 陰  | 賀  | 玉  | 上  | 上  | 塚  | 卯  | 藤  | 藤  | 木  | 野  | 井  | 本  | 木  | 木  | 山  | 木  | 藤  | 景  |   |
| 三  | 計  | 文  | 宗  | 太  | 作  | 一  | 三  | 八  | 通  | 二  | 一  | 一  | 平  | 一  | 龍  | 男  | 郎  | 一  | 一  | 一  |   |
| 一九 | 一八 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一二 | 一一 | 一〇 | 〇九 | 〇八 | 〇七 | 〇六 | 〇五 | 〇四 | 〇三 | 〇二 | 〇一 | 〇〇 | 九九 |   |
| 同  | 同  | 同  | 米  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |   |

|    |    |    |    |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 同  | 同  | 同  | 同  | 同 | 同 | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  |
| 佐藤 | 掛谷 | 掛谷 | 佐藤 | 關 | 佃 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 | 大塚 |
| 治  | 甚  | 清  | 料  | 覺 | 尚 | 宮  | 角  | 君  | 喜  | 多  | 太  | 丹  | 公  | 時  | 太  | 眞  | 福  | 芳  | 友  | 幸  |
| 太  | 三  | 一  | 作  | 次 | 二 | 吉  | 二  | 代  | 男  | 郎  | 郎  | 二  | 平  | 平  | 太  | 太郎 | 一  | 助  | 次郎 | 孝  |

二〇七 秋青豆  
二〇八 赤角豆  
二〇九 銀豆  
二一〇 赤角豆  
二一一 同  
二一二 大豆  
二一三 白小豆  
二一四 朝鮮豆  
二一五 秋小豆  
二一六 赤角豆  
二一七 同  
二一八 同  
二一九 秋大豆  
二二〇 赤小豆  
二二一 豆  
二二二 同  
二二三 赤角豆  
二二四 大豆  
二二五 同  
二二六 同  
二二七 同

同  
 高畑藤三郎  
丸山敏春  
高畑宇一  
高畑顯正  
高畑大八  
平井喜八  
丸山龜三郎  
小川稔  
丸山雄  
丸山政  
丸山幸太郎  
丸山惣市  
高畑惣市  
丸山幸太郎  
藤本六次郎  
松浦藤八  
藤本米一  
藤原隅平  
藤原次郎  
藤井初志  
河相八州男  
平井条夫  
藤原計勇

二二八 同  
二二九 同  
二三〇 同  
二三一 同  
二三二 同  
二三三 同  
二三四 同  
二三五 同  
二三六 同  
二三七 同  
二三八 同  
二三九 同  
二四〇 同  
二四一 同  
二四二 同  
二四三 同  
二四四 同  
二四五 同  
二四六 同  
二四七 同  
二四八 同  
 三上茂平  
高畑正一  
藤原林一  
塚本英志  
笠原長吉  
笠原要治郎  
鹽飽敏夫  
鹽飽經二  
枝廣正  
大橋條一  
大橋二三雄  
鹽飽良惠  
北村德一  
高橋廣一  
西江乙婦以  
安藤龜夫  
藤井善一  
藤井廣太  
斧田楨太郎  
小野崎松  
原田重信

一六二 粟  
一六三 テントウサ、ゲ  
一六四 赤サ、ゲ  
一六五 ブンズ  
一六六 ゴマ  
一六七 同  
一六八 米  
一六九 同  
一七〇 同  
一七一 同  
一七二 同  
一七三 同  
一七四 麥  
一七五 同  
一七六 同  
一七七 豆  
一七八 同  
一七九 同  
一八〇 同  
一八一 同  
一八二 同

同  
 原田フユ  
山本利男  
河田キチノ  
同 人  
山本利男  
藤井嘉市  
崎谷精一  
平本長六  
山村久一郎  
熊谷規二  
石原定助  
崎谷島藏  
猪原美和  
熊谷三郎  
山村真一  
山村隆造  
山本泰通  
平本昌定  
猪原昌一  
三村覺一  
 一八三 同  
一八四 大豆  
一八五 同  
一八六 赤角豆  
一八七 黒大豆  
一八八 大豆  
一八九 蠶豆  
一九〇 豆  
一九一 黒豆  
一九二 同  
一九三 同  
一九四 秋大豆  
一九五 同  
一九六 大豆  
一九九 秋豆  
二〇〇 赤角豆  
二〇二 豆  
二〇三 黒豆  
二〇四 秋大豆  
二〇五 白小豆  
二〇六 秋大豆

二八  
 同  
 三村稔治  
増成芳夫  
西江太夫  
平井嘉太郎  
鹽飽惣右衛門  
増成永一  
水上忠三郎  
酒井登美  
佐藤由之助  
小笠原儀八  
赤田增市  
小川傳一  
枝廣徹夫  
塚本一  
塚本留吉  
天野清市  
酒井喜市  
藤原禮一  
丸山毅  
高畑匡右  
丸山並次郎



九四 同  
九五 同  
九六 同  
九七 同  
九八 里芋  
九九 絹莢豌豆  
一〇〇 同  
一〇一 豌豆  
一〇二 甘藷  
一〇三 梨  
一〇四 同  
一〇五 同  
一〇六 乾果  
一〇七 甘藷  
一〇八 馬鈴薯  
一〇九 甘藷  
一一〇 同  
一一一 甘藷  
一一二 同  
一一三 同  
一一四 早人瓜

新山 大景 敬一  
谷本 讓作  
谷本 寅太  
西原 喜四郎  
山川 申吉  
妹尾 三助  
天野 三助  
河田 キチノ  
三島 辨次郎  
三島 清四郎  
三島 定男  
猪原 通實  
崎谷 實操  
山村 實操  
川合 恒一  
氷上 時治郎  
藤井 正吉  
氷上 兼吉  
清水 品三  
小川 春長

關藤 初太郎  
高細 伊三郎  
小川 伊三郎  
丸山 豐太郎  
河田 豐太郎  
增成 愛子  
增成 保夫  
增成 芳太郎  
小寺 春夫  
淺野 泰史  
山下 健一  
伊藤 平太郎  
宗岡 通平  
赤木 運平  
大本 源三郎  
丸山 京太郎  
東本 治太郎  
大島 勝太郎  
入江 密治  
金藤 善治

五〇 同  
五一 同  
五二 苗木桃  
五三 同  
五四 里芋  
五五 牛蒡  
五六 里芋  
五七 梨  
五八 甘藷  
五九 莓  
六〇 梨  
六一 同  
六二 柑橘  
六三 同  
六四 同  
六五 里芋  
六七 同  
六八 甘藷  
六九 同  
七〇 同  
七一 同

小籾 助一  
小籾 松夫  
高木 竹一  
高木 善一  
吉本 正一郎  
吉本 德太郎  
今岡 常四郎  
撰熊 太  
守屋 信一  
高田 鶴一  
松浦 市郎  
大本 十七一  
高田 茂男  
松本 謙吉  
松浦 靜夫  
小笠原 實  
鳥越 勇吉  
大本 隼一  
松浦 利平  
坂好 玉夫  
坂本 友一

藤川 茂市  
高田 俊作  
加藤 萬吉  
鳥越 繁藏  
城戸 繁太  
城戸 京一  
伏見 喜久太  
伏見 房吉  
篠原 華夫  
大本 房太郎  
高田 米一  
加藤 準助  
大本 繁一  
平山 與作  
平山 菊治郎  
西島 濱五郎  
伊藤 靜太郎  
船津 倚一  
藤井 嘉一  
平川 繁松  
長安 九助



一七九 トマト  
一八〇 苳  
一八一 茄子  
一八二 南瓜  
一八三 トマト  
一八四 茄子  
一八五 胡瓜  
一八六 同  
一八七 茄子  
一八八 トマト  
一八九 南瓜  
一九〇 茄子  
一九一 胡瓜  
一九二 南瓜  
一九三 胡瓜  
一九四 南瓜苗  
一九五 大根  
一九六 苳  
一九七 同  
一九八 トマト  
一九九 同

同同同同同同同同同同同同同同同同同

小野多七  
原田敏勝  
笠原惠太郎  
仁科守雄  
仁科傳次郎  
仁科芳太郎  
坂本儀一郎  
坂本義明  
坂本茂之  
森山松男  
森山智榮賀  
森山智夕ケ  
森山吉助  
松井丈吉  
森山秀夫  
森山春野  
山下節男  
坂本淺次郎  
坂本利秋  
坂本享

二〇〇 同  
二〇一 同  
二〇二 茄子  
二〇三 胡瓜  
二〇四 茄子  
二〇五 トマト  
二〇六 茄子  
二〇七 同  
二〇八 トマト  
二〇九 茄子  
二一〇 トマト  
二一一 茄子  
二一二 胡瓜  
二一三 同  
二一四 茄子  
二一五 胡瓜  
二一六 同  
二一七 茄子  
二一八 同  
二一九 胡瓜  
二二〇 茄子

同同同同同同同同同同同同同同同同同  
大江

渡邊林二郎  
渡邊芳一郎  
波邊多彌  
眞田作二郎  
眞田修  
原田滿造  
原田孝一郎  
原田鐵藏  
小寺悦雄  
原田藤八  
原田定吉  
渡邊良一  
小寺義人  
玄場大吉  
玄場松三郎  
田中治太郎  
田中照子  
田中富士男  
田中孝一郎  
水田爲一

一三七 トマト  
一三八 南瓜  
一三九 胡瓜  
一四〇 南瓜  
一四一 同  
一四二 同  
一四三 茄子  
一四四 胡瓜  
一四五 同  
一四六 茄子  
一四七 同  
一四八 大根  
一四九 茄子  
一五〇 南瓜  
一五一 胡瓜  
一五二 トマト  
一五三 胡瓜  
一五四 同  
一五五 茄子  
一五六 胡瓜  
一五七 同

同同同同同同同同同同同同同同同同同

金藤茂雄  
小寺與三郎  
關藤榮治  
關藤茂平  
齋藤役次郎  
齋藤庄次郎  
藤澤照雄  
榊平覺二  
榊平覺二  
榊平年人  
同末子  
笠原四郎三郎  
桑田勝市  
桑田太郎  
同正  
淺野富男  
松井清夫  
松井清夫  
大玄宇一  
松井重一  
山下松太郎

一五八 同  
一五九 茄子  
一六〇 大根  
一六一 苳  
一六二 胡瓜  
一六三 トマト  
一六四 南瓜  
一六五 茄子  
一六六 トマト  
一六七 南瓜  
一六八 トマト  
一六九 南瓜  
一七〇 大根  
一七一 茄子  
一七二 胡瓜  
一七三 同  
一七四 茄子  
一七五 南瓜  
一七六 胡瓜  
一七七 苳  
一七八 同

同同同同同同同同同同同同同同同同同

山下健一  
山下秋次郎  
山下章二郎  
大玄孝一郎  
原田孝一郎  
齋藤トヨ  
齋藤久七  
山下勝一  
安田音吉  
安田忠吉  
仁科信夫  
藤本仁三郎  
藤本鐵夫  
西本政藏  
西山盛義  
西山九一  
知中稔雄  
知中稔雄  
小野役一  
長安靜馬  
坂本悦雄

二二一 南瓜  
二二二 南瓜  
二二三 茄子  
二二四 南瓜  
二二五 同  
二二六 茄子  
二二七 トマト  
二二八 南瓜  
二二九 玉葱  
二三〇 南瓜  
三一一 南瓜  
三一二 芋  
三三三 南瓜  
三三四 南瓜  
三三五 トマト  
三三六 豌豆  
三三七 甘藷  
三三八 茄子  
三四九 同  
三四〇 大根  
三四一 南瓜

同 同

水田源一  
田中富士男  
田中照子  
小寺勝一  
小寺孝男  
小寺元吉  
小寺良二  
小寺好子  
小寺八千代  
田林料市  
田林角一  
山下健一  
齋藤政太郎  
齋藤傳造  
齋藤慶一  
同 一人  
齋藤恒夫  
原田太郎  
正木信市  
正木伊平  
田中調一

二四二 同  
二四三 茄子  
二四四 南瓜  
二四五 玉葱  
二四六 同  
二四七 南瓜苗  
二四八 茄子苗  
二四九 花ゼラニウム  
二五〇 同  
二五一 南瓜  
二五二 甘藷  
二五三 甘藷  
二五四 筍  
二五五 同  
二五六 茄子  
二五七 同  
二五八 同  
二五九 同  
二六〇 南瓜  
二六一 トマト  
二六二 南瓜

同 同

田中昭次  
安那邦夫  
安那文潔  
安那義太  
木村義太  
森山喜一  
關藤石楠  
藤井武夫  
坂本千助  
藤井吉三郎  
坂本定恵  
松浦八右衛門  
松浦昌一  
三山源一  
三山重一  
三山重一  
三山重一  
三山重一  
笠原賀治生

二六三 トマト  
二六四 南瓜  
二六五 茄子  
二六六 トマト  
二六七 南瓜  
二六八 同  
二六九 同  
二七〇 茄子  
二七一 盆栽  
二七二 オモト  
二七三 化石  
二七四 同  
二七五 甘藷苗  
二七六 南瓜  
二七七 キヤベツ  
二七八 南瓜  
二七九 蘇鐵實

同 同

遠藤曾一  
小野五郎吉  
小野集太郎  
石井鹿藏  
坂本輝太郎  
坂本勉明  
小寺房吉  
齋藤宗太郎  
同 一人  
齋藤聲一  
山本明一  
山本宇平  
赤木猛次  
小寺房吉  
同 一人  
同 一人  
同 一人  
同 一人  
守屋教一

番號 一品  
一 醬油  
二 米麴  
三 醬油  
四 同  
五 同  
六 同  
七 同  
八 同  
九 同  
一〇 同  
一一 同  
一二 同  
一三 同  
一四 同  
一五 同  
一六 同

第一節 第三類 農産加工品

同 同

竹本竹一  
中川平太郎  
河田友樹  
河田友樹  
天野スギ  
片岡ヨシ  
河田八十一  
小寺豊作  
小寺治郎平  
仁科喜多治  
小寺千代太  
東山勝一  
仁科良一  
小川專作  
仁科正直  
赤木伊之平



|     |       |
|-----|-------|
| 101 | 同     |
| 102 | 同     |
| 103 | 同     |
| 104 | 同     |
| 105 | 同     |
| 106 | 同     |
| 107 | 同     |
| 108 | 同     |
| 109 | 同     |
| 110 | 同     |
| 111 | 同     |
| 112 | 味噌    |
| 113 | 玉子漬ゆで |
| 114 | 醬油    |
| 115 | 同     |
| 116 | 同     |
| 117 | 同     |
| 118 | 同     |
| 119 | 同     |
| 120 | 同     |

|     |   |        |
|-----|---|--------|
| 121 | 同 | 神内     |
| 122 | 同 | 同      |
| 123 | 同 | 東      |
| 124 | 同 | 伊藤一勝   |
| 125 | 同 | 松浦俊博   |
| 126 | 同 | 太田薫    |
| 127 | 同 | 松浦楠一   |
| 128 | 同 | 城戸權右衛門 |
| 129 | 同 | 坂本久一   |
| 130 | 同 | 松浦喜七   |
| 131 | 同 | 藤川幸太郎  |
| 132 | 同 | 藤川憲之助  |
| 133 | 同 | 篠原宅治   |
| 134 | 同 | 同      |
| 135 | 同 | 同      |
| 136 | 同 | 同      |
| 137 | 同 | 同      |
| 138 | 同 | 同      |
| 139 | 同 | 同      |
| 140 | 同 | 同      |
| 141 | 同 | 同      |
| 142 | 同 | 同      |
| 143 | 同 | 同      |
| 144 | 同 | 同      |
| 145 | 同 | 同      |
| 146 | 同 | 同      |
| 147 | 同 | 同      |
| 148 | 同 | 同      |
| 149 | 同 | 同      |
| 150 | 同 | 同      |

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| 151 | 同 | 猪原三 |
| 152 | 同 | 同   |
| 153 | 同 | 同   |
| 154 | 同 | 同   |
| 155 | 同 | 同   |
| 156 | 同 | 同   |
| 157 | 同 | 同   |
| 158 | 同 | 同   |
| 159 | 同 | 同   |
| 160 | 同 | 同   |
| 161 | 同 | 同   |
| 162 | 同 | 同   |
| 163 | 同 | 同   |
| 164 | 同 | 同   |
| 165 | 同 | 同   |
| 166 | 同 | 同   |
| 167 | 同 | 同   |
| 168 | 同 | 同   |
| 169 | 同 | 同   |
| 170 | 同 | 同   |
| 171 | 同 | 同   |
| 172 | 同 | 同   |
| 173 | 同 | 同   |
| 174 | 同 | 同   |
| 175 | 同 | 同   |
| 176 | 同 | 同   |
| 177 | 同 | 同   |
| 178 | 同 | 同   |
| 179 | 同 | 同   |
| 180 | 同 | 同   |

|     |    |
|-----|----|
| 143 | 同  |
| 144 | 同  |
| 145 | 同  |
| 146 | 米麴 |
| 147 | 醬油 |
| 148 | 同  |
| 149 | 同  |
| 150 | 同  |
| 151 | 同  |
| 152 | 同  |
| 153 | 同  |
| 154 | 同  |
| 155 | 同  |
| 156 | 同  |
| 157 | 同  |
| 158 | 同  |
| 159 | 同  |
| 160 | 同  |
| 161 | 同  |
| 162 | 同  |
| 163 | 同  |

|     |   |       |
|-----|---|-------|
| 164 | 同 | 小笠原萬藏 |
| 165 | 同 | 水田平七  |
| 166 | 同 | 三上茂   |
| 167 | 同 | 塚本用一  |
| 168 | 同 | 藤井覺治  |
| 169 | 同 | 丸山五三  |
| 170 | 同 | 天野常十  |
| 171 | 同 | 上野常十  |
| 172 | 同 | 佐藤尊一  |
| 173 | 同 | 原田重次郎 |
| 174 | 同 | 坂本賢一  |
| 175 | 同 | 神田益三  |
| 176 | 同 | 東山益三  |
| 177 | 同 | 西山忠雄  |
| 178 | 同 | 小野悅三  |
| 179 | 同 | 伏見奎太郎 |
| 180 | 同 | 小寺壽治  |
| 181 | 同 | 小寺龜一  |
| 182 | 同 | 小寺市雄  |
| 183 | 同 | 仁科五三郎 |
| 184 | 同 | 仁科元三郎 |

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| 164 | 同 | 一六四 |
| 165 | 同 | 一六五 |
| 166 | 同 | 一六六 |
| 167 | 同 | 一六七 |
| 168 | 同 | 一六八 |
| 169 | 同 | 一六九 |
| 170 | 同 | 一七〇 |
| 171 | 同 | 一七一 |
| 172 | 同 | 一七二 |
| 173 | 同 | 一七三 |
| 174 | 同 | 一七四 |
| 175 | 同 | 一七五 |
| 176 | 同 | 一七六 |

第二部 第一類 副業品

|     |   |   |      |
|-----|---|---|------|
| 164 | 同 | 同 | 榑平二郎 |
| 165 | 同 | 同 | 同    |
| 166 | 同 | 同 | 同    |
| 167 | 同 | 同 | 同    |
| 168 | 同 | 同 | 同    |
| 169 | 同 | 同 | 同    |
| 170 | 同 | 同 | 同    |
| 171 | 同 | 同 | 同    |
| 172 | 同 | 同 | 同    |
| 173 | 同 | 同 | 同    |
| 174 | 同 | 同 | 同    |
| 175 | 同 | 同 | 同    |
| 176 | 同 | 同 | 同    |
| 177 | 同 | 同 | 同    |
| 178 | 同 | 同 | 同    |
| 179 | 同 | 同 | 同    |
| 180 | 同 | 同 | 同    |
| 181 | 同 | 同 | 同    |
| 182 | 同 | 同 | 同    |
| 183 | 同 | 同 | 同    |
| 184 | 同 | 同 | 同    |

町村名 氏名  
北木島 山本重之  
山本龜野  
奥田寅吉





















煙草苗出品

番號 一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇

町村名 氏名  
 金浦 平井一郎  
 同 笠原要次郎  
 今井 仁科綾雄  
 金浦 丸山啓次郎  
 同 笠原進一  
 同 塚本眞平  
 同 守屋武雄  
 同 塚本一  
 同 平井米夫  
 同 小寺染太郎  
 同 笠岡 淳  
 同 森山兵衛  
 同 角田吉衛  
 同 塚本達平  
 同 塚本重兵衛  
 同 天野光一郎  
 同 榊原茂平  
 同 小寺長次郎  
 同 今井 坂本清太郎

一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九

六〇

陶山 内山磯吉  
 同 内山信雄  
 同 佃登久一  
 同 増成房太郎  
 同 樋上精  
 同 關藤政太郎  
 同 田中玉一  
 同 佐藤一房  
 同 佐藤數房  
 同 樋上章  
 同 安那時三郎  
 同 木村茂三郎  
 同 水田慶一  
 同 齋藤均  
 同 鏡山勝一  
 同 守屋佐一  
 同 中藤儀三郎  
 同 大平達三  
 同 大平丹三  
 同 増成忠  
 同 藤原栗平

四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇

同 藤本太郎  
 同 藤井芳太郎  
 城見 松浦九一  
 同 伏見作太郎  
 同 加藤眞喜太  
 同 坂本久代  
 同 坂本久實  
 同 松浦久一  
 同 坂本改治  
 同 坂本豐治  
 同 松浦賢一  
 同 松浦文兵衛  
 同 松浦利平  
 同 松浦繁雄  
 同 坂本松一  
 同 坂本仁吉  
 同 松浦錠一  
 同 坂本榮逸  
 同 石井保平  
 同 馬越喜八  
 同 同 西山角平

六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一

六一

同 武部友太郎  
 同 土屋正一  
 同 石井九一  
 同 佐藤鐵夫  
 同 川上十萬一  
 同 坂本忠平  
 同 東傳太  
 同 東正太郎  
 同 伏見房吉  
 同 橋本米太郎  
 同 大津寄榮一  
 同 山崎董雄  
 同 山村香一  
 同 佐藤只治  
 同 猪原定男  
 同 井上勝義  
 同 小寺清八  
 同 秀平義雄  
 同 妹尾國助  
 同 妹尾武一



|    |           |     |          |    |            |   |   |
|----|-----------|-----|----------|----|------------|---|---|
| 一三 | 牡蠣        | 同   | 伊藤政治郎    | 四四 | 松チヤブ臺      | 同 | 同 |
| 二四 | あさり       | 同   | 小見山文吉    | 四五 | 同          | 同 | 同 |
| 二五 | 斧の貝       | 同   | 小見山留一    | 四六 | 蒔繪ロー塗會席吸物碗 | 同 | 同 |
| 二六 | 菊目石       | 神島外 | 山川長治郎    | 四七 | カヤ張色々塗瓢    | 同 | 同 |
| 二七 | 牡蠣        | 神島内 | 伊藤紋九     | 四八 | 沈重付菓子器     | 同 | 同 |
| 二八 | 花立        | 大江  | 山村房男     | 四九 | 蒔繪付菓子器     | 同 | 同 |
| 二九 | カブトカニ標本   | 金浦  | カブトカニ研究所 | 五〇 | ハグリ蒔繪付吸物碗  | 同 | 同 |
| 三〇 | 古錢        | 同   | 藤井完一     | 五一 | 人絹チリメン地縞地  | 同 | 同 |
| 三一 | 人造眞珠裝身具   | 同   | 増成化學工業所  | 五二 | 人絹格子地      | 同 | 同 |
| 三二 | 漬物壓力器     | 同   | 北村徳一     | 五三 | 壁ポイル格子地    | 同 | 同 |
| 三三 | 桐箱        | 同   | 鹽出製作所    | 五四 | 人絹ドツテツド地   | 同 | 同 |
| 三四 | 酒醬油用呑口    | 同   | 鹽出一男     | 五五 | 人絹チリメン立縞地  | 同 | 同 |
| 三五 | 醬油壓搾器     | 同   | 吉濱銀山農家組合 | 五六 | 壁ポイル格子地    | 同 | 同 |
| 三六 | 帽子        | 笠岡  | 神田愛一     | 五七 | 人絹三本通格子地   | 同 | 同 |
| 三七 | フクロ       | 同   | 玄場七平     | 五八 | 人絹ドツテツド    | 同 | 同 |
| 三八 | キジ        | 同   | 角田友治郎    | 五九 | 人絹チリメン立縞地  | 同 | 同 |
| 三九 | イタチ       | 同   | 長友唯志     | 六〇 | 人絹ドツテツド地   | 同 | 同 |
| 四〇 | チーク材机一脚   | 同   | 同        | 六一 | 人絹三本通格子地   | 同 | 同 |
| 四一 | 松机一脚      | 同   | 同        | 六二 | 人絹雲形格子地    | 同 | 同 |
| 四二 | 同         | 同   | 同        | 六三 | 人絹ワイシャツ地   | 同 | 同 |
| 四三 | 前コフクボート器局 | 同   | 同        | 六四 | 磯自慢五合瓶二本   | 同 | 同 |

|    |          |       |          |     |               |    |    |   |   |
|----|----------|-------|----------|-----|---------------|----|----|---|---|
| 六五 | 同        | 一升罎二本 | 同        | 同   | 八六            | 同  | 二足 | 同 | 同 |
| 六六 | 大磯一升罎二本  | 同     | 同        | 同   | 八七            | 同  | 一足 | 同 | 同 |
| 六七 | 磯自慢二合罎二本 | 同     | 同        | 同   | 八八            | 同  | 四足 | 同 | 同 |
| 六八 | 同        | 一合罎二本 | 同        | 同   | 八九            | 同  | 十足 | 同 | 同 |
| 六九 | 雨傘蛇目二本   | 同     | 佐藤傘店     | 九〇  | 同             | 二足 | 同  | 同 | 同 |
| 七〇 | 雨傘二本     | 同     | 同        | 九一  | 同             | 三足 | 同  | 同 | 同 |
| 七一 | 同        | 二本    | 同        | 九二  | 同             | 四足 | 同  | 同 | 同 |
| 七二 | 同        | 二本    | 同        | 九三  | 同             | 一足 | 同  | 同 | 同 |
| 七三 | 同        | 二本    | 同        | 九四  | 同             | 七足 | 同  | 同 | 同 |
| 七四 | 同        | 三本    | 同        | 九五  | 同             | 二足 | 同  | 同 | 同 |
| 七五 | 同        | 一本    | 同        | 九六  | 同             | 二足 | 同  | 同 | 同 |
| 七六 | 磯自慢一斗入罎  | 同     | 小寺酒造合資會社 | 九七  | 文化タンス         | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 七七 | 琴        | 金房    | 同        | 九八  | 竹細工御飯取        | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 七八 | 同        | 白房    | 同        | 九九  | 柱掛一点          | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 七九 | 同        | 赤房    | 同        | 一〇〇 | 三味線一挺         | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八〇 | 下駄一足     | 同     | 栗嘉履物店    | 一〇一 | 同             | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八一 | 同        | 二足    | 同        | 一〇二 | 柱象牙一箱         | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八二 | 同        | 同     | 同        | 一〇三 | 琴一点           | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八三 | 同        | 同     | 同        | 一〇四 | 中折帽子九個        | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八四 | 同        | 同     | 同        | 一〇五 | 學生帽消防青訓運動帽集配帽 | 同  | 同  | 同 | 同 |
| 八五 | 同        | 三足    | 同        | 一〇六 | 下駄十足          | 同  | 同  | 同 | 同 |







|     |         |     |           |         |
|-----|---------|-----|-----------|---------|
| 笠岡町 | 小林彌市殿   | 笠岡町 | 神原利吉殿     | 塚本留吉殿   |
| 同   | 平井吉次殿   | 同   | 岡田茂夫殿     | 妹尾貞太郎殿  |
| 同   | 小野龜造殿   | 同   | 小野文六殿     | 守屋久太郎殿  |
| 同   | 江原幸十殿   | 同   | お多福食堂殿    | 坂本節夫殿   |
| 同   | 松平儀雄殿   | 同   | 登志駒殿      | 石丸權一殿   |
| 同   | 小見山傳三郎殿 | 同   | 吉澤安五郎殿    | 笠原代吉殿   |
| 同   | 石橋虎市殿   | 同   | 大西繼太殿     | 水川豊太郎殿  |
| 同   | 澁谷金治殿   | 同   | 藤澤紋治郎殿    | 花園食堂殿   |
| 同   | 日山商會支店殿 | 同   | 酒井理一郎殿    | 福武食堂殿   |
| 同   | 前川製材所殿  | 同   | 吉見保彦殿     | プラチナ食堂殿 |
| 同   | 柳生彌三郎殿  | 同   | ほまれ護謨工業所殿 | ベニス食堂殿  |
| 同   | 秋田彌一郎殿  | 同   | 福本繁太郎殿    | エビス食堂殿  |
| 同   | 岡ヨシ殿    | 同   | 藤原元吉殿     | 奥村金太郎殿  |
| 同   | 秋田定太郎殿  | 同   | 平市百松殿     | 杉屋食堂殿   |
| 同   | 長野杉平殿   | 同   | 清水淺太郎殿    |         |
| 同   | 真田嘉平殿   | 大江村 | 三島甚九郎殿    |         |

### 第四節 會場の決定

會場の決定は開催要項に依り左記の如く決定し各土地建物等の所有者に其借用方を交渉したるに何れも快諾を得決定したり

- 一、第一會場 舊中備製糸會社倉庫
  - 所有者 福山市 池田鹿太郎氏
  - 管理者 笠岡町 末本金三郎氏
- 二、第二會場
  - 一、出陳物 農産關係品一般參考品
  - 笠岡男子尋常高等小學校講堂
  - 出陳物 關係町村小學校兒童成績品
  - 國立公園寫真 內務省衛生局 國立公園協會出品
  - 三、第三會場 福島紡績工場プール 岡山縣廳內瀬戸内海國立公園協會出品
  - 所有者 福島紡績株式會社笠岡工場
  - 一、海女實演場
  - 二、水族館 笠岡漁業組合開催
  - 四、麥稈眞田競技場 大和座
  - 五、新人演劇發表大會々場 大和座
  - 六、畜産共進會々場 笠岡男子小學校前縣廳道
  - 七、遊覽飛行 笠岡港外
  - 八、賞狀授與式々場 笠岡町役場樓上
  - 九、祝賀式々場 古城山公園

### 第六節 宣傳其他

本共進會の宣傳に就ては特にその意を注ぎ、その宣傳に教育的意義を加へ一方優良なる圖案募集の意味に於て笠岡商業に依頼し、應募者を同校生徒に限定し圖案の懸賞募集を爲したり。此の計劃は同校に於て非常に歓迎せられ、積極的の御援助を受

けその結果應募者六名なりしが四月五日笠岡町役場樓上に於て大阪朝日新聞笠岡支局三好眞喜造氏合同新聞笠岡支局廣澤一男氏の立會關係係員列席して、慎重審査の結果同校三年生渡邊邦夫君の作品を優良と認め採用直ちにポスターに製作の上、本郡内は勿論淺口郡、後月郡、廣島縣深安郡一圓に配付したり、尙笠岡商工協會主催日光と國史博覽會の宣傳ビラに併せて宣傳をなし、又笠岡驛前笠岡驛笠岡商工協會並に本共進會と共同にて宣傳塔を會期二週間前に建設し會期中飛行機上より宣傳ビラを撒布し多大なる効果を收めまたは前記地方の小學校兒童に依頼し宣傳ビラの配付をなしたり。

## 第五章 會 場

### 第一節 第一會場

第一會場は舊中備製糸の倉庫にして會場内總坪數百五拾坪、事務所拾六坪にして位置は笠岡町の中央部に位し事務所近く交通至便にして、誠に絶好の會場なり、本會場の設備に就ては特に萬全を期し小寺、小野の兩主任事務員を初め各掛員不眠不休の活動を以て設備し、同會場入口にはアーチを建設し、裝飾を施し會場高く共進會旗を掲げ會場内にも造花、萬國旗等を張り環らし尙會場内には玩具店、菓子店等を開設せしめ誠に本會場としての設備遺憾なきを期したり。同會場に陳列せるもの農産關係品、穀菽類百三十四点、園藝品二百五十四点、農産加工品二百二十五点、副業品八百十八点計一千四百三十一一点外に中備素麵同業組合出品、明治製菓會社出品、神島人造肥料株式會社等の出品を首め一般農産品以外の参考品二百八十点を陳列したり。同會場は四月二十八日出品物を搬入し翌二十九日審査を了し、それより直ちに陳列に着手し四月三十日の夜半迄に至り

て其の陳列を了せり。斯くて翌五月一日午前八時を期して開場するや待ち兼ねたる觀覽者は我れ先にと入場しそれより閉會の五月五日午後六時に至る迄、全期間中入場者は通路に溢るゝ如くにして先着の入場者は後續の入場者に押され出品物に充分目を通す事も出來ず無理矢理に出口に押し出さるゝ如き盛況にて期間中を通じての觀覽者約十六萬人なり。

### 第二節 第二會場

第二會場は笠岡男子校の講堂を以てし同會場の設備及會期中の管理は同校に於て全部引受けられ、同校職員諸氏總掛にて準備せられ本共進會に對し多大なる御援助を賜りたり。同校正門前には「大アーチ」を建設し正門より會場に至る間は萬國旗、モール等張り環らし會場には各仕切りを施し左記の物を陳列したり。

- 一、出品種目及点數 小學校兒童成績品 一千二百二十五点 國立公園寫眞 五十点
- 二、出品先

| イ、小田郡南部小學校                      |     |      |       |
|---------------------------------|-----|------|-------|
| 學校名                             | 幅數  | 點數   | 學校名   |
| 稻倉小學校                           | 四   | 二〇   | 今井小學校 |
| 大江小學校                           | 二   | 一六   | 眞鍋小學校 |
| 大島小學校                           | 一   | 一二   | 金浦小學校 |
| 陶山小學校                           | 四   | 二〇   | 城見小學校 |
| 横江小學校                           | 二   | 二五   | 笠岡女子校 |
| 計                               | 五六幅 | 四七五點 |       |
| ロ、岡山縣教育會出品 縣下小學校兒童書方成績品 四十幅 二百点 |     |      |       |
| 學校名                             | 幅數  | 點數   | 學校名   |
| 富岡小學校                           | 二   | 二六   | 飛鳥小學校 |
| 神外小學校                           | 二   | 二四   | 北木小學校 |
| 白石小學校                           | 二   | 一六   | 大井小學校 |
| 高島小學校                           | 二   | 一〇   | 新山小學校 |
| 吉田小學校                           | 二   | 一七   | 笠岡男子校 |
| 計                               | 四四幅 | 一〇〇點 |       |

- 八、矢掛校出品 全國圖書方成績品 四十八幅 七百五十點
- ニ、内務省衛生局觀光課出品 國立公園寫真 五十點
- 三、入場人員數 第一日(五月一日) 六〇〇人 第二日(五月二日) 二、一七〇人
- 第三日(五月三日) 四、〇〇二人 第四日(五月四日) 五、五四〇人
- 第五日(五月五日) 二、一三八人 合計 一四、四三〇人

### 第三節 第三會場

第三會場は住吉町福島紡績株式會社笠岡工場の背面の『プール』を借用し笠岡漁業組合と共催にして、開會せるものにして海女實演場と水族館を併催せり。

抑々本共進會開催に關し冬關係町村農會の希望として産業獎勵を兼ねて一般參觀者の興味深きものを開催の希望ありしが故に本會長は笠岡漁業組合と密接なる聯絡を採り、共進會第三會場にして海女作業實演場開設を決意し町内に於ける開催適地を選定すると共に、三重縣水産試験場川越支場長、三重縣農林技師日比谷爲造氏に懇願して海女派遣の斡旋方を依頼したり。同氏も非常に此の舉に賛成せられ種々御奔走の結果左記二名の海女を本會の爲に派遣することを快諾せられたり。

三重縣志摩郡船越村 山 際 倭 子 喜 多 花 子

本會に於ては右決定したるを以て連日笠岡町内の會場として使用せるに適當の場所を實査せるの結果、前記の福島紡績工場内の『プール』を最適なるものと認め直に同工場長平田最平氏に借用方を依頼したるに同氏も本計劃に非常なる賛同を給り直ちに無料借用を快諾せられたり。一面笠岡漁業組合と種々協議し會場内に同組合主催の水族館を設置する事に決定し同組合に於

ても水槽の設備を爲すと共に、放養魚類を集むる件に付き笠岡生漁會社と連絡し種々準備を進められたり。

斯くて本會に於ては會期の切迫と共に會場の設備に着手し笠岡漁業組合役員中山戸三郎、中岡豊次郎、辻胸太郎三氏に本會大津事務委員と共に其作業指導監督方を依頼したり。會場の設備としては先づプール内に實演場の設備を爲す事とし八分板數百枚を以て縱横各六間の大筏を組み、其の大筏の上に運搬用のレール數十本を乗せせ水底に沈め以て實演場となし、一方プール内を清掃して清淨なる海水を溢へると共にプールの破損箇所を修理し、周圍に觀覽席を作り實演上面に天幕を張り西面の空地には板圍を爲し正面には大アーチを建設したり。

元來本共進會は産業獎勵の趣旨に依り開催せられたるものなるを以て各會場とも無料公開せられたるも本第三會場は設備及其その管理に多額なる經費を要するを以て入場料として大人拾錢小人五錢を徴收したり、但し本共進會出品者及共進會關係者には優待券を交付し無料入場せしめたり。本會場は共進會中の呼物となりて、水族館と共に一般觀覽者の絶賛を博し就中招聘の海女の水中演技は一入興趣深く觀覽者を満足せしめたり。入場者左の如し

總人員 一萬四千八百五十四人

### 第四節 麥稈眞田競技場

麥稈眞田の製造は本郡に於ける主たる副業にして其の盛衰消長は直ちに農家生活に影響する所にして従つて本競技會は本會開催中の重要な行事たり、會場として大和座を使用し五月二日午前十一時より正午迄一時間の開催せられたり。出場選手は一般選手六十名、小學校兒童選手四十名にして競技開會中は觀覽者應援者を以て大和座は満員となり大盛會裡に終了したり

出席選手左の如し

|                  |             |             |           |             |
|------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 大江村 三島於多美        | 陶山村 柳平      | 金浦町 増成 秀夫   | 城見村 藤井 英子 | 笠岡町 岡 君太郎   |
| 同 熊谷マシミ          | 大井村 仁科 幸子   | 同 平井 米夫     | 同 松浦 信子   | 同 豊田 和子     |
| 同 崎谷イマエ          | 同 守屋 富代     | 同 大高 富恵     | 同 松浦左知子   | 同 森 久子      |
| 吉田村 吉岡 志計        | 同 田中 林一     | 同 丸山 富子     | 同 加藤 文江   | 同 今井村 柏原 フミ |
| 同 須藤 喜志          | 同 増成 一女     | 同 丸山 美子     | 同 松浦トヨ子   | 同 遠藤 艶子     |
| 同 藤原登志恵          | 同 守屋百合子     | 同 北村 金子     | 同 鳥越千枝子   | 同 森谷千代子     |
| 同 石田 延子          | 同 守屋 次子     | 同 藤井 友子     | 同 齋藤 君江   | 同 仁科 千年世    |
| 同 吉岡 静子          | 同 藤井 小麻     | 同 藤井 輝子     | 同 齋藤 君江   | 同 山下 都美子    |
| 同 重見 二三          | 同 新山村 園部百合子 | 同 川上 一女     | 同 一三三駒子   | 同 仁科 君子     |
| 陶山村 森川 長利        | 同 長尾 初子     | 同 津浪千代花     | 同 川上 石子   | 同 神島内 三山 政江 |
| 同 内山 信雄          | 同 山部千恵香     | 同 加藤 孝子     | 同 平野 繁子   | 同 伊藤 ハマ     |
| 同 松浦 照義          | 同 定平 澄      | 同 藤川 愛子     | 同 小川 マサ   | 同 東 ミサコ     |
| 二、小學校兒童選手之部 三十四名 |             |             |           |             |
| 大江校 崎谷 孝子        | 同 守屋 愛子     | 城見校 鳥越 益美   | 富岡校 小野 芳孝 | 横江校 田村 政子   |
| 同 青木 武志          | 同 新山校 石井 信子 | 同 藤川 信恵     | 同 小野イクエ   | 同 池田 惠美子    |
| 吉田校 廣井 絹子        | 同 安藤 笑子     | 同 安藤 郁子     | 同 水田 喜美子  | 同 田村 嘉代子    |
| 同 重見 千恵          | 同 今井校 遠藤眞佐子 | 同 眞鍋校 川上 武雄 | 同 斧田 惠美   | 同 金浦校 清水 尋子 |
| 同 石田 知章          | 同 小林 勝江     | 同 奥野美砂重     | 同 岡本 起一   | 同 伊藤 梅吉     |
| 陶山校 佃 壽賀恵        | 同 神外校 竹田 幸恵 | 同 猪岡 清子     | 同 神田 優    | 同 山本 明男     |
| 大井校 守屋 民子        | 同 小川カツコ     | 同 佃 智子      | 同 安福 宣行   | 同 高島校 山本 明男 |
|                  |             |             |           | 同 小笹 益子     |

北木校 河田 梅香 一 北木校 川原ヒサミ 一 白石校 山川 町子 一 白石校 天野マサミ 一 陶山校 坂本 久恵  
 本會場の設備及開會中の諸事務については岡山縣眞田同業組合検査員濱田君次郎氏、小野茂氏及笠岡眞田製造地方組合  
 員仁科建次郎、佃勤、三村建次、大下金一、田丸アキ、鹽飽力藏、今城光太郎諸氏の献身的奉仕に依れり。

第五節 畜牛共進會

畜牛共進會は豫定の如く五月三日施行せられたり、會場は男子小學校前縣廳道にして各會場交通路の中心にあり、尙當日は  
 笠岡町大仙院の春季例祭にして人出最も多く整前たる陳列場に各飼養者得意の乳和牛を出品し、愛撫するの風景は一入觀覽者  
 をして動物愛の和かなる氣分を注がしむると共に畜産と農業の密接不離の關係を喚起せしめたり、近郷、近在數萬の人出に加  
 へ空に煙火の炸烈遊覽飛行の快翅、地には平和なる畜牛の鳴聲、實に快晴なる行春の一日共進會氣分は彌が上にも高唱せられ  
 たり。

本共進會出品者左の如し

| 番號 | 和洋牝牡名號  | 年  | 齡  | 町村  | 氏名    | 番號 | 和洋牝牡名號  | 年  | 齡  | 町村  | 氏名    |
|----|---------|----|----|-----|-------|----|---------|----|----|-----|-------|
| 一  | 和 牝 田中號 | 一〇 | 一年 | 陶山村 | 田中 嘉作 | 七  | 和 牝 第一出 | 一〇 | 四月 | 大江村 | 岡本 治郎 |
| 二  | 同 同 藤號  | 一〇 | 四月 | 同   | 關藤 繁造 | 八  | 同 同 河西  | 一〇 | 七月 | 稻倉村 | 井上 多平 |
| 三  | 同 同 内山號 | 八  | 二月 | 同   | 内山 政太 | 九  | 同 同 山多  | 一〇 | 七月 | 同   | 山本多喜市 |
| 四  | 同 同 北川號 | 一  | 二月 | 同   | 北川 順一 | 一〇 | 同 同 國司  | 一  | 七月 | 同   | 三才 同  |
| 五  | 同 同 川崎號 | 一  | 一年 | 同   | 川崎並次郎 | 一一 | 同 同 大森  | 一  | 同  | 大井村 | 守屋 幸一 |
| 六  | 同 同 安原號 | 一〇 | 四月 | 大江村 | 安原歌次郎 | 一二 | 同 同 大武  | 二  | 才  | 同   | 守屋 武平 |

|    |   |      |   |           |    |   |       |       |           |      |
|----|---|------|---|-----------|----|---|-------|-------|-----------|------|
| 一三 | 同 | 山喜   | 同 | 守屋喜太郎     | 二七 | 同 | まつもと  | 二才    | 神内村       | 松本 寛 |
| 一四 | 同 | 村上   | 同 | 村上 曾一     | 二八 | 同 | さとう   | 今井村   | 石丸 權一     |      |
| 一五 | 同 | 仁科   | 同 | 仁科 林作     | 二九 | 同 | 喜久    | 一〇年四月 | 金浦町 佐藤 幸市 |      |
| 一七 | 同 | 柏浦   | 同 | 柏原 浦太     | 三〇 | 同 | 第二河清  | 五才    | 黒田喜久三     |      |
| 一八 | 同 | 大山   | 同 | 三好關太郎     | 三一 | 同 | 第二石谷  | 三才    | 河相 清      |      |
| 一九 | 同 | かとう  | 同 | 加藤會茂一     | 三二 | 同 | ひらすさ  | 同     | 永山 長吉     |      |
| 二〇 | 同 | 岩谷   | 同 | 藤井 靜一     | 三三 | 同 | くまよし  | 四才    | 平井政太郎     |      |
| 二一 | 同 | 守熊   | 同 | 守屋 熊一     | 三四 | 同 | せきしよう | 同     | 城見村 寺田位佐美 |      |
| 二二 | 同 | 金定   | 同 | 藤井 福市     | 三五 | 同 | ことふき  | 二才    | 大江村 熊谷 良平 |      |
| 二三 | 同 | 田村   | 同 | 田村 留助     | 三六 | 同 | ことふき  | 同     | 陶山村 關藤 章一 |      |
| 二五 | 同 | ことふき | 同 | 新山村 定平 壽一 | 三七 | 同 | ことふき  | 六才    | 新山村 信定 壽市 |      |
| 二六 | 同 | 同    | 同 | 定平徳右衛門    |    |   |       |       |           |      |

乳牛ノ部

| 番號 | 種       | 類 | 名                             | 號 | 性 | 毛色  | 年齢     | 血              | 統       | 産地  | 出   | 品     | 人 |
|----|---------|---|-------------------------------|---|---|-----|--------|----------------|---------|-----|-----|-------|---|
| 六〇 | ホルスタイン種 |   | チドリオダ<br>ローラーアーチス             |   | 牝 | 黑白斑 | 一一年一月  | 父キングヤンス        | 父コロンダイク | 小田郡 | 金浦町 | 増成柳三郎 |   |
| 五九 | 同       |   | 第四ネザール<br>マツクス                |   | 同 | 白黒  | 一〇年一〇月 | 母ネギシヨハナ<br>ランド |         | 同   | 笠岡町 | 眞田作次郎 |   |
| 五八 | 同       |   | アツク<br>ラントライ<br>ユール<br>ヘンガベルト |   | 同 | 同   | 一〇年七月  |                |         | 同   | 金浦町 | 笠原 太吉 |   |

|    |         |   |   |  |   |    |        |   |  |     |     |        |  |
|----|---------|---|---|--|---|----|--------|---|--|-----|-----|--------|--|
| 五五 | 同       | 雑 | キング白乳淵  |  | 同 | 同  | 一〇年二月  | 父キングブリ<br>オクダレニユ<br>母白乳淵                            |  | 新山  | 新山村 | 平谷三四治  |  |
| 五七 | 同       | 同 | 松井  |  | 同 | 同  | 一〇年八月  | 第二セジスエ<br>プロスベクト<br>オロシヤイ<br>ムルシマイン<br>ヤール<br>コイエル  |  | 笠岡  | 今井村 | 小林 金平  |  |
| 五二 | 同       |   | チールスマ<br>オダ<br>プロスベクト   |  | 同 | 同  | 九年六月   | 父右同<br>母右同  |  | 新山  | 新山村 | 中信建太   |  |
| 五四 | 同       | 同 | チールスマク<br>イン<br>オダ<br>パロス   |  | 同 | 同  | 八年六月   | 父右同<br>母右同  |  | 同   | 同   | 有本 伍助  |  |
| 五六 | 同       | 同 | 第二小川  |  | 同 | 同  | 一〇年一〇月 | クーパー<br>スアコ<br>イン                                   |  | 同   | 今井村 | 小川 増一  |  |
| 五三 | 同       |   | アール<br>スアコ<br>マ<br>イン<br>カク<br>ペラス                                      |  | 同 | 黒白 | 七年二月   | 父第十三<br>キング<br>オ<br>イ<br>ン<br>ミ<br>ナ<br>ス<br>ク<br>ー |  | 千葉  | 新山村 | 船橋 廉作  |  |
| 五一 | 同       |   | チールスマ<br>ク<br>イン<br>オ<br>ウ<br>エル  |  | 同 | 白黒 | 六年二月   | 父第十三<br>キング<br>オ<br>イ<br>ン<br>ミ<br>ナ<br>ス<br>ク<br>ー |  | 小田郡 | 笠岡町 | 坂本 節夫  |  |
| 五〇 | ホルスタイン種 |   | 第三坂本  |  | 同 | 黒白 | 七年二月   | 母坂本   |  | 同   | 同   | 坂本 輝太郎 |  |
| 四九 | 同       | 雑 | 坂本  |  | 同 | 同  | 七年五月   |   |  | 同   | 同   | 坂本 茂喜  |  |
| 四八 | 同       | 種 | マンテラ<br>ベツ<br>ス<br>トラ<br>イ<br>ユ<br>ン<br>オ<br>ダ<br>モ<br>ー<br>レ<br>ン<br>ス |  | 同 | 同  | 一〇年一〇月 |   |  | 同   | 同   | 坂本 儀一郎 |  |
| 四七 | 同       |   | 同   |  | 同 | 同  | 六才     |   |  | 同   | 同   | 坂本 隆志  |  |
| 四六 | 同       | 雑 | 松清  |  | 同 | 白黒 | 一〇年七月  |   |  | 同   | 同   | 松井 清一  |  |

### 第六節 農具實演會

近時農業用器具機械の發達は目覺しく、誠に日進月歩の状態にて昨日の優良品は本日の二流品となり、本年の優秀品は來年に廻れば更に進歩發達せる物の出現するの狀態にあり、其の取捨選擇は機械類に精通せざる農業者の非常に至難とする所なり其の意味に於て本共進會開催を機會に農具實演會を開催し、當業者に陳列批評せしむるの機會を與へたり。

會場は古城山下鹽湯北方の空地にして、福山市池田鹿太郎氏の所有地を同氏の快諾を得て使用せるなり。同地は器具運搬の都合極めて至便にして會場の中央には東西に通ずる道路を残し兩側に實演器具を陳列したり。會場は第三會場たる海女實演場に隣接せるを以て觀覽者特に多く、勇ましき實演器具機械の爆音は立て並べられたる色とりどりの廣告旗と共に觀覽者の足を留め、尙會場にて實演機具の賣買契約の成立せるもの多數ありたり。一般需要期に接する麥摺器等の比較研究をなす農家組合幹部米麥調製業者等も多數ありて一般當業者に多大なる参考となりたり。

本實演場出品の農具及出品者氏名左記の如し

| 品名    | 實演坪數 | 住所        | 氏名           |
|-------|------|-----------|--------------|
| 製繩機   | 三坪   | 笠岡町大字富岡   | 笠原次郎         |
| 各種農具  | 二五   | 岡山市上石井二〇七 | 岡山縣購買販賣組合聯合會 |
| 噴霧器   | 五    | 岡山市内山下三〇  | 藤井廣正         |
| 噴霧器   | 二    | 淺口郡黒崎村    | 栗本敏夫         |
| 麥摺器   | 一〇   | 岡山市内山下二四  | 佐藤庄次郎        |
| 麥摺器其他 | 一〇   | 岡山市東山崎下   | 中田農具製作所      |

|            |    |            |        |
|------------|----|------------|--------|
| スベシアルマグネット | 二  | 岡山市内山下相生町  | 三和商會   |
| 噴霧器        | 二  | 福山市住吉町     | 河村一郎   |
| エーモト重油機關   | 二  | 深安郡神邊町     | 日下部徳太郎 |
| 唐箕         | 一  | 倉敷市五二一     | 池田善太郎  |
| 發動機        | 六  | 岡山縣後月郡井原町  | 川合哲夫   |
| ユニカル除草器    | 一  | 小田郡城見村     | 爲則龜二   |
| 各種農具       | 六  | 宇野線茶屋町     | 植野農機商會 |
| 夜間作業照明裝置   | 二  | 小田郡笠岡町     | 中川一馬   |
| 各種農具       | 六  | 淺口郡大島村字西大島 | 柿田杉盛   |
| 同          | 一〇 | 倉敷市日之出町    | 河上商會   |
| 麥摺機        | 六  | 兒島郡灘崎村     | 板野農機商會 |
| 麥摺機        | 一〇 | 福山市吉浦町     | 中島源助   |

### 農具實演展覽會規程

- 第一條 本會ハ小田郡南部町村農會聯合主催第二回産業共進會農具實演展覽ト稱シ優良農具ノ普及ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ昭和十二年五月一日ヨリ同日ニ至ル四日間小田郡笠岡町高申備製糸跡ノ空地ニ於テ開催スルモノトス
- 第三條 本會ノ事務所ハ小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會事務所内ニ置ク
- 第四條 出品ヲナサントスルモノハ別記様式ニ依ル申込書ヲ昭和十二年四月二十日迄ニ本會事務所ニ差出スベシ
- 第五條 出品物ハ之ヲ審査セズ



- 第六條 出品物ハ各出品物毎ニ品名、出品者、氏名ヲ明記セル標札ヲ附シ昭和十二年四月三十日迄ニ本會々場ニ搬入陳列スベシ
- 第七條 出品物ハ本會ニ於テ指定セル場所ニ出品者之ヲ陳列スルモノトス  
出品者ハ陳列又ハ實演場一坪ニツキ金壹圓ノ使用料ヲ申込ト同時ニ納付スベシ  
但シ申込坪數ハ會場ノ都合ニ依リ製限スルコトアルベシ
- 第八條 出品物ノ荷造運搬組立及實演ニ要スル費用ハ總テ出品者ノ負擔トス  
實演ニ要スル材料天幕其他必需品ハ總テ出品者ニ於テ準備スルモノトス
- 第九條 出品者ハ陳列後本會ノ許可ナクシテ自由ニ出品物ヲ搬出スルコトヲ得ズ
- 第十條 出品物ノ保管ニ關シテハ相當ノ注意ヲナスト雖モ亡失毀損其他一切ノ損害ニ對シテハ本會其責ニ任ゼサルモノトス
- 第十一條 出品物ハ閉會後二日以内ニ搬出スベシ
- 第十二條 觀覽時間ハ毎日午前八時ヨリ午後六時迄トス
- 第十三條 觀覽料ハ無料トス
- 第十四條 誇大ナル宣傳廣告ヲナシ又ハ普及上必要ナラズト認メル出品物ノ陳列實演ハ之ヲ拒絶スルコトアルベシ、此ノ際ト雖モ使用料及實費ノ徴收ヲ免ルコトヲ得ズ

第一號様式 表面

出品 申込書

小田郡南部農會聯合主催第二回共進會農具實演展覽會規定ヲ遵守シ出品致シ度所要事項ヲ記載シ此段申込候也

昭和十二年 月 日

出品者住所 氏 名 印

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會  
農具實演展覽會々長 森谷信夫 殿

裏面

| 品名 | 數量 | 價格 | 陳列實<br>演坪數 | 天幕ノ設<br>備ノ要<br>不要 | 其他ノ<br>希望事項 |
|----|----|----|------------|-------------------|-------------|
|    |    |    |            |                   |             |
|    |    |    |            |                   |             |
|    |    |    |            |                   |             |
|    |    |    |            |                   |             |
|    |    |    |            |                   |             |

第七節 新人演藝發表大會

本會演藝部に於ては本會開催を機會として、農村藝術を振興して農村生活に潤を與へ廣く農村娛樂普及の思想を喚起せしむるの意味に於て、新人演藝發表大會を開催し岡山放送局に於て本年初頭行れたる新人募集のテストに合格せられたる隠れたる藝術家の肉聲を直接地方大衆の前に發表を乞ひ將來の大成を祝福すると共に、本會開催に一段の光彩を添ゆるべく計劃せり。

本會は産業共進會の最高潮に達したる五月三日午後五時より大和座に於て開催せられたり。

本會の趣旨を賛し當日出演を快諾せられ出席せられたる新人諸氏名及此の出演プログラム左記の如し

プログラム

開會の辭 共進會長 森 谷 信 夫  
紹介並挨拶 演藝部係長 山 田 定 男  
番 外

一、歌 謡 曲 (富岡) 谷 坂 繁  
妻戀道中、赤城子守唄、旅笠道中  
一、歌 謡 曲 (笠岡) 藤 井 武 男  
慈悲心鳥、愛の小窓、青春日記

●浪 花 節 京山圓昇コト  
一、烈士村上喜劍 (鴨方) 羽 川 豊 吉

●新 内 (岡山) 眞 野 竹 野  
一、明け鳥 (寄島) 大 島 鶴 月

●詩 吟 (岡山) 赤 木 國 市  
一、爾靈山、芳野懐古、前兵兒謡

●大衆物語 (岡山) 赤 木 國 市  
一、愛國の母 (倉敷) 賀 陽 旭 鳳

●琵琶 一、地震加藤 (岡山) 香 原 満 知 子  
●長 唄 一、楠 公 (笠岡) 山 田 定 男  
●詩 吟 一、大楠公、金州城、九月十三日夜

●浪 花 節 京山日出春コト  
一、義士外傳忠僕直助 (岡山) 赤 木 多 賀 男

●義 太 夫 (笠岡) 今 城 勘 一  
一、忠臣蔵七段目 掛合 芦刈貴笑 齋藤如牛  
小林霞江 岡崎竹葉

●俚 謡 (KK專屬) 小野注連夫氏  
一、高瀬舟唄 中村鏡南作詞 (全國俚謡競演第五位)  
小野秋風作曲 (全國俚謡競演第五位)

●琵琶 一、二百三高地 (倉敷) 渡 邊 旭 洋  
一、お夏清十郎、回想譚、男の純情 (芳井) 三 村 康 衛

●歌 謡 曲 一、お夏清十郎、回想譚、男の純情 (芳井) 三 村 康 衛  
●劍 舞 (至心流師範) 小坂雄劍氏  
特別 一、川中島  
出演 一、兒島高德 詩吟 山田月峰

●琵琶講談 (金光) 逸 見 旭 洋  
一、召集令 (寄島) 木 梨 完

●物 眞 似 一、鶴の鳴聲  
●閉 會 擴聲装置 サキガケラチオ店

本計劃は一般の人氣盛大にして会場整理のために前賣券(一枚拾五錢)の發賣をなしたるに、期日前に豫定數賣り切れの盛況を呈し、當日は定刻前より会場は立錐の餘地なく入場者一千二百名を突破し豫定の如く午後五時開會せられ、森谷共進會長の開會の辭、山田演藝掛長の紹介並挨拶ありて、プログラムに依り豫定の如く進行し本會長より出演者毎に感謝狀及記念品を贈呈し午後十一時大盛況裡に閉會せり。

### 第六章 開場式

輝かしき本共進會開場式は五月一日午前七時笠岡町役場樓上に於て舉行せられたり。定刻關係役職員を初め關係町村農會長顧問、來賓一同着席し左記の順序に依りて舉行せられ式後一同祝宴を催し笠岡町役場玄關前にて記念撮影を行ひそれより會長は來賓一同に對し各会場を案内し右來賓の入場後一般觀覽者を入場せしめたり。

#### 一、開場式順序

- 一、着席 二、敬禮 三、事務長經過報告 四、會長式辭 五、來賓祝辭 六、閉式 七、祝宴
- 二、事務長經過報告

本日をして小田郡南部十四ヶ町村農會聯合第二回産業共進會開場の式を舉行せらるゝに當りまして謹んで事務の經過を申し上げます。去る昭和十一年十二月本會開催の件を決議致されましてより以來茲に半ヶ年、其間本郡農會職員各位の御懇篤なる御指導と本會係員諸氏の不眠不休なる御活動と關係各方面の絶大なる御援助とに依りまして昨三十日深更を期して各会場共設備

萬般遺憾なく完了致しました。謹んで茲に只今より各會場の開館の御宣示あらんことを申請致します

昭和十二年五月一日

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會 事務長 黒田 常五郎

三、會長式辭

本日茲に來賓各位を初め關係者諸氏の御列席を得まして此の式を舉ぐる事を得ますは誠に私の光榮とする所であります。係員諸氏には日頃寢食を忘れて出品物の整理陳列に御努力下されまして會場の設備萬端滞りなく終了いたして居りまして今や入場者を待つばかりになつて居ります茲に謹んで其の勞を感謝致しますと同時に今後五日間の會期中更らに一層の御努力を以てよく有終の好成績をお舉げ下さらんことを念願致して止みません。一言蕪辭を述べまして開場の御挨拶を申し上げます

昭和十二年五月一日

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會會長 森 谷 信 夫

第七章 審 査

第一節 審 査

審査は要項決定の如く四月廿九日各品目一齊に施行せられたり。設備せられたる會場に昨廿八日搬入せる各種出品物は各掛員の手依りて種類別に整理せられ當日審査長及各審査員諸氏も會場に到着せられ各種目毎に細密丁寧なる審査を行はれたり

第二節 審 査 員

審査員諸氏の氏名及審査項目左の如し。

第二回産業共進會審査員芳名

|         |                |          |
|---------|----------------|----------|
| 審査長     | 地方農林主事         | 渡邊 龍一氏   |
| 同       | 岡山縣畜産組合聯合會技師   | 岩田 鐸氏    |
| 穀 菽 類   | 岡山縣穀物検査岡支所長    | 山本 八郎平氏  |
| 園 藝 品   | 岡山縣立農事試験場技手    | 角谷 太郎氏   |
| 農産加工品   | 岡山縣農會技師        | 山上 耘平氏   |
| 鶏 卵     | 岡山縣農林技手        | 杉浦 義郎氏   |
| 副 業 品   | 同              | 長尾 勇氏    |
| 除 虫 菊   | 岡山縣除虫菊同業組合検査員  | 本 地 喜久治氏 |
| 煙 草     | 地方專賣局玉島出張所技手   | 大 月 豊氏   |
| 麥 稈 眞 田 | 岡山縣麥稈眞田同業組合指導員 | 阿 部 仁平氏  |
| 麵 類     | 中備素麵同業組合検査監督   | 谷 田 銀藏氏  |
| 畜 牛     | 岡山縣立種畜場地方農林技師  | 松 本 一太氏  |

第八章 賞狀授與式

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會賞狀授與式は豫定の如く五月四日午後一時より笠岡町役場樓上に於て舉行せられたり。定刻花煙を合圖に一同着席したるが縣官、審査長、審査員、一般來賓、受賞者、顧問、關係役職員其他三百餘名列席一同着席敬禮の後小寺副會長開會の辭、黒田事務長の事務報告、審査長岡山縣渡邊副業主事及岡山縣畜産組合聯合會岸田技師の

詳細なる審査報告を終るや、森谷會長より一等賞以下三百八十一名の受賞者に對し順次賞狀及賞品を授與し、式辭朗讀の後岡山縣麥稈眞田同業組合理事を初め來賓諸氏の祝演、小田郡農會長、笠岡町長其他の祝辭、受賞者總代の答辭、大井村農會片山技手の閉式の辭にて午後三時三十分盛會裡に閉會し、それより直ちに來賓諸氏を古城山上に設備せられたる宴會場に案内し祝賀園遊會を開催したり。春空に打ち上げらるゝ花火に興を添へ上空を旋回する飛行機の爆音華々しく滿開の八重櫻酒間を斡旋する美妓を以て本會最後の行事たる祝宴を一段の意義深きものたらしめたり。

### 事務報告

茲ニ本日ヲ以テ小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會審査結了シ賞狀授與式典ヲ舉行セラル、ニ當リ事務ノ概要ヲ述フルハ不肖ノ光榮トスル所ナリ。

抑々本共進會ハ昨昭和十一年十一月二十八日關係町村農會會長ニ於テ其開催ヲ決定セラレ直チニ役職員ヲ選任決定シ越ヘテ十二月十五日關係町村技術員主務員打合會ニ於テ其ノ規程ヲ制定シ計劃ノ大要ヲ決定シ茲ニ本會事務開始ノ第一歩ヲ踏ミ出シタルナリ。

斯クテ直チニ本縣知事ヲ初メ關係各團體ニ對シ補助及審査員ノ派遣方ヲ申請シタリ。茲ニ於テ關係職員ハ直チニ出品ノ勸誘ニ努力セラレ本會ニ於ケル今回ノ受付点数穀類ニ二百七十七点、園藝品二百七十五点、副業品八百六十二点、農産加工品百七十六点、水産品三十六点、麥稈眞田三百三十一點、眞田用原料二十七点、煙草苗九十八点、參考品二百八十四点、合計二千三百五十六点ヲ算シ是レヲ昭和九年五月ニ開催セラレタル第一回産業共進會ノ出品点数一千四十二点ニ比シ千三百十六点ノ増

加ヲ示シタルノ盛況ヲ見ルニ至レリ、更ニ本會ノ附帶事業タル農具實演場ニ於テハ總計壹百坪百二十点ノ優良農具ノ出陳及ビ實演ヲ行ヒ、次イテ五月二日麥稈眞田競技會ヲ開催シ其ノ出場參加選手ハ一般選手及ビ小學校選手ト合シ九十三名ニ上ルノ盛況ヲ呈セリ、五月三日開催ノ畜産共進會ニ於テハ優良畜牛五十四点ノ出品アリ、尙海女實演場ニ於テハ海底ニ於ケル特殊ナル作業ヲ一般ニ紹介シ新人演藝發表大會ニ於テハ一般世人ヨリ忘却セラレ勝チナル農村藝術ノ粹ヲ紹介シ多大ノ贊同ヲ博シタリ。此間本郡農會職員諸氏ヲ初メ關係團體職員諸氏ハ公務御多端ナルニモ不拘其ノ全力ヲ盡シテ御懇篤ナル御指導ヲ賜リ又關係町村職員諸氏ハ連日連夜本會事務委員トシテ献身的ノ活動ヲセラレ、尙町村ノ有志ニヨリ地方産業獎勵ノ意味ニ於テ絶大ナル御援助ヲ賜リ本町女子青年團ニ於テハ會場ノ整理ヲ校長職員各位ニ亘リ第二會場タル教育參考館一切ノ準備及ビ事務ヲ擔當セラレ本町漁業組合役員諸氏ニ於テハ第三會場海女館及ビ水族館ノ困難ナル準備作業ヲ奉仕敢行セラレ斯クテ本共進會々務ハ豫定ノ如ク進行シテ本日ヲ迎フルニ至レリ。

願フニ本會ノ開催ハ本郡農會ヲ始メ關係各種上級團體ノ絶大ナル御後援ト關係職員諸氏ノ熱心ナル御盡力ニ依ルノ賜ニ外ナラス。斯クテ本會開催ハ地方産業開發ノ爲ニ裨益スル所誠ニ多大ナルモノアリト信ズ、一言以テ事務ノ概要ヲ報告ス。

昭和十二年五月四日

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會 事務長 黒田 常五郎

### 審査報告

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會ヲ開催ニ當リ不肖審査長ノ重任ヲ擔ヒ各部門審査員諸氏ノ補翼ニ依リ審査ヲ完了シ茲ニ其ノ成績ヲ報告スルコトヲ得ルハ最モ光榮トスル所ナリ。

本會ノ出品物ハ總數千六百二十六点ノ多キニ達シ其ノ種類モ亦極メテ多ク審査ハ實ニ至難ナリシモ審査諸氏ノ精勵ニ依リ周密嚴正ニ之ヲ結了スルコトヲ得タリ、而シテ審査ハ縣郡町村指導獎勵ノ方針ヲ基礎トシテ種類ニ輕重ヲ置キ各種類ニ就テハ市價需要ノ狀況ヲ察シ或ハ實用的價值ニ立脚シ品質形狀ニ優劣ヲ定メ個々細密ニ審査シテ優劣ヲ審査セリ。其ノ結果一等二十九点、二等五十八点、三等百十点、四等百八十四点計三百八十一點ヲ選拔シ眞田競技ニアリテハ競技ノ結果ニ基キ一等二名、二等八名、三等十六名、四等十二名計三十八名ヲ選定シ既ニ會長ノ裁定ヲ經タリ。右優良品出品者並ニ競技優秀者ニ對シテハ褒賞ノ授與アラムコトヲ謹ンデ稟請ス、今出品物ニ就キ當業者ノ參考ニ資スル爲其ノ重ナル種類ニツキ聊カ概評ヲ試ミントス。

米ハ出品五十二点ニシテ日之出選及朝日種大部分ヲ占メ優品少ナカラザリシモ其ノ生命トスル乾燥ノ不充ナルモノアリ將來乾燥程度ノ向上ニ全力ヲ注グベク尙調製モ近時叔摺作業組合ノ活動ニ依リ技術向上シタリト雖未ダ缺點ナシトセズ今後優良農具ノ普及ト共ニ技術ノ練磨ニ一段ノ努力ヲ要スベシ。

麥類ハ六十八点ノ出品アリ本部ハ裸麥ノ產額相當多ク今回優良品多カリシモ中ニ收穫適期ヲ失シ或ハ調製不良加フルニ貯藏方法不完全ナリシ爲メ著シク品質ヲ損シタルモノ虫害ヲ蒙リタルモノ等アリ之等缺點ノ改善ニ力ヲ注グ要アリ。尙米麥ヲ通ジ原種系ニ選ザカリタルモノ相當アリ縣ノ方針ニ則リ原種ノ更新ニ力ヲ致スヲ要スベシ。雜穀ハ僅カニ十四点ニシテ優品ニ乏シク豆類ハ百四十二点ニシテ選別容易ナル爲カ粒揃良好優品多カリシモ人工ヲ加へ過キタルモノ及收穫期ヲ失シタルモノ肥培宜シカラサルモノ等ナシトセズ之亦改善ニ努力サレムコトヲ望ムデ止マズ。

蔬菜類ハ二百二十七点ニシテ内芋類七十一蔬菜苗百十其他四十六ノ出品アリ甘藷ハ何レモ見ルヘキモノナリシモ一般ニ外皮粗硬ノ感アリ土地ノ改良ニヨリ宜シク外觀ノ整備ヲ計ルヘク馬鈴薯及里芋ハ一段ノ肥培並ニ調製ノ努力ヲ要ス。

豌豆ハ一、二優品ヲ除キ採取ノ適期ヲ逸シタルモノ熟度揃ハサルモノ果梗長短整一ヲ缺キタルモノ等アリ、胡瓜ハ出品少ナカリシモ優良ナリ只果身ニ白味ヲ帶ビタルモノ採取ノ適期ヲ失シタルモノアリ、本品ハ豌豆ト共ニ地ノ利ヲ得タル土地ニ於テハ有利ナルヲ以テ栽培ニ最善ノ努力ヲ拂ヒ益々盛ナラムコトヲ望ム。

玉葱及大根ハ一般ニ肥大不充且大根ニ虫害ヲ受ケタルモノ多シ將來施肥法及驅虫ニ關シ留意セラレムコトヲ望ム、蔬菜苗ハ南瓜、胡瓜、蕃茄、茄子等大部分ニシテ何レモ優良ナリシハ意ヲ強クスル處ナリ然レドモ南瓜ニハ一部徒長ノモノ胡瓜及茄子ニハ徒長ト共ニ發育不充分ノモノアリ宜シク苗床ノ構成及手入等適順ヲアヤマラズ健全苗ノ育成ニ努ムベシ。

煙草苗ノ出品ハ九十七点之ガ審査ハ葉色、葉質、幹、均整等ニ依リ行ヒタルガ近時造床材料ノ選擇及用法並其ノ後ノ管理等一般ニ進歩シ優良苗ヲ得ルニ至リタルハ慶賀ニ堪ヘズ然レドモ初期ノ生育ヲ害シタルモノ又ハ軟弱ナル生育ヲ遂ゲタルモノ等アリ、米葉耕作ニ於テハ早肥早作ニヨリ葉肉厚ク中支骨纖少ニテ彈力アリ、香氣ニ富ムト共ニ鮮黃色ヲ最モ賞味セラル、ヲ以テ之ガ目的達成上四月下旬強健ナル適苗ヲ得ルコト第一條件ナルヲ以テ今後特ニ苗床土ノ調製上土ト堆肥トノ混合割合及油粕醱酵方法ノ改善ヲナスト共ニ移植前ニ重垣防風垣ノ除去育布開キノ遅レザル様注意シテ強健齋一ナル良苗ノ育成ニ努ムベシ。

除虫菊乾花ハ出品五十五点其ノ品質形狀色澤調製等ニヨリ殊ニ有効成分『ピレトリン』ノ含有多少ハ充分考慮シテ審査ヲ行ヒタルガ概シテ優良ニシテ流石全國ニ冠タル岡山縣産ノ聲價ヲ發揮シ居ルハ大ニ意ヲ強クスル處ナリ、將來益々斯業ノ發展ヲ望ムデ止マズ。

鶏卵ハ二百三点ニシテ外觀電燈檢卵及内容ヲ摘出シテ審査セリ優良品多カリシモ之ヲ精査スルニ尙改善ノ餘地相當アリ、即チ外觀一般ニ新鮮美ヲ缺キ殆ンド産卵後手入ヲナシ或ハ殻ノ不潔ノモノ粒ノ不整ノモノ殻ノ薄キモノ等アリ、又貯藏法惡シク

日數ヲ經過シタル状態ノモノ、内容ノ動搖スルモノ、血液其他異物ノ混ゼルモノ、卵黃卵白ノ粘稠度ノ乏シキモノ、卵黃ノ淡キモノ、卵白ノ黄色ノモノ等アリ今後ハ鶏ノ健康状態、飼料ノ配合調理、鶏舎巢箱ノ清潔等ニ注意シ鶏卵ノ商品化ニ努力セラレムコトヲ切望ス。

自家用醬油ノ出品ハ百六十五点ニシテ適味審査ニ重キヲ置キ旨味ノ強キモノヲ最モ優レタルモノトナシ次ニ香氣鹽味色澤等ヲ鑑別シ尙之ガ比重ヲ測リテ審査セリ而シテ其結果ヲ見ルニ市販賣品以上ノモノ百十六點少シク加工ヲ必要トスルモノ三十四點不良ナルモノ僅二十五點、即チ一割弱ナリシハ當業者ノ熱心ナル研究ト技術員ノ指導宜シキヲ得タルモノタルベシ、不良品ノ共通ノ缺點ハ製麴中ニ納豆菌ノ聚來ニヨリ醬油ニ混濁ヲ生ゼシモノ多ク尙搾リタル醬油ヲ長期間貯藏セシタメ日落チユヨリ旨味ヲ害シタルモノナリ。今後ハ製麴技術ト搾リ回数ノ調節調味及火入ノ滿全ヲ期スル爲共同醸造又ハ共同製麴ヲ行ヒ技術員ノ指導ヲ乞ハレタリ。米麴ハ出品九點ニシテ成績極メテ良好、只出麴ヲ急ギテ『ハゼコミ』ノ充分ナラザリシモノアリ注意ヲ要ス。

麵類ハ手延素麵四十五點、機械製素麵三點、同干饅饅三點計五十一點ナリ出品物ハ概シテ良好ナリシハ欣幸トスル所ナリ然レドモ手延素麵中鹽度甘キニ失セルモノ、麵線ノ大小不同ノモノ、圓形ナラザルモノ二、三點アリ、之レ掛卷機ノ燃リ口ト『コナシ』ノ調度關係ニ由ルモノニシテ注意ヲ要ス、尙把仕立ノ大小不同把締弛キモノ、其他外觀醜キモノアリ。商品價值ニ影響スル處多シ機械製品ハ出品極メテ少カリシモ品質良シ只把仕立ニ規定ニ適ハサルモノアリシハ遺憾トス。

麥稈眞田ハ三百三十一點ニシテ五菱二百五十點、片丸四菱五十一點、單四菱七十點其他五點ナリ、原料ノ良否編方ノ巧拙仕立方ノ優劣ニ重點ヲ置キ比較審査ヲ行ヒタリ。出品物ハ概シテ優良ニシテ前回ニ比シ尙上進歩ノ跡見ルヘキモノアリ殊ニ五菱

眞田カ其ノ品質品位ノ優良ナル點ニ於テ特ニ著シキモノアルハ時代ノ要求ニ迎合セルモノニシテ生産者ノ熱心ト努力ニ賞辭ヲ呈スルニ吝ナラズ、然リト雖モ末ダ中ニハ色澤ノ冴ヘザルモノ幅員不同ノモノ等アルハ原料ノ揀別ニ一層ノ注意ヲ要スルモノナリ、尙繰リ過ギテ或ハ濕氣多量ノモノ等モ見受ケタリ之亦今後充分ノ注意ヲ切望ス。麥稈眞田原料ハ出品二十七點ニシテ點數僅少ナルノミナラズ品質品位ノ優秀ナルモノ少ナカリシハ甚ダ遺憾トス、是レガ採取ハ適期ヲ過サズ充實シタルモノヲ採收スルコトニ努力スベシ。

蕨製品ノ出品ハ八十一點ニシテ繩、筵、春、多ク總テ特別入念ニ製作シ一般市販以上ノ品位ナリ繩ハ備後系統ノ摺繩ニシテ原料ヲ吟味シ捻度整一ナルモ強度ニ過ギ返ツテ使用價值ノ損ジタルハ憾ムベシ。筵ハ農用筵ヲ主トシ春ト共ニ概シテ良好其他ニモ一、二優品ヲ見タリ。

繭製品ハ疊表及敷蕨座六點製織技術ハ見ルヘキモノアルモ繭ノ使用不經濟ナルモノアリシハ遺憾トス。

木竹加工品其他ノ雜工品十八點出品アリシモ竹木工品ニ一、二優良品アル外概シテ製品幼稚技術方面ニ一段ノ努力ヲ要スヘシ。

水産加工品ハ大部分乾魚及『キンコ』ニテ總點數三十六點、煮干鱈、干フグ、デビラ、ニ優秀品アリタルモ煮干物中ニハ製造操作ニ適法ヲ缺ギ又貯藏宜シキヲ得ズシテ著シク品位ヲ墜セサルモノアリ。果實及其加工品ハ梨ヲ主トシ柑橘及干無花果二十七點アリ品質優良ナルモノ多ク將來本地方ニ適スル産業トシテ大ニ發展ノ餘地アルヲ思ハシメタリ、就中梨ニ良品多カリシモ中ニハ燐肥ノ施用ヲ怠リ風味ヲ墜ヒシモノ及貯藏法不良ナル爲肉質ニ腐臭ヲ生ジタルモノアリ注意ヲ要ス。

次ニ五月二日舉行シタル麥稈眞田競技ノ成績ヲ述レバ選手人員ハ町村選出一般ノ部六十名ニシテ丸五菱ヲ小學校兒童選手ハ

三十七名ニシテ單四菱ヲ共ニ一時間製編セシメ製品ノ丈尺及品位ニヨリ優劣ヲ定ム、選手ノ態度ハ頗ル嚴肅眞面白ニシテ技巧並伸長共ニ前回ニ比シ進歩ノ跡ヲ認メタルハ欣快ニ堪ヘズ、然レドモ之ヲ淺口郡地方ノ成績ニ比スレバ格段ノ差アリ、且單四菱ニアリテハ嶮切耗不同角度ノ點ニツキ改善ヲ要シ丸五菱ニテハ以上ノ外繼キ方ニ欠點アリ更ニ一層ノ熟達ヲ切望ス。

出品物並ニ競技ノ結果ニ對スル概評以上ノ如シ之ヲ要スルニ郡並ニ町村當局ノ指導其ノ宜シキヲ得タルト當業者諸氏ノ眞摯ナル努力ニ依リ第一回ニ比シ格段ノ進歩ヲ示シ多クノ優良品ノ出品ヲ見タリト雖モ種類ニ依リテハ未ダ技ニ於テ缺グル處少シトセス蓋シ本共進會ノ開催ノ目的タル各種産業ノ啓發ニ資セムトスルニアリ出品物並ニ競技ノ結果ノ比較研究ハ生産技術ノ改善ニ對スル好個ノ機會ナリ。當業者ハ此等成績ニ徴シ自ラ採長補短一層技ニ精勵シ以テ地方産業ノ隆昌ニ倚與セラレムコトヲ望ムデ止マザルナリ。

昭和十二年五月四日

審査長 地方農林主事正六位 渡邊龍一

### 審査薦告

本共進會第三部第一類畜牛ノ審査概要ヲ報告スルコト左ノ如シ。

出品ハ全部種牝牛ニシテ内改良和種三十八頭、乳用種十六頭計五十四頭ナリ。改良和種ニ就テハ一般ニ体型資質稍整備シ向上進歩ノ績ヲ認ムルモ各個体ニツキ仔細ニ之レヲ審査スルニ体高ニ比シ体長ノ短キモノ、就中体中軀ノ短キモノ、背腰ノ狀態宜シカラズ背線不良ノモノ、臍ノ位置低ク狭クシテ後望ノ不良ナルモノ、肢蹄良好ナラザルタメ歩様不整ナルモノ、及被毛過黒粗硬ナルモノ等アリテ出品牛ノ不揃ヒナリシハ遺憾トスル處ナリ、尙飼養管理ノ狀態良好ナラザルモノ、營養惡シキモノ、調

教良整ナラザルモノ等散見セリ、之レヲ要スルニ各出品ヲ通ジ体型ノ整備資質ノ改善ニ留意シ飼養管理ヲ適正ナラシメ役肉蕃殖用牛トシテノ萬全ノ機能ヲ發揮セシメラレシコトヲ望ム。

乳用種ハ總ベテホルスタイン系種ニシテ一般ニ改良進歩ノ績ヲ認ムルト共ニ雜種又ハ血統明確ナラザルモノ、出陣ノ數僅少ナリシハ當業者ノ斯業ニ對スル熱度ヲ如實ニ物語ルモノニシテ欣快ニ堪ヘザル所ナリ、然リト雖モ之レヲ各出品ニ付キ仔細ニ觀察スルニ體軀菲薄ニシテ體積ニ乏シク粗野ナルモノ、乳房發育良好ナラザルモノ、容積過少ナルモノ又ハ乳房實質ノ硬化セルモノ等點在セリ、尙飼養管理狀態宜シカラザルモノ、即チ皮毛ノ拭掃乳房乳頭ノ手入レ蹄ノ手入等不良ノモノ少カラズ宜シク如上ノ諸點ニ留意シ品位ノ向上ト乳微ノ改善ニ一段ノ努力ヲ致サレシコトヲ望ム。

右審査ノ成績ニ基キ一等賞二點、二等賞五點、三等賞八點、四等賞十二點ヲ選拔擬賞シタリ。

昭和十二年五月四日

第二回産業共進會畜産審査長 岡山縣畜産組合聯合會技師從七位勳六等 岸田 鐸

### 式詞

小田郡南部十四ヶ町村農會聯合第二回産業共進會ハ本日ヲ以テ出品ノ審査了ヲ告ゲ、來賓諸賢ノ御臨場ヲ忝シ茲ニ褒賞授與ノ式典ヲ舉グルハ本會ノ最モ光榮トスル所ナリ。

而シテ審査長ヲ初メ審査員各位ハ斯業ニ多年ノ經驗アリ批評眼ノ高潔ナル人士ナルヲ以テ其ノ審査ノ公平ナルヲ保シ獎勵ノ實ヲ擧ケ改良ノ歩ニ就カシムルヲ得ルハ本職ノ堅ヲ信シテ疑ハサル所ナリ。

惟フニ今ヤ國歩艱難ニシテ外ニハ列國ノ競ツテ關稅ノ障壁ヲ設ケ邦貨ノ進出ヲ抑壓シ内ニハ産業經濟共ニ困憊ノ根源ヲ絶ユルニ至ラズ。斯ル刻下ニ處シ國運ノ隆昌ヲ期シ富強ノ實ヲ擧ケンニハ大ニ産業ヲ作興シテ國力ノ充實ヲ圖ラサルヘカラズ産業ニ從事スル諸氏ノ任務ハ眞ニ重且大ナリト謂フヘシ。之ヲ本會ノ成績ニ徴スルニ出品物ノ品質優良、技工精緻ノ域ニ進ミ前回ニ比シテ各般進業ノ進歩改良發達ノ跡歴々トシテ證スヘキモノアルヲ見ルハ國家ノ爲メ詢ニ慶賀スヘキナリ。

然リト雖モ世界産業ノ趨勢ハ決シテ現狀ニ安ンスヘキモノニ非ズ、當業者タル者益々奮勵シ精ヲ選ビ長ヲ採リ益々自重研鑽以テ多角的産業ノ振興ニ意ヲ盡シ隣保協力シテ地方物産ノ増殖ト之レカ品質ノ向上トニ努メ延テハ農山漁村ノ經濟更正ヲ圖リ非常時帝國ノ悠久ナル發展ニ寄與セラレ以テ本會開設ノ趣旨ニ副ハム事ヲ望ム。

茲ニ褒賞授與式ニ臨ミ一言ヲ述ベテ式詞トス。

昭和十二年五月四日

小田郡南部町村農會聯合第二回産業共進會會長 森 谷 信 夫

祝

辭

農村ノ振興ヲ圖リ國民生活ノ向上ニ努メ地方産業ノ發展ニ資スルハ吾國刻下ノ喫緊事タリ茲ニ於テ我カ系統農會ハ政府ノ施政ト相俟ツテ農村經濟更生ノ擴大強化ニ其主力ヲ注キ以テ非常時局ヲ打開セントスル時ニ際リ小田郡南部十四箇町村農會ハ我カ小田郡農會ト呼應聯携シテ第二回産業共進會ヲ開設シ本日ヲトシテ褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラル今出品物ヲ通觀スルニ遍ク地方ノ重要物産ヲ蒐集シテ町村産業ノ現勢ヲ一眸ノ下ニ展示シ以テ衆庶ノ發奮資料ヲ提供セリ洵ニ剴切ナル施設ニシテ地方産業ノ發達ニ貢獻スル所多大ナルモノアリ實ニ慶祝ニ堪ヘサルナリ、而シテ今回ノ産業共進會タルヤ其準備期間短カキニモ不拘

當局各位ノ勸獎最善ニ適ヒタルト當業者諸君ノ熱誠トニ因ク本郡産業ノ精華ヲ網羅セラレタルハ正ニ本會ノ成果ヲ立證スルモノニシテ吾人ノ深く快心事トスル所ナリ。

今ヤ産業界ノ趨向ハ其一部ニ生産制限ヲ叫レントスルカ如キ奇象ヲ呈シ愈々混沌トシテ未タ樂觀ヲ許サス。内外極メテ多事ナルノ時嚴正周密ナル審査ノ下ニ受賞ノ榮譽ヲ擔ハシハ各位カ多年勤勉努力ノ結晶ニシテ其光榮實ニ大ナリト謂フヘシ冀クハ審査ノ成績ニ鑑ミ汎ク自他ノ長短ヲ考覈シ益々自重研鑽以テ多角的産業振興ニ意ヲ致サレ隣保協力シテ地方物産ノ増殖ト之レカ品質ノ向上ニ努メラルルハ勿論延テ農山漁村ノ經濟更生ヲ圖リ非常時帝國ノ悠久ナル發展ニ寄與セラレ以テ本會開設ノ趣旨ニ副ハンコトヲ一言所懷ヲ叙シテ祝辭トス。

昭和十二年五月四日

小田郡農會會長 平 井 貞 五

祝

辭

黨風駘蕩タル本日ヲトシ小田郡南部町村農會聯合主催ニ係ル第一回共進會豫期以上ノ効果ヲ收メ茲ニ褒狀授與ノ盛典ヲ擧ケラル、惟フニ今ヤ國歩艱難ニシテ外ニハ列國ノ競ツテ關稅ノ障壁ヲ設ケ邦貨ノ進出ヲ抑壓シ内ニハ産業經濟共ニ疲弊困憊ノ根源ヲ斷ツルニ到ラズ、斯カル刻下ニ處シ産業ヲ勃興セシメ地方ノ振興ト更生ヲ計ルハ焦急喫緊ノ事ニ屬ス、即チ本共進會ノ如キハ洵ニ時運ニ適スルノ美舉ニシテ其規模必ズシモ大ナラズト雖モ短時日ノ間能ク目的ノ達成完キヲ得本郡産業ノ一新生面ヲ劃スルニ至ル、誠ニ慶賀ニ堪ヘズ而シテ出品ノ優良技巧ノ精緻品種ノ整齊等觀近其進歩發達ノ度著シキモノアルヲ見ル、然リト雖モ時勢ノ進展ニ伴ヒ各々精ヲ選ビ長ヲ採リテ以テ改善向上ノ資トセラレンコトヲ、冀クハ當業者殊ニ名譽アル褒賞ヲ獲タ













### 第九章 會期中の狀況

地方産業の振興を計り農業精神の高調を目標として開催せられたる本共進會は關係町村は申すに及ばず一般本地方當業者の注目を引き一般當業者は元より小學校等に於ても春季修學旅行を延期して本會開催中參觀せられたるもの多々あり。

會期中井笠線、本線及自動車等各種交通機關を利用し又は近接町村の人は徒歩にて會期中町内の人出は誠に未會有の事にて尙本會々期中本會以外に笠岡商工協會は『日光と國史大博覽會』を開催し在郷軍人會は海軍國防展覽會を妙乘寺に、大阪朝日新聞社は汎飛行寫眞展覽會を西明院に於て尙笠岡驛主催のポスター圖案展覽會は南昌院に於て開催せられ五月一日は遍照寺に於て弘法大師正御影供大法會稚兒練供養を執行せられ五月三日四日の兩日大仙院春季大祭あり、五月一日より十日に至る十日間商工祭、觀光祭の開催ありて笠岡美人の道中囃子、舞踊ありて晩春の笠岡は一大歡樂の坩堝と化し老若男女打ち連れて晩春の一日を遊び楽しむ大産業日の麗しさ。第一日は雨に祟られて人出少かりしも第二日以後は毎日快晴にて天氣都合申分なく會期も一日延長せられ期間中を通じての觀覽者も第一日五千人、第二日三萬五千人、第三日四萬人、第四日六萬人、第五日二萬人合計十六萬人と算せらるゝの大盛況を呈せり。

### 共進會關係各新聞記事拔萃

昭和十一年十一月三十日 山陽新聞朝刊

明春の五月

#### 産業共進會

郡南部の十四ヶ町村  
港町笠岡に開催

地方産業の振興を目ざして小田郡南部十四ヶ町村農會聯合主催第二回産業共進會を開催することになり二十八日朝十時から笠岡町役場で小田郡農會小川幹事、花本技師、森谷笠岡、小寺、今井、大塚大江、牧野北木島、武正神外の各町村農會長を初め技手等十六氏の關係協議會を開き開催の具体案に就て協議した。

この決定によると會期は明年五月一日から三日間笠岡町中備製糸工場跡を會場として、經費三千圓で開催し役員には會長森谷笠岡町農會長、副會長小寺今井、藤原大井兩村農會長、事務長に黒田笠岡町農會技手を推選し。また守屋小田郡聯盟會長、平井小田郡農會長、藤井小田郡畜産組合長、廣井笠岡商工協會々頭を顧問に推戴することになった。

明春五月、この産業共進會は港笠岡を賑はすことであらう。

昭和十一年十二月十九日 大阪朝日新聞朝刊

産業共進會と

#### 海の展覽會

明年笠岡町で豪華な催

來春觀光祭其他各機關の春の行事とタイアップし小田郡新山村以南十四ヶ町村農會聯合主催で笠岡町に開催する事になった第二回産業共進會につき關係町村では十五日笠岡町役場に會合具体的方法を決定した。それによると開催期間を五月一日より四日間とし第一部穀菜類、園藝品、農産加工品、第二部副業品、第三部畜牛、第四部水産品、第五部教育品一般参考品一千七百八十点、畜牛六十頭となすことに決定。

一方笠岡商工協會でもこれと前後して港灣改修實現を記念する『海の展覽會』開催の計劃を進めてゐるので、來春の笠岡は超豪華プロに塗り潰され沸き返る賑ひを豫想されてゐる。

昭和十二年四月九日 大阪朝日新聞

ミナト笠岡に

#### 展く絢爛の春

五月一日から豪華な催

港町にたけなはな爛漫調の春を讃へ『躍進笠岡』の成貌を描いて豪華な繪巻物を繰展げる小田郡笠岡町春の綜合行事は来る五月一日から五日まで、その花やかな幕を一齊に切つて落し催しに次ぐ催しに町を擧げて賑ひ通すことゝなつた。即ち郡南部十四ヶ町村農會聯合主催の産業共進會が先づトツプを切つて一般生産物、畜産共進會、農具實演會、教育参考品、麥稈眞田競技會の諸部門を各會場ごとに蓋開けするほか好奇心をそゝる海女實演と水族館、それに笠岡港外での遊覽飛行に人氣を吸収すればこれとタイアップで商工會では一日の觀光工祭に行事のスタートを切り、時節柄吳海軍より借用の國防軍器展、鐵道共催のポスター圖案展にこれまた前者と競演の多彩プロを展開。

一方商家では記念大賣出しを行ひ藝妓、女給に一般町民も参加して『踊れよ囃せ』と滿街に手踊り假裝行列を繰出し歡びをブチまける以上の外會期中に縣下水産大會が開催され町出身者による朝鮮産業展も開かれるので、全町極彩色の行事に塗りつぶされ空前の盛況が豫想されてゐる。

昭和十二年五月二日 合同新聞朝刊

南部十四ヶ町村農會聯合

### 産業共進會

國史博其他各種展覽會も

きのふ一齊に蓋明け

ゆく春の港町笠岡町を共進會一色の極彩で塗りつぶす小田郡南部十四ヶ町村農會聯合第二回産業共進會とタイアップして結構の至美日光廟と日本國史大博覽會を初め國防展、ポスター展の各種展覽會は一日一齊に花々しく蓋開けした。

會場及會期など左記の如くである、一日から十五日まで日光廟博招待券付きの春の賣出しが催されるほか十日間をあげて商工祭、觀工祭も行はれ餘興として道中囃し笠岡踊りも練り出される。また三日午後三時からKK放送の新人演藝發表大會も大和座で開催され、いやが上にも景氣のラツシユである。すでに一日遍照寺において弘法大師御影供大法會も稚兒練供養のなかに盛大に行はれたが大仙院春の大祭は三、四日の兩日で全く共進會のクライマックスであらうとされてゐる

▲第二回産業共進會 (會期四日間)

- 第一會場 (農産物同加工品) 中備製糸工場跡
- 第二會場 (教育参考館) 男子校
- 第三會場 (改良農具水族館) 古城山下 埋立

主催 十四ヶ町村農會聯合

▲商工祭及び觀光祭 (會期十日間)

道中囃 笠岡踊り 主催 笠岡商工協會

▲海軍國防展 (會期五日間)

妙乘寺 吳海軍鎮守府出品

光博のみ月末まで) なほ共進會は四日までのところ一日延期した。

### 産業共進會

#### 晴の褒賞授與式

笠岡町役場で舉行

笠岡町の春を飾る小田郡南部町村農會聯合主催共進會の褒賞授與式は四日笠岡町役場で郡内官民出品者参列のもとに舉行されたが、各種目の一等入賞者は左の通り。

|     |           |                 |              |
|-----|-----------|-----------------|--------------|
| 米   | 高木近之助(新山) | 麥               | 大江村役場        |
| 大豆  | 木山 桃郎(新山) | 胡瓜              | 原田孝一郎(笠岡)    |
| 同   | 藤原 禮一(金浦) | 甘藷              | 原田えい(北木島)    |
| 梨   | 小藪 助一(新山) | 麥稈原料            | 川相 繁雄(今井)    |
| 無花果 | 高田 米一(城見) | 煙草苗             | 松浦 賢一(城見)    |
| 胡瓜苗 | 田中 照次(笠岡) | 繩               | 桑田 秀光(金浦)    |
| 茄子  | 田中富士雄(笠岡) | 席               | 後藤 定一(今井)    |
| 醬油  | 水田 慶一(大井) | 手延製素麵           | 中野省吾(吉田)     |
| 鶏卵  | 馬上 信逸(今井) | 麥稈眞田競技島越千枝子(城見) |              |
| 同   | 藤原 禎太(金浦) | 同               | 佃 壽賀恵(陶山)    |
| 同   | 坂本 照義(陶山) | 同               | 吉牛 岡本 治郎(大江) |
| 同   | 平谷 龜一(新山) | 同               | 坂本 節夫(笠岡)    |

### 人出!! 記録破り

#### 港「笠岡」の觀光祭

おゝなんとといふ盛況、なんとといふ歡喜だ、輝く共進會觀光商工祭の第四日目四日を迎へた『ミナト笠岡』は全町に長く躍進萬華鏡にバツと咲き出た大輪の精華と化し催しはまさにそのクライマックスに達した、この日大仙院大祭に相當し省線や井笠線ですては八方からのバスでなだれ込んだ人波は約四萬、町内を合せ開町以來の記録で、道といふ道、街といふ街は人、人の渦が描く讚春大交響樂を奏で十指にあまる催しの饗宴場は參觀者で埋まり遊覽飛行機も終日亂舞、かくて空に祝福地に歡喜の書入第四日を終り會期は後一日となつた(日

主催 笠岡町在郷軍人分會

▲ポスター展覽會 (會期五日間)

南昌院 廣島鐵道局出品

主催 笠岡驛

▲日光廟と日本國史大博覽會 (會期三十日間)

中備製糸工場跡廣地

主催 笠岡商工協會

昭和十二年五月六日 大阪朝日新聞朝刊

除虫菊 篠原久満一(城見)

昭和十二年四月十五日 大阪毎日新聞記載

來月初め四日間

### 笠岡に産業共進會

各種の大會も開く

小田郡南部町村農會聯合主催産業共進會はかねて小田郡農會をはじめ關係各町村農會と種々協議準備中のところいよ、五月一日から四日間笠岡町を擧げて會場として盛澤山な催物を展覧して花々しく開催されることとなり催し物ならびに會場は左の通り決定された。

- 第一會場——一般生産物(中備製糸會社跡倉庫)
- 第二會場——教育參考館(笠岡男子小學校講堂)
- 第三會場——海女實演並に水族館(埋立地)

畜産共進會(縣廳道)  
農具實演會(中備製糸會場)

餘興演舞場(同所)

麥稈眞田競技場(笠岡大和座)

尙同期間内には特に招聘した水上飛行機が笠岡港外に飛來し遊覽飛行を演じ、また岡山縣水産大會その他各種大會を開催し大いに地方産業精神を宣揚することとなつたが笠岡町はこ

れら催しもので非常な雜踏を呈するであらう。

昭和十二年五月一日 同前記載

笠岡賑ひ開く

### お祭に共進會に博覽會に

盛澤山な豪華催し

かねて準備を急いでゐた笠岡商工祭、觀光祭、第二回小田郡南部産業共進會はいよ、けふ五月一日より十種目にわたる豪華な博覽會、展覧會、實演會、演藝大會、競技會等諸行事催物とともに觀光港の町笠岡の晩春にバツト咲き出した驛前大アーチをはじめとして滿街飾をこらし、全町内に散在した九ヶ所のこれら各會場には盛装された屋根から會旗が翻る、各會場は今日一齊に開かれるが共進會第一會場ならびに觀光祭、商工祭はともに午前中開場式および祭典を執行することとなつた、會期中の各催し物は左の通りである

- ▲日光廟と日本國史大博覽會、笠岡商工協會主催一日より三十一日迄中備製糸工場跡、商工祭、觀光祭一日午前九時笠神社で祭典執行後曙館で大祝賀會。日光博招待大賣出し一日より十五日間各商店一圓買上ごとに日光博招待補助券一枚進呈(二枚で無料入場)
- ▲海軍國防展覽會、在郷軍人笠岡町分會主催一日より五日間

妙乗寺。世界列強汎飛行寫眞展覽會、主催笠岡商工協會一日より五日間西明院。ポスター圖案展覽會、笠岡驛主催廣島鐵道局出品一日より五日間南昌院。笠岡美人道中囃し笠岡踊り市内各地ならびに驛前會場。遊覽飛行機招聘、宮島飛行場より來笠一日より四日間、希望者の搭乗を許す(笠岡港)

海女の實演、福紡工場裏濠端で實演一日より四日間。新入演藝發表大會三日午後五時より大和座。第二回産業共進會小田郡南部十四ヶ町村農會主催一日より四日間、第一會場——一般生産物(中備製糸跡倉庫)。第二會場——教育參考館(笠岡男子小學校講堂)。畜産共進會——三日(縣廳道)。農具實演會——古城山下埋立地。第三會場——麥稈眞田競技會二日午前十一時より正午まで(大和座)等々であるが同期間中遍照寺弘法大師大法會接待稚兒練供養(一日)大仙院春季大祭(三、四日兩日)笠岡驛中心の轢死者今回大供養(一日)笠岡驛前廣場)もあり全町擧げての大豪華繪巻が展開されるであらう。

昭和十二年五月四日 同前

### 見物ごとつと殺到

笠岡の催し大人氣

一日より花々しく開場した笠岡商工祭、觀光祭、第二回小田郡南部産業共進會は一日二日とも雨にたゞかれたにも拘らず

郡部よりの團體がお大師詣りを兼ねての見物客、さては春の旅を今日まで延期してゐた各學校の兒童生徒が雨にもめげず押掛け町内各會場に殺到、この雨ではと氣を落してゐた係員を驚かせた。二日午後になつて雨も上り今まで待ち切れなかつた町内並に近郊の人々が俄に市内に溢れ日光博、展覧會笠岡踊會場、水族館とも大入滿員の盛況、井笠鐵道もこの期間を取逃してはとどの列車もはみ出るばかりの桃積みで大童島からの見物客はどれもこれも別仕立の團體で市内各商店も相當の賣上げを見せた。遍照寺ならびに驛前轢死者供養會は一日午前十一時から盛大な大法會を行つた、なほ三、四兩日は大仙院春季大祭で雨のため飛來を見合せてゐた水上飛行機も三日飛來し新緑の空の下、非常な人出で賑はふであらう。

昭和十二年五月六日 同前

産業共進會

### 日延べの好況

笠岡大雜踏

開場四日間連日破れるばかりの入場者で大盛況を見せた小田郡南部産業共進會は最終日四日も未曾有の大混雑を極め、どの會場も日延を要求するので第一(農産館)第二(教育館)を一日間第三(海女館、水族館)農具實演場を二日間日延するに至



つた。

昭和十二年五月一日 岡山新聞

小田郡南部町村聯合

## 第二回産業共進會

國防展ポスター展も併催

昨日華々しく蓋開

小田郡南部十四ヶ町村聯合第二回産業共進會とタイアップして結構の至美日光廟と日本國史大博覽會を初め國防展、ポスター展の各種展覽會は一日一齊に花々しく蓋開けた會場及び會期など左記の如くである。

一日から十五日まで日光廟博招待券付きの春の賣出しが催されるほか十日間をあげて商工祭、觀光祭も行はれ、餘興として道中囃し笠岡踊りも繰出される、また三日午後三時からKK放送の新人演藝發表大會も大和座で開催され、いやが上にも景氣のラツシュである、すでに一日遍照寺において弘法大師御影供大法會も稚兒練供養のなかに盛大に行はれたが、大仙院春の大祭は三、四の兩日で全く共進會のクライマックスであらうとされてゐる。

第二回産業共進會(會期四日間)第一會場(農産物、同上加工品)中備製糸工場。第二會場(教育参考品)男子校。第三會場

(改良農具、水族館)古城山下埋立(主催十四箇町村聯合)商工祭及び觀光祭(會期十日間)道中囃し笠岡踊り(主催商工協會)海軍國防展(會期五日間)妙乗寺、吳海軍鎮守府出品(主催笠岡郷軍分會)、ポスター展覽會(會期五日間)南昌院、廣島鐵道局出品(主催笠岡驛)。日光廟と日本國史大博覽會(會期二十日間)中備製糸工場(主催商工協會)

昭和十二年五月三日

紅白の慢幕に飾られ

## 全町人の渦

博覽會と共進會等に賑ふ笠岡町

博覽會と共進會の蓋開けをした笠岡町の二日目は全街をあげて紅白の慢幕其他萬國旗を吊り交し午後からの快晴に恵まれ足元もかるやかに、各會場へと雪崩れて行く、中備製糸跡地を會場とする日光廟と日本國史博の美觀を賞するもの更に妙乗寺で開催の國防展ではかつての戦に護國の華と散つた勇士の遺品數々に涙を新にし、海岸通りで開催の水族館海女の賣演遊覽飛行など人氣をあつめ、驛前と洲崎通りの演舞場へは女給軍についで笠岡藝妓らが次から次へ出演、いやがうへにも賑しさをへる三日も會は開かれまさに笠岡町は人の洪水の如き有様である。

## 第十章 經費決算及殘務整理

本會は豫定の如く五月四日會期終了せしも一般の希望に依り更に二日間の延期をなし五月六日大盛會裡に閉會し翌七日即賣品の引渡し出品物の搬出をなし麥稈真田等の如きものは掛員に於て販賣の斡旋をなして處分し出品物の整理を終り、つゞいて各會場共裝飾品の取り除き陳列臺の取り片付けをなし、各方面よりの借入品の返却をなして會場を閉鎖し、斯くて會期中會場内に移轉しありし事務所も笠岡町役場内に移し爾後は専ら文書の整理購買物品の支拂ひ等をなしたり、これにて殘務整理も其の大部分を了せるを以て一先づ打切り爾後は笠岡町農會黒田技手の手許に於て會誌の編輯に着手せり。

越へて翌十三年七月關係各方面よりの補助金も交付されたるを以て七月二十六日決算承認に對する關係町村農會長會を開催し滿場異議なく左記の如く決算承認しこれにて本事業も無事結末を告げたり。斯くて殘務整理も全部終了せるを以て會誌を印刷し各上級団体、本會後援者其他の關係各方面に配付し絶大なる御援助に對する謝意を表し、また補助金を受けたる各方面へ事業成績報告をなしたり。

尙本會開催のために事務委員として多忙なる本務傍ら献身的に本會々務に盡瘁せられたる關係者及職員諸氏に對し記念品を贈呈し最後の本會々務を終了したり。

本會の經費は當初豫算に於て壹千五百五十圓を計上せられたるも事業の進行に伴ひ各方面とも豫算高の支出多く尙海女賣演場等の豫期せざる収入も加へられ、經費決算は當初豫算の倍額に近き三千九十九圓三十六錢に達したり、其の内譯左の如し。

一、收入之部

| 科目        | 預算額     | 決算額     | 増減      | 附記  |
|-----------|---------|---------|---------|---|
| 一 町村農會負擔金 | 三〇五〇〇   | 三〇五〇〇   | !       | 笠岡六拾圓、金浦町貳拾五圓、真鍋北木神島內神島外各拾五圓外八ヶ村各貳拾圓                      |
| 二 補助金     | 五八五〇〇   | 五六四〇〇   | 二一〇〇    | 岡山縣補助貳百貳拾九圓、小田郡農會百圓、笠岡町百圓、岡山縣真田同業組合七拾圓、縣郡畜産組合四拾圓、素麵組合貳拾五圓 |
| 三 寄附金     | 六六〇〇〇   | 九三六〇〇   | 二七六〇〇   |   |
| 商工會寄附金    | 五〇〇〇    | !       | 五〇〇〇    |   |
| 特志寄附金     | 六一〇〇〇   | 九三六〇〇   | 三二六〇〇   | 一般特志寄附金   |
| 四 雜收入     | !       | 一、二九四三六 | 一、二九四三六 | 海女館入場料、農具實演場敷地料其他   |
| 合計        | 一、五五〇〇〇 | 三、〇九九三六 | 一、五四九三六 |   |

二、支出之部

| 科目    | 預算額   | 決算額     | 増減    | 附記      |
|-------|-------|---------|-------|---------|
| 一 會場費 | 三三〇〇〇 | 一、二二九三〇 | 八七九三〇 | 會場諸費    |
| 二 賞品費 | 三〇〇〇〇 | 五一〇三八   | 二一〇三八 | 賞品及記念品費 |
| 三 賞狀費 | 五〇〇〇  | 六七八九    | 一七八九  | 賞狀印刷代   |

| 科目     | 預算額     | 決算額     | 増減      | 附記                |
|--------|---------|---------|---------|-------------------|
| 四 審查費  | 五〇〇〇    | 七四五〇    | 二四五〇    | 審查諸費              |
| 五 式典費  | 三〇〇〇〇   | 二九〇七二   | 九二八     | 式典費               |
| 六 通信費  | 三〇〇〇    | 三三三〇    | 二三〇     | 通信運搬費             |
| 七 消耗品費 | 一〇〇〇〇   | 九二八三    | 七二七     | 消耗品費              |
| 八 宣傳費  | 八〇〇〇    | 五二五〇四   | 四四五〇四   | 宣傳及會誌印刷費          |
| 九 雜費   | 一五〇〇〇   | 一六一九八   | 一一九八    | 諸雜費               |
| 一〇 分配金 | !       | 一一四四二   | 一一四四二   | 海女實演場共催笠岡漁業組合へ分配金 |
| 二 豫備費  | 一四〇〇〇   | !       | 一四〇〇〇   |                   |
| 合計     | 一、五五〇〇〇 | 三、〇九九三六 | 一、五四九三六 |                   |

384  
346

昭和十三年十月一日印刷  
昭和十三年十月五日發行

非賣品

岡山縣小田郡笠岡町大字笠岡二、九三三番地  
編輯兼發行者 黑田常五郎

岡山縣小田郡笠岡町大字笠岡三、〇五〇番地  
印刷者 横山一男

岡山縣小田郡笠岡町大字笠岡三、〇五〇番地  
印刷所 横山印刷所

岡山縣小田郡笠岡町役場内  
發行所 小田郡南部町村聯合第二回産業共進會

終

